

# 富山県における高等学校生徒とその保護者の進学意識について

笥田知義・奥田実・大谷芳夫・中哲裕・村田久美子・中川佳英・垣田邦子

(工学部・一般教育)

## 第1章 研究の目的及び調査実施方法の概要について

### 1. 研究の目的

#### (1) 調査の目的

富山県はその県民が教育にかかわる諸活動について極めて強い関心と熱意を持っているとされている。それは単に学校教育に限定されたものではなく、広く各領域にわたる生涯学習のさかんなことをみても理解できるものがある。なかでも、その教育的関心と熱意の高さを示すものとして、県内在住者の上級学校への進学意欲が挙げられている。これについて、地元の北日本新聞は富山県を「教育県」として、「昭和36年、それまで平均以下だった中卒者の進学率が全国平均を越え、45年には6位、49年には2位となり、56年から10年間は連続1位を保っている。」(『富山県の昭和誌』北日本新聞社編、平成3年2月、P.156)としている。また、朝日新聞は今年(1992年)10月19日朝刊で、「高校進学率日本一」として、「驚異的な高校進学率を記録している県がある。富山県で、今春は98.8%、女子は99.2%にもなった。これで12年連続日本一。」と述べている。さらに、天城勲文部省顧問は「富山県は伝統的に教育熱心な県で、特に高等教育への進学率では全国的にみて上位に位し、また国立大学への進学率は全国第1位であり、関東・関西への進学者もきわめて多い」(『富山県における新大学設置に関する調査報告書』。日本開発構想研究所編、昭和60年3月、P.1)と指摘している。

このように注目されている富山県の義務教育以後の高等教育への高い進学率の内容を高等学校教育の段階で究明するのが、本調査・研究の目的である。それは大別して、1) どのような目標で上級学校への進学を希望しているのか、2) どの程度の段階までの学校教育を希望しているのか、3) どの専門領域を希望しているのか、4) どの地域の学校を希望しているのか、5) 進学に関連して、外国語とその教育についてどのような意識を持っているか、などにかかわる事項に関

連することである。

#### (2) 先行研究との関連

富山県の高校生徒の進学意識については、これまでもいくつかの研究がある。なかでも、天城勲文部省顧問を委員長とする「富山県における新大学設立に関する委員会」による『富山県における新大学設立に関する調査報告書』(財団法人、日本開発構想研究所編、昭和60年3月)には本研究にかかわる事項を多くみることができる。しかし、この先行研究が行われた昭和59年(1984)年度と本研究の調査が実施された平成3年(1991)年度では、富山県における高校生の進学意識形成にかかわる社会的諸条件に変化があったと考える。従って、本研究は高校生徒の新しい社会的諸条件のもとでの進学意識の究明をめざしたものである。

社会的諸条件の変化は第1に日本全国で高校から大学に進学する所謂「18歳人口」が平成4(1992)年3月卒業まで増加する状況に対応して、全国的に大学・学部・学科の増設がおこなわれ、それに関連して大学入学者数が増加したこと、第2に富山県が昭和59(1984)年度に4年制大学が国立2校(富山大学・富山医科薬科大学)、短期大学が国・公・私立で4校であったが、平成3(1991)年度には4年制大学が公立・私立で3校増設されて全部で5校となったことなどから、年とともに大学進学希望者数が増加していると考えられることである。例えば、昭和54(1979)年度には県内の大学・短大数が4校でそこでの県内在住者の入学者数が2,087名であったのに対して、平成4(1992)年度が大学・短大数(県立大学を工学部と短大部で2校とした。)9校で県内在住の入学者が3,597名である。この状況変化後の現状から、県内高校生徒の進学意識を究明しようとしたものである。さらに、先行研究はいずれも生徒自身の進学意識を調査したものであるが、本調査は生徒の進学意識形成に多くの影響を与えていると考えられる保護者がつ子供(生徒)に対する進学意識や態度をも究明することを試みた。これは高校生徒に関して保護者から進学意識を明らかにして、富山県の高い進学率の要因を究明しようとしたものである。

### (3) 外国語教育に関する調査について

今日の日本の社会一般並びに大学も国際化状況にあることから、本調査は高校生・保護者の進学意識を究明するに際して、関連して外国語並びに外国語教育について志向を検討することとした。それは第1に社会一般の国際化を外国語教育とどのように関係づけているか、第2に富山県で「環日本海時代」を強調されているが、その地域条件から国際化と進学意識が関係づけられるものか、などを明確にしようとしたものである。

## 2. 調査の対象と方法

### (1) 調査対象

調査対象は調査目的から富山県下の全日制公立高等学校の第2学年生徒とその保護者とした。富山県全日制高等学校は公立44校・私立9校の計53校である。また、全生徒数は平成4(1992)年5月1日現在で公立全日制が37,703名、私立全日制が11,607名(『平成4年度、富山県学校便覧』富山県教育委員会編)である。しかし、私立高校9校は学区制がないこともあり、設置場所が富山市に5校、高岡市に3校、魚津市に1校と偏在している。この状況から、調査対象は生徒・保護者の居住地の地域的偏重を避けることなどから、公立高校のみに限定した。富山県の公立高校の学区制は全日制普通科以外の課程には指定がなく、全日制普通科だけが「富山県立高等学校通学区区域設定規則」によって通学区について県内を位置的に東から西にかけて4学区に区切られている。しかし、この学区制は隣接する学区の学校への受験・通学が可能とされ、実質的には全県一区の大学区制ではないが中学区と大学区の中間的性格をもつものである。従って、全日制公立高校普通科は地域的にも入試に対応する偏差値などでも極めて広範囲な生徒層をもつものと考えられる。以上の理由から、調査は第1-1表に示す公立高校17校に依頼し、その全面的な御協力によって実施された。

### (2) 調査の対象学年及び時期

調査対象学年は高校2年生とした。これは2年生が高校生活を一年間経過して、3年生ほどには受験体制による現実感がないが、また1年生ほどには現実離れた進学意識でもなく、比較的自由に具体的で現実的な進学意識を探るのに適当と考えたからである。このことは生徒だけでなく保護者にも同様で、比較的自由にしかもある程度の現実性をもって考えられると思ったからである。また、調査実施時期は1学期の後半で

第1-1表 調査対象校と有効回答者総数

| 高校名    | 有効回答者数(生徒) | 有効回答者数(保護者) |
|--------|------------|-------------|
| 新川地区   |            |             |
| 入善高校   | 221        | 215         |
| 魚津高校   | 299        | 305         |
| 滑川高校   | 218        | 186         |
| 雄山高校   | 178        | 140         |
| 富山地区   |            |             |
| 八尾高校   | 132        | 126         |
| 富山高校   | 396        | 390         |
| 富山中部高校 | 395        | 275         |
| 富山東高校  | 401        | 355         |
| 富山南高校  | 385        | 327         |
| 高岡地区   |            |             |
| 小杉高校   | 218        | 208         |
| 大門高校   | 356        | 327         |
| 新湊高校   | 311        | 313         |
| 高岡高校   | 392        | 357         |
| 伏木高校   | 340        | 213         |
| 砺波地区   |            |             |
| 砺波高校   | 262        | 263         |
| 井波高校   | 130        | 130         |
| 福岡高校   | 211        | 224         |
| 合計     | 4,845      | 4,354       |

6月下旬とした。これは1学期の中間試験以後から夏休みまでの期間が、新しい学年・学級にある程度はなじむときであり、また比較的到学校行事が少ない時期ということから選定したものである。

### (3) 調査用紙の作成及び結果の集計

前項で述べた問題意識に基づいて高校卒業後の高等教育に対する希望及び外国語教育に対する意識を調査するための質問項目を決定し調査用紙を作成した。高等教育に関する設問の作成は本学工学部の一般教育で人文・社会科学を担当する研究分担者(筧田、奥田、大谷、中)が国勢調査などの調査項目を参考にを行った。外国語教育については、英語及びドイツ語を担当する研究分担者(村田、中川、垣田)が質問項目作成にあたった。各グループで作成された質問項目を全員で検討・審議した後、研究代表者(筧田)が総括的に検討し、全員で執筆して最終稿を作成した。

作成された質問紙を本稿の末尾に資料として挙げる。各質問項目は生徒と保護者の間でできるだけ関連をとるよう配慮した。ただし、外国語教育に関しては生徒と保護者に同一の質問をする事が適当でない判断し、その内容を変更したものもある。

調査校別の質問紙の回収数を第1-1表に表示した。生徒では総計4,845人から回答を得たが、これは公立全日制の在籍者総数(37,703人)の約13%にあたる。ま

た保護者については総計4,354人から回答を得た。

第2章以降では設問に正しく答えていないもの及び無回答などを除いた有効回答について分析を行っている。従って各質問の回答総数は第1-1表に示す数値よりも少なくなっている場合がある。また、質問によっては複数回答(選択肢のなかから3つまで選ぶなど)を認めているものもあるが、その場合は有効回答者総数に対する当該選択肢の選択割合をデータとして提示した。従って、これらの設問に対する選択割合の総和は100%を越えている場合がある。所属クラス(文科系、理科系)、性別などの分析を行うにあたって、各条件別の有効回答者総数を基準として集計を行った場合には本文中でその旨を明記した。

(執筆担当：寛田 知義・教育学)

## 第2章 進学意識について

「わが国は学歴社会だ。」とよく言われる。この言説は何を意味するのであろうか。簡単に定義すると、学歴社会とは学校の経歴が偏重される社会である。個人の能力ではなく、彼のその経歴が、企業等での採用、昇進、給与体系の主たる基準となる社会を意味している。

諸外国と比較わが国がより学歴社会であると言えるのかどうか(石田浩「学歴と社会経済的地位の達成」『社会学評論』159号、1989、日本社会学会)、企業等において実際にどの程度学歴が重視されているのか、といった問題点もある。わが国の学歴主義は進展しているのであろうか。そのことに関して疑問を投げかける研究が注目されるようになった(竹内洋『競争の社会学』1981、世界思想社)。

企業等での、学歴神話の縮小・後退を事実であると認めたとしても、それが多かれ少なかれ人びとを依然としてとらえていることに疑問の余地はない。重要なのは一般に多くの人びとが、高学歴が競争社会のトラックを走るうえで有利に働くと、信じているかどうかという点であろう。われわれは、制度としての学歴主義(実像)と、その神話に対する学歴信仰(虚像)を峻別する必要があるだろう。そのうえで、学歴にどのような意味付与を人びとがおこなっているかを明らかにし、その虚像を分析しなければならない。

本章では、今日の高校生やその保護者が、果たしてどれほど学歴神話を信じているのだろうか、またその信仰と進路選択とはどのように関わるのかといった問題を解明するための手がかりを少しでも探り出したい。

まずは、今回富山県の高校2年生(4,845人)及びその保護者(4,354人)を対象とした進学意識調査の結果

を検討してみることにしたい。

ここでは、設問A-I(a)「卒業後の進路希望先」と設問A-I(b)「進路選択の理由」のデータに限って考察する。

### 1. 生徒の進学意識

大学ないし大学院まで進学を希望する生徒は、全体の82.1%を占め、短大進学希望を含めると90.9%(4,382人)と高率になる(第2-1表参照)。普通科及び理数科の生徒に調査対象を限ったとは言え、短大及び大学への実際の進学率及び進学者数を考えると、かなりの生徒が進学を希望しているにもかかわらず進学できない現状を示唆していると言えよう(1989年の富山県高卒者の短大・大学への進学率35.2%、進学者数6,044人『社会生活統計資料』1991、総務庁統計局)。

高校2年生の6月段階での調査であるから、この時

第2-1表 進路希望先

| 希望進路  | % (人数)       |
|-------|--------------|
| 大学    | 77.2(3,722)  |
| 短大    | 8.8(422)     |
| 専修学校  | 5.6(271)     |
| 大学院   | 4.9(238)     |
| 進学しない | 2.7(131)     |
| その他   | 0.8(37)      |
| 合計    | 100.0(4,781) |

点から卒業するまで、多くの生徒がアスピレーションレベル(希求水準)を下げなければならないだろう。まさにクール・ダウン(冷却)[竹内洋『立志苦学出世』1991、講談社現代新書]は、短期間に彼らの意識の中で進行していくことになる。(ただしクール・ダウンは、高等教育段階への進学に限ってであって、新たな進路への野心の加熱といった例も考えられる。)

次に進路選択の理由(3項目まで選択可)を、進路希望先別に見てみよう。大学へ進学する理由の主な項目を上位から順にあげると下記ようになる(第2-2表参照)。

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 「就職に有利だから」          | 40.8% |
| 「今後学生生活をさらに楽しみたいから」 | 30.4% |
| 「好きな職業につけるから」       | 29.2% |
| 「興味分野の勉強ができるから」     | 27.8% |
| 「教養を身につけるため」        | 24.9% |
| 「高い収入を得ることができるから」   | 17.6% |
| 「多くの友人ができると思うから」    | 14.8% |
| 「社会状況から考えて適当と思うから」  | 14.8% |

この結果に見られるように、50%を超える項目はなく、高校生の大学進学意識の多様性を物語っている。「実利」派、「エンジョイ」派、「勉学」派、「何となく」派と言った分類もできるかも知れないが、3項目までを選ぶ複数回答可の設問であることを考慮してみると、各個人の内部での価値の多層性を示しているとも言えよう。

学歴信仰という点に関してみると、卒業することが就職に有利であったり、高収入につながるから大学に進学すると考えている生徒は過半数を越していない。とは言え多くの生徒が、一般に大学卒という学歴は就職、収入にまったく関係ないと考えているかどうかは疑わしい。自らの進学の主要な動機として、意識していなかったと言うことであろう。

次に大学院への進学理由を見てみると(第2-2表参照)、大学進学とは異なり、

- 「興味分野の勉強ができるから」 60.8%
- 「就職に有利だから」 19.8%

のように、「実利」派が減り、「勉学」派が増える。それでは短大進学希望者はどうかと言うと(第2-2表参照)、

- 「興味分野の勉強ができるから」 17.3%
- 「自分の学力を考えて」 19.0%
- 「高い収入を得ることが出来るから」 5.5%

となり、「勉学」派が少ない。また、大学進学希望者では「自分の学力を考慮した」が2.3%にしか過ぎなかったが、それに較べるとかなり多い。2年生の6月段階において、自分の成績を認知することによるクール・ダウンが始まっているとみなせよう。

一方、「高収入」を理由にあげる生徒が大学進学希望者より少ないということは、短大卒が大学卒より収入の点で不利と考えている生徒が多いと言える。もっとも、その結果は短大進学希望者の大多数が女子であるゆえに、給与レベルの男女格差といった現実の認識にもよるのであろう。

そこで次に、進路及びその選択理由についての男女による違いに着目してみよう。

男子のうち短大進学希望者は1.0%だが、女子では17.1%と多く、その分大学及び大学院進学希望者が少なくなっている(第2-3表参照)。

進路選択の理由に関しては、大学進学希望者のうち「就職に有利」という理由をあげた生徒は、男子全体の

第2-2表 進路選択理由(進路希望先別)

| 進路選択理由   | 進学しない(人数)   | 専修学校(人数)    | 短大(人数)      | 大学(人数)       | 大学院(人数)     | その他(人数)    |
|----------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|------------|
| 好きな職業に就く | 7.0( 9)     | 44.0( 118)  | 21.3( 90)   | 29.2(1,086)  | 35.9( 85)   | 6.3( 2)    |
| 教養を身につける | 2.3( 3)     | 9.7( 26)    | 17.3( 73)   | 24.9( 924)   | 32.1( 76)   | 21.9( 7)   |
| 結婚に有利    | 4.7( 3)     | 0.4( 1)     | 3.1( 13)    | 1.2( 43)     | 2.1( 5)     | 0.0( 0)    |
| 就職に有利    | 0.8( 1)     | 24.3( 65)   | 39.3( 166)  | 40.8(1,516)  | 19.8( 47)   | 12.5( 4)   |
| 自分の学力    | 32.8( 42)   | 19.0( 51)   | 19.0( 80)   | 2.3( 85)     | 3.4( 8)     | 9.4( 3)    |
| 社会貢献の職業  | 0.8( 1)     | 6.0( 16)    | 3.6( 15)    | 5.2( 193)    | 11.0( 26)   | 6.3( 2)    |
| 社会で高い地位  | 3.1( 4)     | 0.4( 1)     | 1.2( 5)     | 7.0( 261)    | 8.9( 21)    | 0.0( 0)    |
| 高収入      | 3.9( 5)     | 3.7( 10)    | 5.5( 23)    | 17.6( 653)   | 10.5( 25)   | 3.1( 1)    |
| 親が勧めるから  | 7.0( 9)     | 4.5( 12)    | 8.5( 36)    | 6.9( 257)    | 3.0( 7)     | 6.3( 2)    |
| 男(女)だから  | 1.6( 2)     | 0.4( 1)     | 2.4( 10)    | 1.7( 64)     | 2.1( 5)     | 6.3( 2)    |
| 経済的理由    | 10.2( 13)   | 2.6( 7)     | 5.2( 22)    | 1.0( 37)     | 0.4( 1)     | 3.1( 1)    |
| 勉強が嫌い    | 50.8( 65)   | 10.4( 28)   | 2.8( 12)    | 0.2( 9)      | 1.7( 4)     | 6.3( 2)    |
| 親の職業を継ぐ  | 0.8( 1)     | 1.5( 4)     | 0.5( 2)     | 0.9( 33)     | 0.8( 2)     | 0.0( 0)    |
| 友人ができる   | 2.3( 3)     | 6.7( 18)    | 13.5( 57)   | 14.8( 548)   | 4.2( 10)    | 21.9( 7)   |
| 学生生活を楽しむ | 0.8( 1)     | 7.1( 19)    | 28.4( 120)  | 30.4(1,127)  | 11.4( 27)   | 3.1( 1)    |
| 〃 つまらない  | 7.8( 10)    | 0.4( 1)     | 0.2( 1)     | 0.2( 9)      | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 専門的技能    | 0.8( 1)     | 51.5( 138)  | 10.0( 42)   | 5.3( 198)    | 9.7( 23)    | 6.3( 2)    |
| 早く社会に出たい | 31.3( 40)   | 4.9( 13)    | 2.8( 12)    | 0.5( 20)     | 0.8( 2)     | 0.0( 0)    |
| 友達が進学する  | 0.0( 0)     | 0.4( 1)     | 9.7( 41)    | 7.4( 276)    | 0.8( 2)     | 6.3( 2)    |
| 友達が進学しない | 3.1( 4)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.1( 2)      | 0.4( 1)     | 0.0( 0)    |
| スポーツ芸術継続 | 4.7( 6)     | 3.0( 8)     | 2.6( 11)    | 4.0( 147)    | 2.1( 5)     | 9.4( 3)    |
| 興味分野の勉強  | 0.0( 0)     | 26.1( 70)   | 17.3( 73)   | 27.8(1,032)  | 60.8( 144)  | 18.8( 6)   |
| 社会状況から   | 7.8( 10)    | 6.3( 17)    | 16.1( 68)   | 14.8( 551)   | 8.0( 19)    | 0.0( 0)    |
| 進学役立たない  | 27.3( 35)   | 3.0( 8)     | 0.7( 3)     | 0.2( 7)      | 1.7( 4)     | 3.1( 1)    |
| なんとなく    | 15.6( 20)   | 7.1( 19)    | 6.6( 28)    | 6.3( 233)    | 3.4( 8)     | 18.8( 6)   |
| その他      | 4.7( 6)     | 1.5( 4)     | 1.7( 7)     | 1.8( 65)     | 2.1( 5)     | 31.3( 10)  |
| 合計       | 100.0( 128) | 100.0( 268) | 100.0( 422) | 100.0(3,713) | 100.0( 237) | 100.0( 32) |

46.5%であるのに、女子では33.1%であった。「高収入」を選択した者は男子では23.8%であるのに対して、女子では9.2%にしか過ぎない。女子で短大進学希望者では、さらに4.8%と落ち込む(第2-4表参照)。彼女達が、女性が男性と同じ学歴であっても低いポストや給与に甘んじなければならない現状をよく知っていることを、この結果は示唆している。

それに対して、大学進学希望者で「学生生活を楽しむ

第2-3表 進路希望先(性別)

| 希望進路  | 男子(人数)       | 女子(人数)       |
|-------|--------------|--------------|
| 大学    | 85.1(2,134)  | 68.7(1,586)  |
| 短大    | 1.0(26)      | 17.1(396)    |
| 専修学校  | 3.5(88)      | 7.9(183)     |
| 大学院   | 7.0(176)     | 2.7(62)      |
| 進学しない | 2.7(67)      | 2.8(64)      |
| その他   | 0.7(18)      | 0.8(19)      |
| 合計    | 100.0(2,509) | 100.0(2,310) |

第2-4表 進路選択理由(進路希望先×性別)

| 進路選択理由   | 大学<男子>(人数)   | 大学<女子>(人数)   | 短大<女子>(人数) |
|----------|--------------|--------------|------------|
| 好きな職業に就く | 26.4(562)    | 33.1(523)    | 21.2(84)   |
| 教養を身につける | 21.8(465)    | 29.0(458)    | 17.4(69)   |
| 結婚に有利    | 1.3(28)      | 0.9(15)      | 3.0(12)    |
| 就職に有利    | 46.5(991)    | 33.1(523)    | 38.9(154)  |
| 自分の学力    | 2.8(59)      | 1.6(26)      | 17.9(71)   |
| 社会貢献の職業  | 5.3(112)     | 5.1(81)      | 3.8(15)    |
| 社会で高い地位  | 9.9(211)     | 3.2(50)      | 0.5(2)     |
| 高収入      | 23.8(508)    | 9.2(145)     | 4.8(19)    |
| 親が勧めるから  | 8.3(177)     | 5.1(80)      | 8.8(35)    |
| 男(女)だから  | 2.8(59)      | 0.3(5)       | 2.5(10)    |
| 経済的理由    | 1.4(29)      | 0.5(8)       | 5.1(20)    |
| 勉強が嫌い    | 0.3(7)       | 0.1(2)       | 3.0(12)    |
| 親の職業を継ぐ  | 1.2(26)      | 0.4(7)       | 0.3(1)     |
| 友人ができる   | 10.8(231)    | 20.1(317)    | 14.4(57)   |
| 学生生活を楽しむ | 25.4(542)    | 37.0(585)    | 29.3(116)  |
| 〃 つまらない  | 0.4(8)       | 0.1(1)       | 0.3(1)     |
| 専門的技能    | 5.8(124)     | 4.7(74)      | 9.1(36)    |
| 早く社会にでたい | 0.8(17)      | 0.2(3)       | 2.8(11)    |
| 友達が進学する  | 7.6(161)     | 7.3(115)     | 10.1(40)   |
| 友達が進学しない | 0.0(1)       | 0.1(1)       | 0.0(0)     |
| スポーツ芸術継続 | 4.6(97)      | 3.2(50)      | 2.8(11)    |
| 興味分野の勉強  | 22.6(482)    | 34.8(550)    | 17.9(71)   |
| 社会状況から   | 14.6(312)    | 15.1(238)    | 16.4(65)   |
| 進学役立たない  | 0.3(6)       | 0.1(1)       | 0.5(2)     |
| なんとなく    | 7.5(160)     | 4.6(73)      | 6.3(25)    |
| その他      | 2.0(42)      | 1.5(23)      | 1.8(7)     |
| 合計       | 100.0(2,131) | 100.0(1,580) | 100.0(396) |

む」「友人ができるから」と言った項目を選択した男子はそれぞれ、25.4%、10.8%であるのに比べ、女子は37.0%、20.1%とかなり高い。「興味分野の勉強」では、男子22.6%であるのに対して、女子34.8%に達している(第2-4表参照)。

これらの結果は、男子が就職のためのプロセスまたは手段として大学進学を考える傾向が女子より強いものに対して、女子のほうは大学そのものを目的として、そこでエンジョイしたり勉強したいと思っている生徒が多いことを示唆している。男子のほうが学歴信仰が強いのである。

女子の短大進学希望者はどうかと言うと、「学生生活を楽しむ」29.3%、「友人ができるから」が14.4%と大

学進学希望者より低く、「自分の学力から考えて」17.9%となっている(第2-4表参照)。学生生活をエンジョイしようと思えば学生期間が長い4年制大学のほうがよいと考えるのは当然かも知れない。しかし、自分の成績が大学進学を思いとどまらせるという現実もデータが示唆している。

## 2. 保護者の進学意識

保護者の有効回答者数4,342人の内、生徒との続柄は、父親25.4%、母親74.3%という内訳であった(第2-5表参照)。保護者が希望する進路先は、生徒自身の進路希望先とほとんど差異はなく、両者はほぼ一致

第2-5表 保護者の生徒と続柄

| 続柄  | % (人数)       |
|-----|--------------|
| 父   | 25.4(1,097)  |
| 母   | 74.3(3,210)  |
| 祖父  | 0.0( 2)      |
| 祖母  | 0.2( 9)      |
| その他 | 0.1( 5)      |
| 合計  | 100.0(4,323) |

している(第2-6表参照)。各家庭で保護者と生徒の意見が一致しているかどうかを断定できないが、この統計結果を見る限り少なくとも卒業後の進路先に関しては、2年生の6月という段階で、両者間にほぼ合意が成立していると認められよう。

他方、進学希望の理由は保護者と生徒の間で、かなり食い違いがみられる(第2-7表参照)。大学への進学希望者のうち「教養を身につけてほしいから」が52.4%でもっとも多く、生徒の調査結果の24.9%と大きく異なる。また、「社会状況から考えて適当と思うから」も、28.0%と高い比率を示している。

他方、生徒の調査でもっとも比率の高かった「就職に有利」が21.1%、また「高収入を得ることができる」

第2-6表 保護者の進路希望先

| 希望進路  | % (人数)       |
|-------|--------------|
| 大学    | 76.7(3,187)  |
| 短大    | 9.9( 411)    |
| 大学院   | 5.3( 222)    |
| 専修学校  | 4.9( 203)    |
| 進学しない | 1.9( 77)     |
| その他   | 1.3( 55)     |
| 合計    | 100.0(4,155) |

4.7%と、生徒に較べるとかなり低い数字がでてきた。この結果からみる限り、実利的な卒業後の結果よりも、教養であるとか、子どもの大学入学、卒業がもたらす保護者及び子どもの威信(prestige)の維持ないし、増加を期待している傾向が大きいと言えよう。

保護者のほうが、大学卒業という学歴の、就職での即時的で実用的な効果にそれほど幻想を抱いていなくて、生徒のほうがその度合いが高い。その理由として、就職時や就職後今日では大学卒業と言った資格だけでは有利に働かない、つまりチャンスを保証してくれないといった現実を、保護者のほうが生徒よりもよく知っているといったことが考えられよう。保護者に、学

第2-7表 保護者の進路選択理由(進路希望先別)

| 進路選択理由   | 進学しない(人数)  | 専修学校(人数)    | 短大(人数)      | 大学(人数)       | 大学院(人数)     | その他(人数)    |
|----------|------------|-------------|-------------|--------------|-------------|------------|
| 好きな職業に就く | 6.7( 5)    | 32.7( 66)   | 18.4( 75)   | 26.7( 846)   | 30.2( 67)   | 18.9( 10)  |
| 教養を身につける | 4.0( 3)    | 12.4( 25)   | 41.7( 170)  | 52.4(1,658)  | 37.8( 84)   | 24.5( 13)  |
| 結婚に有利    | 2.7( 2)    | 0.5( 1)     | 1.5( 6)     | 0.7( 22)     | 0.5( 1)     | 0.0( 0)    |
| 就職に有利    | 2.7( 2)    | 30.7( 62)   | 18.4( 75)   | 21.1( 667)   | 5.4( 12)    | 9.4( 5)    |
| 子どもの学力   | 34.7( 26)  | 24.8( 50)   | 25.7( 105)  | 8.1( 255)    | 7.2( 16)    | 26.4( 14)  |
| 社会貢献の職業  | 1.3( 1)    | 14.9( 30)   | 7.1( 29)    | 16.2( 513)   | 33.8( 75)   | 3.8( 2)    |
| 社会で高い地位  | 0.0( 0)    | 0.5( 1)     | 0.7( 3)     | 3.3( 106)    | 6.8( 15)    | 0.0( 0)    |
| 高収入      | 0.0( 0)    | 1.5( 3)     | 1.7( 7)     | 4.7( 150)    | 5.0( 11)    | 3.8( 2)    |
| 子どもが強く希望 | 22.7( 17)  | 13.9( 28)   | 21.3( 87)   | 28.4( 900)   | 18.9( 42)   | 11.3( 6)   |
| 男(女)だから  | 9.3( 7)    | 5.9( 12)    | 11.0( 45)   | 5.5( 175)    | 5.9( 13)    | 1.9( 1)    |
| 経済的理由    | 37.3( 28)  | 8.9( 18)    | 15.9( 65)   | 0.9( 27)     | 0.5( 1)     | 7.5( 4)    |
| 勉強が嫌い    | 24.0( 18)  | 3.5( 7)     | 1.7( 7)     | 0.1( 3)      | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 親の職業を継ぐ  | 1.3( 1)    | 3.5( 7)     | 1.0( 4)     | 1.1( 36)     | 2.7( 6)     | 0.0( 0)    |
| 友人ができる   | 0.0( 0)    | 3.5( 7)     | 16.4( 67)   | 21.5( 680)   | 10.4( 23)   | 7.5( 4)    |
| 学生生活を楽しむ | 0.0( 0)    | 2.0( 4)     | 5.9( 24)    | 9.2( 290)    | 5.4( 12)    | 3.8( 2)    |
| 〃 つまらない  | 2.7( 2)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 1)      | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 専門的技能    | 1.3( 1)    | 58.4( 118)  | 10.5( 43)   | 4.5( 141)    | 6.3( 14)    | 3.8( 2)    |
| 早く社会に出す  | 20.0( 15)  | 1.0( 2)     | 1.0( 4)     | 0.1( 2)      | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 友達が進学する  | 0.0( 0)    | 1.5( 3)     | 6.4( 26)    | 3.7( 117)    | 0.9( 2)     | 5.7( 3)    |
| 友達が進学しない | 1.3( 1)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)      | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| スポーツ芸術継続 | 0.0( 0)    | 1.0( 2)     | 2.0( 8)     | 2.8( 90)     | 2.3( 5)     | 0.0( 0)    |
| 興味分野の勉強  | 0.0( 0)    | 17.3( 35)   | 16.7( 68)   | 22.6( 714)   | 53.6( 119)  | 20.8( 11)  |
| 社会状況から   | 12.0( 9)   | 17.3( 35)   | 25.0( 102)  | 28.0( 888)   | 13.5( 30)   | 0.0( 0)    |
| 進学役立たない  | 20.0( 15)  | 4.0( 8)     | 1.0( 4)     | 0.0( 1)      | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| なんとなく    | 2.7( 2)    | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 0.3( 10)     | 0.5( 1)     | 3.8( 2)    |
| その他      | 8.0( 6)    | 0.0( 0)     | 1.0( 4)     | 0.9( 28)     | 4.5( 10)    | 30.2( 16)  |
| 合計       | 100.0( 75) | 100.0( 202) | 100.0( 408) | 100.0( 3166) | 100.0( 222) | 100.0( 53) |

第2-8表(1) 保護者の進路選択理由（職業別—大学希望者のみ）

| 進路選択理由   | 農林漁業(人数)   | 運輸通信(人数)    | 商店自営(人数)    | 販売従事(人数)    | 会社経営(人数)    |
|----------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 好きな職業に就く | 25.8( 17)  | 31.0( 31)   | 26.5( 88)   | 25.2( 52)   | 22.0( 36)   |
| 教養を身につける | 48.5( 32)  | 44.0( 44)   | 52.1( 173)  | 49.0( 101)  | 53.7( 88)   |
| 結婚に有利    | 0.0( 0)    | 1.0( 1)     | 0.6( 2)     | 1.5( 3)     | 0.6( 1)     |
| 就職に有利    | 28.8( 19)  | 21.0( 21)   | 17.8( 59)   | 21.8( 45)   | 11.0( 18)   |
| 子どもの学力   | 9.1( 6)    | 8.0( 8)     | 9.6( 32)    | 8.3( 17)    | 7.9( 13)    |
| 社会貢献の職業  | 13.6( 9)   | 18.0( 18)   | 14.5( 48)   | 16.0( 33)   | 15.9( 26)   |
| 社会で高い地位  | 0.0( 0)    | 6.0( 6)     | 2.4( 8)     | 2.9( 6)     | 3.7( 6)     |
| 高収入      | 3.0( 2)    | 7.0( 7)     | 4.8( 16)    | 3.9( 8)     | 4.3( 7)     |
| 子どもが強く希望 | 31.8( 21)  | 33.0( 33)   | 25.6( 85)   | 27.2( 56)   | 22.6( 37)   |
| 男(女)だから  | 12.1( 8)   | 3.0( 3)     | 6.0( 20)    | 6.8( 14)    | 3.7( 6)     |
| 経済的理由    | 1.5( 1)    | 1.0( 1)     | 0.6( 2)     | 1.9( 4)     | 0.0( 0)     |
| 勉強が嫌い    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.3( 1)     | 0.5( 1)     | 0.0( 0)     |
| 親の職業を継ぐ  | 3.0( 2)    | 0.0( 0)     | 2.1( 7)     | 0.0( 0)     | 7.3( 12)    |
| 友人ができる   | 6.7( 11)   | 16.0( 16)   | 27.1( 90)   | 21.4( 44)   | 36.0( 59)   |
| 学生生活を楽しむ | 6.1( 4)    | 8.0( 8)     | 10.2( 34)   | 7.8( 16)    | 12.8( 21)   |
| 〃 つまらない  | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.3( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 専門的技能    | 6.1( 4)    | 6.0( 6)     | 3.6( 12)    | 4.9( 10)    | 3.7( 6)     |
| 早く社会に出す  | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.3( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 友達が進学する  | 1.5( 1)    | 2.0( 2)     | 2.4( 8)     | 3.4( 7)     | 3.0( 5)     |
| スポーツ芸術継続 | 3.0( 2)    | 4.0( 4)     | 4.2( 14)    | 2.9( 6)     | 3.0( 5)     |
| 興味分野の勉強  | 22.7( 15)  | 29.0( 29)   | 24.4( 81)   | 21.8( 45)   | 20.1( 33)   |
| 社会状況から   | 25.8( 17)  | 31.0( 31)   | 26.8( 89)   | 30.1( 62)   | 28.0( 46)   |
| 進学役立たない  | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| なんとなく    | 1.5( 1)    | 0.0( 0)     | 0.6( 2)     | 0.5( 1)     | 0.6( 1)     |
| その他      | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.9( 3)     | 1.5( 3)     | 1.8( 3)     |
| 合計       | 100.0( 66) | 100.0( 100) | 100.0( 332) | 100.0( 206) | 100.0( 164) |

第2-8表(2) 保護者の進路選択理由（進路希望先別—大学進学希望者のみ）

| 進路選択理由   | 事務従事(人数)    | 管理職(人数)     | 技能工作従事(人数)  | サービス業(人数)  | 専門職(人数)     | その他(人数)    |
|----------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|
| 好きな職業に就く | 28.5( 154)  | 26.3( 145)  | 25.9( 172)  | 36.9( 24)  | 26.2( 89)   | 27.3( 21)  |
| 教養を身につける | 55.1( 298)  | 57.6( 318)  | 48.1( 320)  | 41.5( 27)  | 56.2( 191)  | 45.5( 35)  |
| 結婚に有利    | 0.9( 5)     | 0.2( 1)     | 0.8( 5)     | 1.5( 1)    | 0.3( 1)     | 1.3( 1)    |
| 就職に有利    | 20.9( 113)  | 20.7( 114)  | 28.9( 192)  | 33.8( 22)  | 12.6( 43)   | 15.6( 12)  |
| 子どもの学力   | 7.4( 40)    | 7.4( 41)    | 8.1( 54)    | 4.6( 3)    | 7.4( 25)    | 15.6( 12)  |
| 社会貢献の職業  | 14.0( 76)   | 18.1( 100)  | 14.0( 93)   | 12.3( 8)   | 22.9( 78)   | 19.5( 15)  |
| 社会で高い地位  | 3.0( 16)    | 3.6( 20)    | 4.1( 27)    | 6.2( 4)    | 2.4( 8)     | 1.3( 1)    |
| 高収入      | 3.7( 20)    | 4.0( 22)    | 7.5( 50)    | 6.2( 4)    | 2.9( 10)    | 2.6( 2)    |
| 子どもが強く希望 | 27.7( 150)  | 24.8( 137)  | 32.6( 217)  | 27.7( 18)  | 29.7( 101)  | 33.8( 26)  |
| 男(女)だから  | 5.4( 29)    | 4.2( 23)    | 6.5( 43)    | 10.8( 7)   | 3.5( 12)    | 7.8( 6)    |
| 経済的理由    | 0.7( 4)     | 0.9( 5)     | 0.8( 5)     | 0.0( 0)    | 0.6( 2)     | 2.6( 2)    |
| 勉強が嫌い    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 親の職業を継ぐ  | 0.0( 0)     | 0.5( 3)     | 1.2( 8)     | 0.0( 0)    | 0.9( 3)     | 1.3( 1)    |
| 友人ができる   | 22.0( 119)  | 25.4( 140)  | 12.5( 83)   | 18.5( 12)  | 22.6( 77)   | 18.2( 14)  |
| 学生生活を楽しむ | 10.7( 58)   | 10.9( 60)   | 6.0( 40)    | 4.6( 3)    | 9.7( 33)    | 11.7( 9)   |
| 〃 つまらない  | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 専門的技能    | 4.3( 23)    | 2.5( 14)    | 5.0( 33)    | 7.7( 5)    | 6.5( 22)    | 5.2( 4)    |
| 早く社会に出す  | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 友達が進学する  | 4.4( 24)    | 2.7( 15)    | 6.2( 41)    | 4.6( 3)    | 2.1( 7)     | 2.6( 2)    |
| スポーツ芸術継続 | 2.6( 14)    | 2.4( 13)    | 2.4( 16)    | 3.1( 2)    | 3.2( 11)    | 3.9( 3)    |
| 興味分野の勉強  | 20.5( 111)  | 25.2( 139)  | 18.0( 120)  | 16.9( 11)  | 28.5( 97)   | 24.7( 19)  |
| 社会状況から   | 31.1( 168)  | 26.6( 147)  | 28.7( 191)  | 26.2( 17)  | 25.0( 85)   | 28.6( 22)  |
| 進学役立たない  | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 1.5( 1)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| なんとなく    | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)    | 0.9( 3)     | 0.0( 0)    |
| その他      | 1.1( 6)     | 0.7( 4)     | 0.5( 3)     | 1.5( 1)    | 1.2( 4)     | 0.0( 0)    |
| 合計       | 100.0( 541) | 100.0( 552) | 100.0( 665) | 100.0( 65) | 100.0( 340) | 100.0( 77) |

歴のインフレ現象は進んでるという認識があるのだ。  
 だからといって、親たちが大学進学をそれほど重視していないかというところではない。彼らは、ブルデューの言うところの社会での序列の源となる「文化資本」(P.ブルデュー、田原音和監訳『社会学の社会学』1991年、藤原書店)とみなせる「教養」の蓄積に、大学進学が役立つといった信仰をより強く持ち合わせているようだ。親たちは、大学卒業証書が、その蓄積の保証書であると信じているかのように思える。教養の蓄積などは測定する手段はない。それゆえにかえって、大学進学及び卒業がそれを裏書きするかのような神話を生み出すのだろう。

短大進学希望者では、「経済的理由」15.9% (生徒では5.2%) 「男(女)だから」11.0% (生徒では2.4%) が、生徒の回答と較べて顕著であった。「女の子は短大卒の学歴で十分」といった保護者の意識をうかがい知ることができよう。一方「社会状況から」25.0%と高いことから、「短大ぐらいは出なくては」といった意識も垣間見ることができる。

次に、世帯の主な職業別に、保護者のうちで大学進学希望者の選択理由を見てみたい(第2-8表参照)。「教養を身につけてほしいから」は、管理職57.6%、専門職56.2%、事務従事55.1%、会社経営53.7%、商店自営52.1%、販売従事49.0%、農林漁業48.5%、技能工・作業従事48.1%、運輸・通信44.0%、サービス業従事41.5%となる。

それに対して「就職に有利」では、サービス業33.8%、技能工・作業従事28.9%、農林漁業28.8%、販売従事21.8%、運輸通信21.0%、事務従事20.9%、管理職20.7%、商店自営17.8%、専門職12.6%、会社経営11.0%というように順序がほぼ逆の結果となる。

このことから、保護者の学歴信仰は世帯の職業と相関し、実利的効果に対する期待は全体で生徒の平均よりも下回ったが、威信スコア(SSM職業威信スコアによる。直井優・鈴木達三「職業の社会的評価の分析」『現代社会学』8、1977、講談社)の低いとされている職業によっては、期待の度合いはまだかなり強いことが明らかになった。したがって、職業威信スコアの高い職業の世帯の保護者ほど、実利的効果を期待する学

歴信仰が弱く、教養という文化資本を重視しているといった関係式を導き出せる。本調査では、制約があり保護者の学歴を問うことができなかったが、学歴に関しても似たような関係図式が出てきたことと思われる。例えば、高学歴者ほど学歴信仰が弱いといった図式が。

### 3. 偏差値と進学・学歴についての意識

富山県は、広域学区制度をとり、「輪切り選抜体制」を特徴とすると言われている。そこで調査対象の17高校を偏差値により5グループにわけて、高校入学時の偏差値の差異が大学進学の意識及び学歴意識のどのような違いと関連するのを探ることにした。使用した偏差値は、富山市内の塾の公開模試を資料にして作成された平成2年(1990年)度入試時のデータである(「高校入試情報」富山育英センター)。したがって、本調査対象の生徒の入学時の偏差値ということになる。各グループの偏差値及び調査対象者数はつぎのようになる。

- Aグループ (65~68) 1,183人
- Bグループ (61~63) 962人
- Cグループ (55~57) 952人
- Dグループ (50~52) 1,012人
- Eグループ (43~46) 736人

大学または大学院までの進学希望する者の比率は、偏差値グループ毎で下記の通りになった(第2-9表参照)。

- A (98.7%) B (97.1%) C (82.4%)
- D (71.9%) E (49.5%)

このうち大学または大学院(以下では大学とまとめる)進学希望者の進路選択の理由を、偏差値グループ別に調べることにしたい。すでに検討したように男子が女子より学歴信仰が強いことを考慮し、男子のみに限って比較してみることにする(第2-10表参照)。

- 「教養を身につけるため」
- A (26.1%) B (25.5%) C (19.9%)
- D (19.3%) E (18.8%)

第2-9表 進路希望先(偏差値グループ別)

| 偏差値グループ | 進学しない(人数) | 専修学校(人数)   | 短大(人数)     | 大学(人数)      | 大学院(人数)    | その他(人数)  |
|---------|-----------|------------|------------|-------------|------------|----------|
| A       | 0.8( 10)  | 0.1( 1)    | 0.2( 2)    | 86.3(1,018) | 12.4( 146) | 0.3( 3)  |
| B       | 0.8( 8)   | 0.5( 5)    | 1.0( 10)   | 91.8( 879)  | 5.3( 51)   | 0.4( 4)  |
| C       | 1.3( 12)  | 4.7( 45)   | 11.3( 107) | 80.3( 763)  | 2.1( 20)   | 0.3( 3)  |
| D       | 3.8( 38)  | 8.3( 84)   | 15.2( 153) | 70.3( 707)  | 1.6( 16)   | 0.8( 8)  |
| E       | 8.7( 63)  | 18.7( 136) | 20.6( 150) | 48.8( 355)  | 0.7( 5)    | 2.6( 19) |



第2-10表 進路選択理由（偏差値グループ別—大学または大学院進学希望者のうち男子のみ）

| 進路選択理由   | A (人数)      | B (人数)      | C (人数)      | D (人数)      | E (人数)      |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 好きな職業に就く | 32.0( 213)  | 26.7( 140)  | 26.9( 111)  | 25.5( 110)  | 17.3( 47)   |
| 教養を身につける | 26.1( 174)  | 25.5( 134)  | 19.9( 82)   | 19.3( 83)   | 18.8( 51)   |
| 結婚に有利    | 2.0( 13)    | 0.8( 4)     | 1.2( 5)     | 1.2( 5)     | 1.1( 3)     |
| 就職に有利    | 36.8( 245)  | 43.0( 226)  | 52.7( 217)  | 49.4( 213)  | 46.7( 127)  |
| 自分の学力    | 4.2( 28)    | 3.2( 17)    | 2.7( 11)    | 1.2( 5)     | 1.5( 4)     |
| 社会貢献の職業  | 7.8( 52)    | 5.3( 28)    | 2.4( 10)    | 6.3( 27)    | 4.8( 13)    |
| 社会で高い位置  | 9.8( 65)    | 8.8( 46)    | 8.3( 34)    | 11.6( 50)   | 12.5( 34)   |
| 高収入      | 18.3( 122)  | 18.5( 97)   | 25.0( 103)  | 29.9( 129)  | 28.7( 78)   |
| 親が勧めるから  | 5.3( 35)    | 4.6( 24)    | 9.0( 37)    | 12.5( 54)   | 11.8( 32)   |
| 男(女)だから  | 2.0( 13)    | 2.3( 12)    | 2.7( 11)    | 3.5( 15)    | 4.4( 12)    |
| 経済的理由    | 1.5( 10)    | 0.4( 2)     | 1.5( 6)     | 1.6( 7)     | 1.8( 5)     |
| 勉強が嫌い    | 0.5( 3)     | 0.4( 2)     | 0.2( 1)     | 0.7( 3)     | 0.4( 1)     |
| 親の職業を継ぐ  | 0.5( 3)     | 1.0( 5)     | 1.7( 7)     | 2.6( 11)    | 0.7( 2)     |
| 友人ができる   | 10.7( 71)   | 11.0( 58)   | 11.7( 48)   | 9.7( 42)    | 6.6( 18)    |
| 学校生活を楽しむ | 20.7( 138)  | 24.0( 126)  | 23.5( 97)   | 27.6( 119)  | 30.1( 82)   |
| 〃 つまらない  | 0.2( 1)     | 0.6( 3)     | 0.0( 0)     | 0.5( 2)     | 0.7( 2)     |
| 専門的技能    | 6.3( 42)    | 9.1( 48)    | 3.6( 15)    | 6.7( 29)    | 2.9( 8)     |
| 早く社会にでたい | 0.8( 5)     | 1.7( 9)     | 0.2( 1)     | 0.9( 4)     | 0.0( 0)     |
| 友達が進学する  | 5.1( 34)    | 5.3( 28)    | 9.2( 38)    | 9.5( 41)    | 7.7( 21)    |
| 友達が進学しない | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.5( 2)     | 0.0( 0)     |
| スポーツ芸術継続 | 3.6( 24)    | 2.5( 13)    | 4.1( 17)    | 5.8( 25)    | 8.1( 22)    |
| 興味分野の勉強  | 32.6( 217)  | 25.0( 131)  | 23.8( 98)   | 21.3( 92)   | 17.6( 48)   |
| 社会状況から   | 14.7( 98)   | 13.5( 71)   | 16.7( 69)   | 13.0( 56)   | 12.1( 33)   |
| 進学役立たない  | 0.3( 2)     | 0.2( 1)     | 0.5( 2)     | 0.5( 2)     | 0.7( 2)     |
| なんとなく    | 6.9( 46)    | 6.9( 36)    | 7.3( 30)    | 6.5( 28)    | 9.6( 26)    |
| その他      | 2.6( 17)    | 1.7( 9)     | 1.9( 8)     | 1.9( 8)     | 1.8( 5)     |
| 合計       | 100.0( 666) | 100.0( 525) | 100.0( 412) | 100.0( 431) | 100.0( 272) |

「高い収入を得ることができるから」  
 A (18.3%) B (18.5%) C (25.0%)  
 D (29.9%) E (28.7%)

「就職に有利だから」  
 A (36.8%) B (43.0%) C (52.7%)  
 D (49.4%) E (46.7%)

「学生生活を楽しむため」  
 A (20.7%) B (24.0%) C (23.5%)  
 D (27.6%) E (30.1%)

以上のデータから、まず大学進学に文化資本獲得のためと言った意味付与を行う傾向は、偏差値の高い高校の生徒ほど大きいことがわかる。同時に、このグループの生徒は、実利的効果を期待する学歴信仰が弱い。

それに対して、大学卒業という学歴が、良い就職や高収入につながるとした実利的な意味付与を行う傾向は、CグループやDグループの高校の生徒に顕著である。つまり、これらの偏差値の中間及びその下の高校の生

徒の学歴信仰が強いと言えよう。

すでに述べたようにこの設問が複数回答可能な質問であり、実際にほとんどの生徒が複数回答していることを考慮すると、生徒の学歴及び大学進学についての価値意識は多様であり、個人内部で多層性をもつといえよう。大学進学に対して、一方でその学歴の効用を期待し、また学生生活を楽しむことや教養を身につけることも期待する。

ところが、その価値の多層性は、これまで分析してきたように性別や、高校（偏差値）の違いによって異なった組み合わせや、偏り、色合いを呈示しているようだ。そしてそれは、彼らの家族や学校また仲間集団での経験の差異によってもたらされたものにほかならない。今後、生徒の学歴意識が何故異なった様相を呈するのかを解明するために、その組成に関与すると思われる学校や家族での下位文化についての研究が必要となるだろう。生徒達が学歴に対して異なった意味付与をすることを解く鍵が、その下位文化に隠されているにちがいない。（執筆担当：奥田 実・社会学）

### 第3章 職業及び専門分野について

本章は、生徒とその保護者が将来どのような職業に就きたい、就かせたいと考えているか、及び短期大学以上の高等教育においてどのような専門分野の教育を受けたい、受けさせたいと考えているかに関する調査結果をもとに、進学意識の内容を検討する。

#### 1. 生徒に対する調査結果

##### (1) 希望する職業及びクラス・性別との関係(質問項目A-II)

本質問では、将来就きたいと希望する職業について「わからない」、「その他」を含む19項目の中から1項目を選択するよう求めた。

##### a. 全体的傾向

希望する職業別の集計結果を第3-1表に示す。生徒の将来就きたい職業に関して最も多かった回答は「わからない」の20.8%であり、高校2年の6月下旬時点では、卒業後の進路選択について明確な希望を持つに至らない生徒がかなりの割合を占めていることがわかる。ただし、次項で見ると「わからない」の割合はクラス・性別によって異なる。

具体的な希望を持っている生徒(3,788人)については、第1位が会社員(16.1%)、第2位が技術者(12.3%)、第3位が公務員(8.2%)、第4位が教育関係(8.2%)

第3-1表 希望する職業

| 職業名     | % (人数)       |
|---------|--------------|
| わからない   | 20.8( 993)   |
| 会社員     | 16.1( 768)   |
| 技術者     | 12.3( 588)   |
| 公務員     | 8.2( 392)    |
| 教育関係    | 8.2( 390)    |
| 医療関係    | 7.9( 380)    |
| その他     | 5.2( 250)    |
| 研究者     | 4.0( 192)    |
| 建築・デザイン | 3.8( 183)    |
| 新聞・雑誌記者 | 3.2( 152)    |
| 法律関係    | 1.9( 89)     |
| 芸術家     | 1.5( 74)     |
| スポーツ関係  | 1.4( 65)     |
| 航空関係    | 1.3( 62)     |
| 商店自営    | 1.2( 55)     |
| 会社経営    | 1.1( 53)     |
| 会計士・税理士 | 1.0( 48)     |
| 美容・理容   | 0.8( 38)     |
| 農林漁業    | 0.2( 9)      |
| 合計      | 100.0(4,781) |

%)となっており、以上で過半数を占めている(2,138人:56.4%)。全体的傾向で見ると、公務員を希望する生徒の割合は余り高くなく、いわゆる「官公」志向はみられない。

##### b. クラス・性別との関係

クラス別及び男女別の集計結果を第3-2表に示す。(以下の第3-2、3-3表中の数値は各条件毎の有効

第3-2表 希望する職業(クラス別及び性別)

| 希望職業    | 文科系(人数)      | 理科系(人数)      | その他(人数)    | 男子(人数)       | 女子(人数)       |
|---------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|
| わからない   | 23.8( 606)   | 17.2( 372)   | 18.5( 12)  | 16.9( 422)   | 24.9( 568)   |
| 会社員     | 19.9( 507)   | 11.7( 254)   | 9.2( 6)    | 17.5( 437)   | 14.5( 330)   |
| 技術者     | 2.5( 64)     | 23.9( 518)   | 9.2( 6)    | 21.0( 523)   | 2.8( 65)     |
| 公務員     | 10.6( 270)   | 5.4( 116)    | 7.7( 5)    | 8.4( 208)    | 8.0( 183)    |
| 教育関係    | 11.3( 286)   | 4.7( 101)    | 4.6( 3)    | 3.8( 94)     | 13.0( 296)   |
| 医療関係    | 2.2( 57)     | 14.7( 319)   | 6.2( 4)    | 4.0( 100)    | 12.3( 280)   |
| その他     | 6.8( 174)    | 3.1( 67)     | 10.8( 7)   | 3.8( 95)     | 6.7( 153)    |
| 研究者     | 1.5( 39)     | 6.9( 150)    | 4.6( 3)    | 5.1( 126)    | 2.9( 66)     |
| 建築・デザイン | 2.2( 56)     | 5.6( 122)    | 7.7( 5)    | 4.5( 113)    | 3.1( 70)     |
| 新聞・雑誌記者 | 5.3( 135)    | 0.7( 16)     | 1.5( 1)    | 2.6( 66)     | 3.8( 86)     |
| 法律関係    | 3.1( 79)     | 0.4( 8)      | 3.1( 2)    | 2.3( 57)     | 1.4( 32)     |
| 芸術家     | 2.2( 57)     | 0.7( 15)     | 3.1( 2)    | 1.6( 40)     | 1.5( 34)     |
| スポーツ関係  | 1.1( 28)     | 1.6( 34)     | 4.6( 3)    | 2.3( 57)     | 0.4( 8)      |
| 航空関係    | 1.5( 39)     | 1.0( 22)     | 1.5( 1)    | 1.0( 25)     | 1.6( 37)     |
| 商店自営    | 1.4( 35)     | 0.8( 17)     | 4.6( 3)    | 1.8( 44)     | 0.5( 11)     |
| 会社経営    | 1.5( 37)     | 0.7( 15)     | 1.5( 1)    | 1.8( 46)     | 0.3( 7)      |
| 会計士・税理士 | 1.5( 39)     | 0.4( 8)      | 1.5( 1)    | 1.0( 25)     | 1.0( 23)     |
| 美容・理容   | 1.2( 31)     | 0.3( 7)      | 0.0( 0)    | 0.2( 6)      | 1.4( 32)     |
| 農林漁業    | 0.1( 3)      | 0.3( 6)      | 0.0( 0)    | 0.3( 7)      | 0.1( 2)      |
| 合計      | 100.0(2,542) | 100.0(2,167) | 100.0( 65) | 100.0(2,491) | 100.0(2,283) |

第3-3表 希望する職業（クラス×性別）

| 職業名     | 文科系男子(人数)    | 文科系女子(人数)    | 理科系男子(人数)    | 理科系女子(人数)   | その他男子(人数)  | その他女子(人数)  |
|---------|--------------|--------------|--------------|-------------|------------|------------|
| わからない   | 19.2( 193)   | 26.9( 413)   | 15.6( 228)   | 20.5( 144)  | 4.3( 1)    | 26.2( 11)  |
| 会社員     | 24.0( 241)   | 17.3( 266)   | 13.2( 193)   | 8.7( 61)    | 13.0( 3)   | 7.1( 3)    |
| 技術者     | 4.2( 42)     | 1.4( 22)     | 32.5( 475)   | 6.1( 43)    | 26.1( 6)   | 0.0( 0)    |
| 公務員     | 12.9( 130)   | 9.1( 140)    | 5.2( 76)     | 5.7( 40)    | 8.7( 2)    | 7.1( 3)    |
| 教育関係    | 6.5( 65)     | 14.4( 221)   | 1.9( 28)     | 10.4( 73)   | 4.3( 1)    | 4.8( 2)    |
| 医療関係    | 0.2( 2)      | 3.6( 55)     | 6.7( 98)     | 31.4( 221)  | 0.0( 0)    | 9.5( 4)    |
| その他     | 5.2( 52)     | 7.9( 122)    | 2.9( 43)     | 3.4( 24)    | 0.0( 0)    | 16.7( 7)   |
| 研究者     | 2.4( 24)     | 1.0( 15)     | 6.9( 101)    | 7.0( 49)    | 4.3( 1)    | 4.8( 2)    |
| 建築・デザイン | 1.7( 17)     | 2.5( 39)     | 6.5( 95)     | 3.8( 27)    | 4.3( 1)    | 9.5( 4)    |
| 新聞・雑誌記者 | 5.2( 52)     | 5.4( 83)     | 0.9( 13)     | 0.4( 3)     | 4.3( 1)    | 0.0( 0)    |
| 法律関係    | 5.0( 50)     | 1.9( 29)     | 0.3( 5)      | 0.4( 3)     | 8.7( 2)    | 0.0( 0)    |
| 芸術家     | 2.6( 26)     | 2.0( 31)     | 0.9( 13)     | 0.3( 2)     | 4.3( 1)    | 2.4( 1)    |
| スポーツ関係  | 2.5( 25)     | 0.2( 3)      | 2.1( 31)     | 0.4( 3)     | 4.3( 1)    | 4.8( 2)    |
| 航空関係    | 0.5( 5)      | 2.2( 34)     | 1.4( 20)     | 0.3( 2)     | 0.0( 0)    | 2.4( 1)    |
| 商店自営    | 2.6( 26)     | 0.6( 9)      | 1.1( 16)     | 0.1( 1)     | 8.7( 2)    | 2.4( 1)    |
| 会社経営    | 3.2( 32)     | 0.3( 5)      | 0.9( 13)     | 0.3( 2)     | 4.3( 1)    | 0.0( 0)    |
| 会計士・税理士 | 1.8( 18)     | 1.4( 21)     | 0.5( 7)      | 0.1( 1)     | 0.0( 0)    | 2.4( 1)    |
| 美容・理容   | 0.3( 3)      | 1.8( 28)     | 0.2( 3)      | 0.6( 4)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    |
| 農林漁業    | 0.2( 2)      | 0.1( 1)      | 0.3( 5)      | 0.1( 1)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    |
| 合計      | 100.0(1,005) | 100.0(1,537) | 100.0(1,463) | 100.0( 704) | 100.0( 23) | 100.0( 42) |

回答総数に対する割合であり、その総和は100%である。

文科系では「わからない」が第1位(23.8%)、第2位が会社員(19.9%)、以下、教育関係(11.3%)、公務員(10.6%)などの割合が多くなっている。一方、理科系では第1位が技術者(23.9%)で、「わからない」(17.2%)、医療関係(14.7%)、会社員(11.7%)などが続いている。

性別では、男子が技術者(21.0%)、会社員(17.5%)、「わからない」(16.9%)の順になっているのに対し、女子では「わからない」(24.9%)が最も多く、会社員(14.5%)、教育関係(13.0%)、医療関係(12.3%)が続いている。

以上の結果から、職業に対する希望が固っていない生徒の割合は、文科系で高く、女子で高いことが推測されるが、クラス×性別のクロス集計を行った第3-3表の結果はこれを裏付けている。ここでは、文科系男子、理科系男子・女子のいずれにおいても、何らかの具体的な職業名をあげたものの割合が第1位となっているのに対し、文科系女子では「わからない」と答えたものが約1/4を占めて最も多くなっている。「会社員」、「技術者」と答えたものがさらに細かい職種について具体的なイメージを持っているかどうかは問題であろうが、全体としては、文科系女子において職種に関する希望が明確でない傾向にあるといえよう。

第3-3表ではさらに、同一クラスの中でも性別によって希望する職種が異なることが示されている。「わからない」を除いて、文科系の男子では会社員(24.0%

%)及び公務員(12.9%)が主な職業としてあげられているが、女子では会社員(17.3%)に続いて教育関係(14.4%)が選ばれており、公務員(9.1%)は第3位となっている。一方理科系の男子では、技術者(32.5%)が高率を占めており、続いて会社員(13.2%)が選択されているのに対し、女子では医療関係(31.4%)が最も多く、続いて教育関係(10.4%)、会社員(8.7%)が選択されている。

以上の結果から、男子では文科系は、デスクワーク分野の職業を、理科系は技術系の分野の職業を希望する傾向にあるといえる。女子の特徴として、文科系、理科系ともに教育関係の職業に対する希望が比較的高いこと、理科系での希望職種が医療関係に集中していることがあげられる。理科系女子の医療分野志向については希望する学部との関連から(2)b項で再度触れる。

(2) 希望する専門分野・学部及びクラス・性別との関係(質問項目B-I)

本質問では、短期大学以上の高等教育においてどのような専門分野・学部の教育を受けたいかについて、「その他」を含む17項目の内から最大3項目を選択するよう求めた。

a. 全体的傾向

希望する学部別の集計結果を第3-4表に示す。表中の数値は有効回答者総数(4,347人)に対する当該学

第3-4表 進学を希望する学部

| 学部名    | % (人数)      |
|--------|-------------|
| 文学部    | 29.4(1,279) |
| 工学部    | 28.5(1,240) |
| 経済学部   | 25.0(1,087) |
| 理学部    | 19.6( 851)  |
| 外国語学部  | 18.8( 819)  |
| 教育学部   | 15.1( 657)  |
| 法学部    | 11.3( 492)  |
| 国際関係学部 | 7.8( 337)   |
| 芸術学部   | 7.5( 327)   |
| 薬学部    | 6.6( 286)   |
| 医学部    | 5.5( 241)   |
| 医療技術学部 | 4.9( 215)   |
| 家政学部   | 4.5( 194)   |
| 社会福祉学部 | 4.0( 176)   |
| 体育学部   | 3.9( 168)   |
| 農学部    | 3.5( 154)   |
| その他    | 1.1( 47)    |

部の選択割合である。

希望する学部は文学部、工学部がほぼ同率で30%近い生徒がこれらの学部を第3希望までにあげている。続いて経済学部(25.0%)、理学部(19.6%)、外国語学部(18.8%)、教育学部(15.1%)、法学部(11.3%)に対する希望が高く、以上の7学部で有効回答総数(8,570)の75%(6,425)を占めている。これらの学部は、卒業後の職業選択の幅が比較的広いこと、大規模な総合大学に比較的早くから設置されているものが多く高校生にも知名度が高いという点が選択の理由であると考えられる。

第3-5表 進学を希望する学部(クラス別及び性別)

| 学部名    | 文科系(人数)      | 理科系(人数)      | その他(人数)     | 男子(人数)       | 女子(人数)       |
|--------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 文学部    | 25.9(1,175)  | 2.2( 87)     | 12.1( 15)   | 11.6( 522)   | 18.6( 755)   |
| 工学部    | 0.8( 35)     | 30.7(1,193)  | 8.9( 11)    | 24.2(1,094)  | 3.6( 145)    |
| 経済学部   | 17.8( 808)   | 6.7( 262)    | 11.3( 14)   | 15.5( 700)   | 9.5( 384)    |
| 理学部    | 0.4( 16)     | 21.3( 828)   | 5.6( 7)     | 14.1( 636)   | 5.3( 215)    |
| 外国語学部  | 15.4( 698)   | 2.6( 100)    | 16.9( 21)   | 4.9( 219)    | 14.8( 600)   |
| 教育学部   | 10.0( 454)   | 4.9( 190)    | 10.5( 13)   | 4.8( 215)    | 10.9( 442)   |
| 法学部    | 9.3( 424)    | 1.6( 61)     | 4.8( 6)     | 7.7( 346)    | 3.6( 145)    |
| 国際関係学部 | 5.8( 265)    | 1.5( 60)     | 8.9( 11)    | 2.7( 121)    | 5.3( 215)    |
| 芸術学部   | 5.3( 240)    | 2.0( 79)     | 6.5( 8)     | 2.7( 122)    | 5.1( 205)    |
| 薬学部    | 0.1( 4)      | 7.2( 281)    | 0.8( 1)     | 1.8( 83)     | 5.0( 203)    |
| 医学部    | 0.2( 8)      | 6.0( 232)    | 0.8( 1)     | 3.3( 151)    | 2.2( 90)     |
| 医療技術学部 | 0.9( 41)     | 4.3( 169)    | 3.2( 4)     | 0.7( 33)     | 4.5( 181)    |
| 家政学部   | 2.6( 117)    | 1.8( 71)     | 4.8( 6)     | 0.1( 5)      | 4.7( 189)    |
| 社会福祉学部 | 3.0( 136)    | 1.0( 40)     | 0.0( 0)     | 1.1( 49)     | 3.1( 127)    |
| 体育学部   | 1.8( 84)     | 2.1( 81)     | 2.4( 3)     | 2.6( 118)    | 1.2( 50)     |
| 農学部    | 0.2( 9)      | 3.7( 145)    | 0.0( 0)     | 1.8( 82)     | 1.8( 72)     |
| その他    | 0.7( 31)     | 0.3( 13)     | 2.4( 3)     | 0.4( 16)     | 0.8( 31)     |
| 合計     | 100.0(4,545) | 100.0(3,892) | 100.0( 124) | 100.0(4,512) | 100.0(4,049) |

これに対し、芸術学部、医学・薬学部、社会福祉学部、体育学部など学部選択が職業の選択と1対1に対応する分野に対する希望は低くなっている。また、最近になって設置されるようになった国際関係学部に対する希望が比較的高いこと、農学部に対する希望が「その他」を除いて最も低いことが注目される。特に農学部に関しては、近年遺伝子操作などを含むバイオテクノロジー関連の分野が研究・応用両面で社会的には注目されているが、高校生の希望にはそのような傾向は現れていない。これは1つには、専門分野と学部の対応に関する認識が充分でないことにも原因があると思われる。

#### b. クラス・性別との関係

クラス別、男女別の集計結果を第3-5表に示す(以下の第3-5~7表中の数値は各条件ごとの有効回答総数に対する割合である)。

文科系では文学部(25.9%)、経済学部(17.8%)、外国語学部(15.4%)に対する希望が多く、この3学部で有効回答の半数を越えている。これら3学部に教育学部(10.0%)、法学部(9.3%)がほぼ同率で続いている。理科系では特定学部への集中がより顕著で、工学部(30.7%)、理学部(21.3%)の2学部で有効回答の半数を越えており、その他の学部への希望はいずれも10%以下の低い値となっている。

性別では、男子が工学部(24.2%)、経済学部(15.5%)、理学部(14.1%)、文学部(11.6%)に希望が集中しているのに対し、女子では文学部(18.6%)、外国

語学部 (14.8%)、教育学部 (10.9%) が主要な希望学部となっている。

クラス別、性別いずれにおいても希望学部はかなり異なった傾向を示しており、これら2要因が学部選択の際の枠組みになっていることは明らかである。

クラス×性別のクロス集計を行った第3-6表では、これら2要因の希望学部への影響をさらに細かくみることができる。文科系男子では経済学部(26.6%)、文学部(24.8%)、法学部(15.5%)に希望が集中しているのに対し、女子では文学部(26.6%)、外国語学部

(20.0%)が主要な希望学部で、これらに教育学部(11.8%)と経済学部(11.5%)がほぼ同率で続いている。

理科系男子では工学部への希望(40.8%)が他に比べて極めて高く、理学部(24.1%)を合わせると有効回答の60%を越えている。クラス×性別の4条件の中で最も特定学部への集中が顕著であるといえる。理科系女子では理学部(15.8%)、薬学部(15.2%)、工学部(10.7%)、医療技術学部(10.5%)が主要な学部としてあげられる。学部単位での集計では男子に比べて特定学部への集中の程度は低いといえるが、薬学部、医

第3-6表 進学を希望する学部 (クラス×性別)

| 学部名    | 文科系男子(人数)    | 文科系女子(人数)    | 理科系男子(人数)    | 理科系女子(人数)    | その他男子(人数)  | その他女子(人数)  |
|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|
| 文学部    | 24.8( 469)   | 26.6( 706)   | 2.0( 51)     | 2.7( 36)     | 4.5( 2)    | 16.3( 13)  |
| 工学部    | 1.6( 30)     | 0.2( 5)      | 40.8(1,053)  | 10.7( 140)   | 25.0( 11)  | 0.0( 0)    |
| 経済学部   | 26.6( 503)   | 11.5( 305)   | 7.3( 189)    | 5.6( 73)     | 18.2( 8)   | 7.5( 6)    |
| 理学部    | 0.6( 11)     | 0.2( 5)      | 24.1( 621)   | 15.8( 207)   | 9.1( 4)    | 3.8( 3)    |
| 外国語学部  | 8.9( 168)    | 20.0( 530)   | 1.8( 47)     | 4.0( 53)     | 9.1( 4)    | 21.3( 17)  |
| 教育学部   | 7.5( 141)    | 11.8( 313)   | 2.8( 72)     | 9.0( 118)    | 4.5( 2)    | 13.8( 11)  |
| 法学部    | 15.5( 293)   | 4.9( 131)    | 1.9( 48)     | 1.0( 13)     | 11.4( 5)   | 1.3( 1)    |
| 国際関係学部 | 4.7( 89)     | 6.6( 176)    | 1.1( 28)     | 2.4( 32)     | 9.1( 4)    | 8.8( 7)    |
| 芸術学部   | 3.9( 74)     | 6.3( 166)    | 1.8( 47)     | 2.4( 32)     | 2.3( 1)    | 8.8( 7)    |
| 薬学部    | 0.1( 1)      | 0.1( 3)      | 3.2( 82)     | 15.2( 199)   | 0.0( 0)    | 1.3( 1)    |
| 医学部    | 0.2( 3)      | 0.2( 5)      | 5.7( 148)    | 6.4( 84)     | 0.0( 0)    | 1.3( 1)    |
| 医療技術学部 | 0.1( 2)      | 1.5( 39)     | 1.2( 31)     | 10.5( 138)   | 0.0( 0)    | 5.0( 4)    |
| 家政学部   | 0.1( 1)      | 4.4( 116)    | 0.2( 4)      | 5.1( 67)     | 0.0( 0)    | 7.5( 6)    |
| 社会福祉学部 | 2.0( 37)     | 3.7( 99)     | 0.5( 12)     | 2.1( 28)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    |
| 体育学部   | 2.9( 55)     | 1.1( 29)     | 2.4( 61)     | 1.5( 20)     | 4.5( 2)    | 1.3( 1)    |
| 農学部    | 0.3( 5)      | 0.2( 4)      | 3.0( 77)     | 5.2( 68)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    |
| その他    | 0.4( 7)      | 0.9( 24)     | 0.3( 8)      | 0.4( 5)      | 2.3( 1)    | 2.5( 2)    |
| 合計     | 100.0(1,889) | 100.0(2,656) | 100.0(2,579) | 100.0(1,313) | 100.0( 44) | 100.0( 80) |

第3-7(1)表 希望する職業 (学部別)

| 職業名     | 文学部(人数)      | 工学部(人数)      | 経済学部(人数)     | 理学部(人数)     | 外国語学部(人数)   | 教育学部(人数)    |
|---------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| わからない   | 26.4( 335)   | 16.6( 204)   | 20.5( 220)   | 19.4( 163)  | 27.5( 221)  | 15.9( 104)  |
| 会社員     | 18.4( 234)   | 13.2( 163)   | 34.7( 373)   | 13.8( 116)  | 16.6( 134)  | 7.2( 47)    |
| 技術者     | 2.8( 35)     | 38.8( 478)   | 5.4( 58)     | 24.2( 203)  | 3.1( 25)    | 2.6( 17)    |
| 公務員     | 12.1( 153)   | 5.0( 62)     | 11.2( 120)   | 7.2( 60)    | 8.9( 72)    | 11.2( 73)   |
| 教育関係    | 9.2( 117)    | 0.4( 5)      | 2.7( 29)     | 3.9( 33)    | 8.7( 70)    | 44.7( 292)  |
| 医療関係    | 1.2( 15)     | 3.2( 40)     | 1.1( 12)     | 6.3( 53)    | 1.6( 13)    | 3.2( 21)    |
| その他     | 6.5( 82)     | 1.9( 23)     | 3.2( 34)     | 1.8( 15)    | 10.4( 84)   | 4.1( 27)    |
| 研究者     | 3.6( 46)     | 5.0( 61)     | 0.7( 8)      | 14.7( 123)  | 2.1( 17)    | 1.4( 9)     |
| 建築・デザイン | 1.6( 20)     | 9.4( 116)    | 1.9( 20)     | 3.1( 26)    | 2.0( 16)    | 0.9( 6)     |
| 新聞・雑誌記者 | 8.9( 113)    | 0.6( 7)      | 3.7( 40)     | 0.4( 3)     | 5.3( 43)    | 3.5( 23)    |
| 法律関係    | 2.2( 28)     | 0.2( 2)      | 2.2( 24)     | 0.0( 0)     | 2.7( 22)    | 1.2( 8)     |
| 芸術家     | 1.9( 24)     | 0.6( 7)      | 0.7( 7)      | 0.7( 6)     | 1.6( 13)    | 0.6( 4)     |
| スポーツ関係  | 0.8( 10)     | 1.6( 20)     | 1.1( 12)     | 1.4( 12)    | 0.9( 7)     | 1.5( 10)    |
| 航空関係    | 1.3( 16)     | 1.2( 15)     | 0.9( 10)     | 1.0( 8)     | 4.5( 36)    | 0.8( 5)     |
| 商店自営    | 0.8( 10)     | 0.9( 11)     | 3.2( 34)     | 0.8( 7)     | 0.5( 4)     | 0.3( 2)     |
| 会社経営    | 1.5( 19)     | 0.9( 11)     | 2.8( 30)     | 0.5( 4)     | 1.2( 10)    | 0.2( 1)     |
| 会計士・税理士 | 0.6( 8)      | 0.2( 3)      | 3.6( 39)     | 0.5( 4)     | 1.2( 10)    | 0.5( 3)     |
| 美容・理容   | 0.2( 2)      | 0.2( 3)      | 0.3( 3)      | 0.2( 2)     | 0.9( 7)     | 0.2( 1)     |
| 農林漁業    | 0.2( 2)      | 0.0( 0)      | 0.2( 2)      | 0.1( 1)     | 0.1( 1)     | 0.0( 0)     |
| 合計      | 100.0(1,269) | 100.0(1,231) | 100.0(1,075) | 100.0( 839) | 100.0( 805) | 100.0( 653) |

療技術学部を合わせると理科系女子の約1/4が医療関係の専門分野を希望している。これは(1)b項で指摘した、理科系女子の希望職種が医療関係に集中していたことと対応するものである。

(3) 将来就きたい職業と学部選択の関係

将来就きたい職業と学部選択のクロス集計の結果を

第3-7(1)~(3)表に示す。ほとんど全ての学部で「わからない」が第1位または2位(農学部のみ第4位)となっている。

文学部、経済学部、法学部、外国語学部、など文科系の学部を希望する生徒では、職業として公務員、会社員を希望するものが多くなっている。理科系も含めた全体の集計結果では公務員志向は明確でなかったが、

第3-7(2)表 希望する職業(学部別)

| 職業      | 法学部(人数)     | 国際関係学部(人数)  | 芸術学部(人数)   | 薬学部(人数)     | 医学部(人数)     | 医療技術学部(人数)  |
|---------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| わからない   | 16.4( 80)   | 26.7( 88)   | 21.7( 70)  | 18.7( 53)   | 12.1( 29)   | 10.3( 22)   |
| 会社員     | 16.4( 80)   | 18.5( 61)   | 9.3( 30)   | 6.0( 17)    | 5.9( 14)    | 4.7( 10)    |
| 技術者     | 3.7( 18)    | 3.0( 10)    | 5.9( 19)   | 9.9( 28)    | 7.9( 19)    | 5.2( 11)    |
| 公務員     | 21.3( 104)  | 8.2( 27)    | 4.3( 14)   | 8.1( 23)    | 3.8( 9)     | 1.4( 3)     |
| 教育関係    | 2.9( 14)    | 7.6( 25)    | 10.9( 35)  | 3.2( 9)     | 1.3( 3)     | 5.6( 12)    |
| 医療関係    | 1.0( 5)     | 3.0( 10)    | 1.6( 5)    | 41.7( 118)  | 56.1( 134)  | 67.6( 144)  |
| その他     | 3.9( 19)    | 9.4( 31)    | 7.5( 24)   | 0.7( 2)     | 2.1( 5)     | 1.9( 4)     |
| 研究者     | 1.6( 8)     | 1.5( 5)     | 2.8( 9)    | 7.4( 21)    | 5.9( 14)    | 0.9( 2)     |
| 建築・デザイン | 0.4( 2)     | 1.5( 5)     | 13.0( 42)  | 1.4( 4)     | 1.7( 4)     | 0.9( 2)     |
| 新聞・雑誌記者 | 5.1( 25)    | 6.1( 20)    | 5.0( 16)   | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 法律関係    | 16.2( 79)   | 3.0( 10)    | 0.9( 3)    | 0.4( 1)     | 0.4( 1)     | 0.0( 0)     |
| 芸術家     | 1.2( 6)     | 0.9( 3)     | 13.7( 44)  | 0.4( 1)     | 0.4( 1)     | 0.0( 0)     |
| スポーツ関係  | 0.8( 4)     | 0.3( 1)     | 0.6( 2)    | 0.7( 2)     | 0.0( 0)     | 0.5( 1)     |
| 航空関係    | 0.8( 4)     | 5.2( 17)    | 0.3( 1)    | 0.0( 0)     | 0.8( 2)     | 0.0( 0)     |
| 商店自営    | 1.4( 7)     | 1.2( 4)     | 0.6( 2)    | 0.0( 0)     | 0.4( 1)     | 0.0( 0)     |
| 会社経営    | 2.2( 11)    | 2.7( 9)     | 1.6( 5)    | 1.4( 4)     | 0.8( 2)     | 0.0( 0)     |
| 会計士・税理士 | 4.3( 21)    | 0.9( 3)     | 0.3( 1)    | 0.0( 0)     | 0.4( 1)     | 0.5( 1)     |
| 美容・理容   | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.5( 1)     |
| 農林漁業    | 0.2( 1)     | 0.3( 1)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 合計      | 100.0( 489) | 100.0( 330) | 100.( 322) | 100.0( 283) | 100.0( 653) | 100.0( 213) |

第3-7(3)表 希望する職業(学部別)

| 職業名     | 家政学部(人数)    | 社会福祉学部(人数)  | 体育学部(人数)    | 農学部(人数)     | その他(人数)    |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| わからない   | 26.3( 50)   | 28.2( 49)   | 16.1( 27)   | 13.1( 20)   | 30.4( 14)  |
| 会社員     | 12.1( 23)   | 12.1( 21)   | 12.5( 21)   | 11.1( 17)   | 15.2( 7)   |
| 技術者     | 2.1( 4)     | 1.1( 2)     | 7.1( 12)    | 15.0( 23)   | 0.0( 0)    |
| 公務員     | 7.4( 14)    | 9.2( 16)    | 6.5( 11)    | 6.5( 10)    | 6.5( 3)    |
| 教育関係    | 17.9( 34)   | 24.7( 43)   | 26.8( 45)   | 6.5( 10)    | 4.3( 2)    |
| 医療関係    | 5.8( 11)    | 9.2( 16)    | 2.4( 4)     | 18.3( 28)   | 0.0( 0)    |
| その他     | 7.9( 15)    | 6.9( 12)    | 0.6( 1)     | 7.2( 11)    | 26.1( 12)  |
| 研究者     | 1.1( 2)     | 0.6( 1)     | 0.6( 1)     | 14.4( 22)   | 2.2( 1)    |
| 建築・デザイン | 8.9( 17)    | 0.6( 1)     | 3.0( 5)     | 0.7( 1)     | 0.0( 0)    |
| 新聞・雑誌記者 | 1.6( 3)     | 2.9( 5)     | 1.8( 3)     | 0.7( 1)     | 6.5( 3)    |
| 法律関係    | 0.0( 0)     | 1.7( 3)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 芸術家     | 0.5( 1)     | 1.1( 2)     | 0.6( 1)     | 0.0( 0)     | 4.3( 2)    |
| スポーツ関係  | 1.6( 3)     | 1.7( 3)     | 14.9( 25)   | 2.6( 4)     | 0.0( 0)    |
| 航空関係    | 1.1( 2)     | 0.0( 0)     | 1.2( 2)     | 0.7( 1)     | 0.0( 0)    |
| 商店自営    | 2.1( 4)     | 0.0( 0)     | 1.8( 3)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 会社経営    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 2.4( 4)     | 0.0( 0)     | 2.2( 1)    |
| 会計士・税理士 | 1.1( 2)     | 0.0( 0)     | 0.6( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 美容・理容   | 2.1( 4)     | 0.0( 0)     | 0.6( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 農林漁業    | 0.5( 1)     | 0.0( 0)     | 0.6( 1)     | 3.3( 5)     | 2.2( 1)    |
| 合計      | 100.0( 190) | 100.0( 174) | 100.0( 168) | 100.0( 153) | 100.0( 46) |

クラス別の結果及び本項で得られた結果でみると、文科系クラスに所属し、文科系学部を希望する生徒では公務員志向が比較的高いといえよう。この他、教育学部では教育関係が半数近くの割合で選択されていること、法学部では法律関係の選択割合が（「わからない」を除いて）第3位となっていることなどは、職業と学部選択との対応を示すものである。

工学部、理学部の理科系学部では、それぞれ技術者が第1位となっている。特に工学部では技術者希望が40%近くに達しており、学部選択と職業との対応が明確にみられる。また、理学部の研究者の割合が高いのも同様の対応を示すものであろう。全体的傾向としては、希望する職業と専門分野の間の整合はおおまかにはとれているといえ、希望する職業をある程度しばって学部選択を行っているといえよう。

## 2. 保護者に対する調査結果

### (1) 希望する職業（質問項目A-II）

本質問は、保護者が生徒に対し将来どのような職業に就いて欲しいと望んでいるかを調査した。選択肢の項目は生徒の場合と同一である。

集計結果を第3-8表に示す。具体的な希望としては、第1位が公務員（25.2%）で、以下技術者（17.5%）、教育関係（10.7%）、会社員（9.8%）、医療関係（7.2%）が続き、これら5つの項目で有効回答の70%以上を占めている。「わからない」の選択割合が9.9%

第3-8表 希望する職業（保護者）

| 職業名     | % (人数)       |
|---------|--------------|
| 公務員     | 25.2(1,028)  |
| 技術者     | 17.5( 714)   |
| 教育関係    | 10.7( 436)   |
| わからない   | 9.9( 406)    |
| 会社員     | 9.8( 401)    |
| 医療関係    | 7.2( 293)    |
| 研究者     | 4.7( 193)    |
| その他     | 3.4( 137)    |
| 建築・デザイン | 1.9( 76)     |
| 法律関係    | 1.8( 74)     |
| 会社経営    | 1.8( 74)     |
| 会計士・税理士 | 1.6( 65)     |
| 新聞・雑誌記者 | 1.6( 64)     |
| 商店自営    | 1.2( 50)     |
| 芸術家     | 0.5( 20)     |
| 航空関係    | 0.5( 21)     |
| スポーツ関係  | 0.4( 15)     |
| 美容・理容   | 0.2( 10)     |
| 農林漁業    | 0.1( 5)      |
| 合計      | 100.0(4,082) |

（第4位）となっているがこの値は生徒の半分以下である。

生徒に対する調査結果との比較から、保護者は高校2年の段階で生徒の将来の職業に対して具体的な希望をかなり明確に持っているといえよう。また、生徒では文科系、理科系を含めた全体の結果で、公務員志向が第3位ではあるものの10%以下であったのに対し、保護者では約1/4が公務員を希望している点が注目される。これがいわゆる安定志向をあらわすものなのか、「官公」志向によるものを判断するには、全国及び他の都道府県のデータと比較する必要がある。

### (2) 希望する専門分野・学部（質問項目B-I）

本質問では、短期大学以上の高等教育課程においてどのような専門分野・学部の教育を受けさせたいかについて、生徒と同様の方法で回答を求めた。

集計結果を第3-9表に示す。表中の数値は有効回答者総数（3,895人）に対する当該学部の選択割合である。希望する学部は経済学部、工学部、文学部がほぼ同率で25%程度がこれらの学部を第3希望までにあげている。続いて教育学部（20.5%）、理学部（19.6%）、外国語学部（17.6%）、法学部（12.6%）に対する希望が高く、以上の7学部で有効回答総数（8,162）の約70%を占めている。これらの上位7学部は、生徒に対する調査結果と同じものとなっている。また、文学部、工学部、経済学部が上位3位を、理学部、教育学部、外国語学部、法学部が4位から7位を占めている点でも、生徒の結果と一致している。芸術学部、医学・薬学部、社会福祉学部、体育学部などに対する希望が比

第3-9表 進学を希望する学部（保護者）

| 学部名    | % (人数)      |
|--------|-------------|
| 経済学部   | 26.1(1,015) |
| 工学部    | 25.3( 987)  |
| 文学部    | 24.5( 954)  |
| 教育学部   | 20.5( 797)  |
| 理学部    | 19.6( 762)  |
| 外国語学部  | 17.6( 684)  |
| 法学部    | 12.6( 490)  |
| 社会福祉学部 | 11.3( 441)  |
| 国際関係学部 | 10.9( 423)  |
| 薬学部    | 8.9( 348)   |
| 医療技術学部 | 7.5( 294)   |
| 医学部    | 6.0( 232)   |
| 家政学部   | 5.9( 228)   |
| 芸術学部   | 4.6( 178)   |
| 体育学部   | 4.1( 158)   |
| 農学部    | 3.5( 136)   |
| その他    | 0.9( 35)    |

較的低いことも合わせ、全体として保護者が希望する専門分野は生徒とほぼ一致しているといえよう。

### (3) 将来就かせたい職業と学部選択の関係

将来就かせたい職業と学部選択のクロス集計の結果を第3-10(1)~(3)表に示す(表中の数値は各条件毎の有効回答総数に対する割合である)。文学部、経済学部、法学部、外国語学部、教育学部など文科系の学部を希

望する保護者では、職業として公務員を希望するものが約30%もしくはそれ以上となっている。この他、文学部希望者で教育関係が、法学部希望者で法律関係が、経済学部で会社員が、また教育学部で教育関係が比較的高い割合で選択されている。工学部、理学部の理料系学部では、それぞれ技術者が第1位で、研究者の比較的割合も高い。また、これら理料系学部でも公務員が第2位に入っており、保護者の公務員志向の高さが

第3-10(1)表 希望する職業(保護者:学部別)

| 職業名     | 文学部(人数)     | 工学部(人数)     | 経済学部(人数)    | 理学部(人数)     | 外国語学部(人数)   | 教育学部(人数)    |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 公務員     | 35.9( 323)  | 19.3( 182)  | 35.2( 338)  | 19.7( 143)  | 31.0( 200)  | 29.2( 221)  |
| 技術者     | 4.7( 42)    | 48.1( 454)  | 11.7( 112)  | 35.6( 259)  | 7.1( 46)    | 5.0( 38)    |
| 教育関係    | 16.4( 148)  | 1.5( 14)    | 3.5( 34)    | 4.4( 32)    | 13.0( 84)   | 43.3( 327)  |
| わからない   | 11.9( 107)  | 6.6( 62)    | 9.7( 93)    | 7.6( 55)    | 10.2( 66)   | 6.2( 47)    |
| 会社員     | 11.3( 102)  | 5.8( 55)    | 17.2( 165)  | 5.8( 42)    | 12.4( 80)   | 3.4( 26)    |
| 医療関係    | 1.1( 10)    | 2.6( 25)    | 1.4( 13)    | 4.8( 35)    | 2.3( 15)    | 1.9( 14)    |
| 研究者     | 4.0( 36)    | 6.4( 60)    | 1.6( 15)    | 13.8( 100)  | 3.4( 22)    | 2.5( 19)    |
| その他     | 4.2( 38)    | 1.4( 13)    | 2.3( 22)    | 1.9( 14)    | 5.1( 33)    | 1.6( 12)    |
| 建築・デザイン | 0.4( 4)     | 3.6( 34)    | 0.9( 9)     | 1.2( 9)     | 1.1( 7)     | 0.1( 1)     |
| 法律関係    | 1.7( 15)    | 0.2( 2)     | 2.5( 24)    | 1.1( 8)     | 2.3( 15)    | 1.7( 13)    |
| 会社経営    | 0.3( 3)     | 2.1( 20)    | 5.1( 49)    | 1.4( 10)    | 1.4( 9)     | 0.5( 4)     |
| 会計士・税理士 | 1.4( 13)    | 0.6( 6)     | 4.6( 44)    | 0.6( 4)     | 1.5( 10)    | 1.5( 11)    |
| 新聞・雑誌記者 | 4.1( 37)    | 0.3( 3)     | 1.2( 12)    | 0.4( 3)     | 4.3( 28)    | 1.3( 10)    |
| 商店自営    | 0.8( 7)     | 0.7( 7)     | 2.3( 22)    | 1.1( 8)     | 0.9( 6)     | 0.1( 1)     |
| 芸術家     | 0.4( 4)     | 0.2( 2)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.8( 5)     | 0.4( 3)     |
| 航空関係    | 0.8( 7)     | 0.3( 3)     | 0.4( 4)     | 0.1( 1)     | 2.5( 16)    | 0.5( 4)     |
| スポーツ関係  | 0.3( 3)     | 0.2( 2)     | 0.4( 4)     | 0.6( 4)     | 0.3( 2)     | 0.7( 5)     |
| 美容・理容   | 0.1( 1)     | 0.0( 0)     | 0.1( 1)     | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     |
| 農林漁業    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     |
| 合計      | 100.0( 900) | 100.0( 944) | 100.0( 961) | 100.0( 727) | 100.0( 646) | 100.0( 756) |

第3-10(2)表 希望する職業(保護者:学部別)

| 職業名     | 法学部(人数)     | 国際関係学部(人数)  | 芸術学部(人数)    | 薬学部(人数)     | 医学部(人数)     | 医療技術学部(人数)  |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 公務員     | 36.5( 171)  | 25.7( 103)  | 22.4( 37)   | 23.9( 80)   | 9.8( 22)    | 22.6( 63)   |
| 技術者     | 5.3( 25)    | 11.0( 44)   | 7.9( 13)    | 20.9( 70)   | 7.6( 17)    | 14.0( 39)   |
| 教育関係    | 6.2( 29)    | 9.0( 36)    | 18.8( 31)   | 6.6( 22)    | 4.9( 11)    | 6.8( 19)    |
| わからない   | 7.2( 34)    | 12.7( 51)   | 15.2( 25)   | 7.2( 24)    | 4.0( 9)     | 7.2( 20)    |
| 会社員     | 6.8( 32)    | 8.5( 34)    | 5.5( 9)     | 3.9( 13)    | 1.8( 4)     | 3.6( 10)    |
| 医療関係    | 2.8( 13)    | 2.7( 11)    | 1.8( 3)     | 26.3( 88)   | 49.6( 111)  | 41.6( 116)  |
| 研究者     | 5.3( 25)    | 6.0( 24)    | 1.8( 3)     | 6.3( 21)    | 16.1( 36)   | 2.5( 7)     |
| その他     | 3.2( 15)    | 4.5( 18)    | 6.1( 10)    | 1.5( 5)     | 2.2( 5)     | 0.7( 2)     |
| 建築・デザイン | 0.2( 1)     | 1.5( 6)     | 8.5( 14)    | 0.3( 1)     | 0.4( 1)     | 0.4( 1)     |
| 法律関係    | 14.3( 67)   | 3.7( 15)    | 0.0( 0)     | 0.6( 2)     | 2.2( 5)     | 0.4( 1)     |
| 会社経営    | 3.0( 14)    | 1.7( 7)     | 0.6( 1)     | 0.6( 2)     | 0.4( 1)     | 0.4( 1)     |
| 会計士・税理士 | 4.7( 22)    | 2.0( 8)     | 0.0( 0)     | 0.6( 2)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 新聞・雑誌記者 | 2.6( 12)    | 5.7( 23)    | 1.2( 2)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 商店自営    | 1.1( 5)     | 0.7( 3)     | 1.2( 2)     | 1.5( 5)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 芸術家     | 0.0( 0)     | 1.5( 6)     | 8.5( 14)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 航空関係    | 0.2( 1)     | 2.0( 8)     | 0.6( 1)     | 0.0( 0)     | 0.9( 2)     | 0.0( 0)     |
| スポーツ関係  | 0.4( 2)     | 0.7( 3)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 美容・理容   | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 農林漁業    | 0.2( 1)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     |
| 合計      | 100.0( 469) | 100.0( 401) | 100.0( 165) | 100.0( 335) | 100.0( 224) | 100.0( 279) |



第3-10(3)表 希望する職業（保護者：学部別）

| 職業名     | 家政学部(人数)    | 社会福祉学部(人数)  | 体育学部(人数)    | 農学部(人数)     | その他(人数)    |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 公務員     | 27.2( 58)   | 38.0( 156)  | 23.5( 35)   | 20.3( 26)   | 9.1( 3)    |
| 技術者     | 7.5( 16)    | 9.0( 37)    | 10.7( 16)   | 33.6( 43)   | 9.1( 3)    |
| 教育関係    | 15.5( 33)   | 17.0( 70)   | 28.2( 42)   | 1.6( 2)     | 9.1( 3)    |
| わからない   | 18.8( 40)   | 10.0( 41)   | 8.1( 12)    | 5.5( 7)     | 9.1( 3)    |
| 会社員     | 18.3( 39)   | 9.0( 37)    | 7.4( 11)    | 8.6( 11)    | 6.1( 2)    |
| 医療関係    | 2.8( 6)     | 5.6( 23)    | 2.7( 4)     | 3.9( 5)     | 0.0( 0)    |
| 研究者     | 1.9( 4)     | 1.5( 6)     | 0.7( 1)     | 13.3( 17)   | 0.0( 0)    |
| その他     | 1.9( 4)     | 3.4( 14)    | 1.3( 2)     | 1.6( 2)     | 45.5( 15)  |
| 建築・デザイン | 2.3( 5)     | 1.0( 4)     | 0.0( 0)     | 2.3( 3)     | 9.1( 3)    |
| 法律関係    | 0.5( 1)     | 1.0( 4)     | 0.7( 1)     | 0.8( 1)     | 0.0( 0)    |
| 会社経営    | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 6.0( 9)     | 3.9( 5)     | 0.0( 0)    |
| 会計士・税理士 | 0.9( 2)     | 1.2( 5)     | 0.0( 0)     | 1.6( 2)     | 0.0( 0)    |
| 新聞・雑誌記者 | 0.9( 2)     | 1.7( 7)     | 0.7( 1)     | 0.0( 0)     | 3.0( 1)    |
| 商店自営    | 0.5( 1)     | 0.7( 3)     | 2.0( 3)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 芸術家     | 0.5( 1)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 航空関係    | 0.5( 1)     | 0.2( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| スポーツ関係  | 0.0( 0)     | 0.2( 1)     | 8.1( 12)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 美容・理容   | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 農林漁業    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)     | 3.1( 4)     | 0.0( 0)    |
| 合計      | 100.0( 213) | 100.0( 411) | 100.0( 149) | 100.0( 128) | 100.0( 33) |

注目される。全体的傾向としては、生徒同様、希望する職業と専門分野の間の整合はとれており、希望する職業に就くことを念頭において学部選択を行っているといえよう。（執筆担当：大谷 芳夫・心理学）

### 第4章 国・公・私立志向および地域志向とその理由について

本章は、富山県の高校生の進学意識について、B-II(a)国・公・私立のどの学校を希望するか、B-II(b)またその理由、B-III(a)どの地域の学校に進学したいか、B-III(b)またその理由を、生徒と保護者の両方からのアンケートの調査結果を検討したものである。

#### 1. 国・公・私立のいずれを希望するか

まず、B-II(a)国・公・私立のどの学校を希望するかに関して集計した結果、生徒は第4-1表、保護者は

第4-1表 国公立のうちの学校に行きたいか（生徒）

| 種類     | % (人数)        |
|--------|---------------|
| 国立     | 67.7(2,960)   |
| どこでもよい | 14.7( 643)    |
| 私立     | 11.2( 488)    |
| 公立     | 5.9( 256)     |
| その他    | 0.6( 26)      |
| 合計     | 100.0( 4,373) |

第4-2表 国公立のうちの学校に行きたいか（保護者）

| 種類     | % (人数)       |
|--------|--------------|
| 国立     | 72.7(2,862)  |
| どこでもよい | 13.4( 529)   |
| 私立     | 9.8( 385)    |
| 公立     | 3.9( 153)    |
| その他    | 0.2( 7)      |
| 合計     | 100.0(3,936) |

第4-2表のようになった。

生徒は国立・どこでも良い・私立・公立・その他の順、保護者は国立・どこでも良い・公立・私立・その他と公立と私立が入れ替わっている。生徒・保護者ともに国立志向が圧倒的に強く出ているところは注目して良い。生徒のデータでは私立が公立よりも多く出ている。私立の進学希望地域は東京(42.3%)・京阪神(22.2%)・北陸(13.6%)・富山(9.2%)・名古屋圏(8.3%)の順であった。公立は北陸(32.7%)・富山(26.2%)・京阪神(16.4%)・東京(10.7%)・名古屋圏(9.3%)の順で、北陸の公立だけで50%を越えている。保護者の方が国・公立志向が強いのは、後述するように学資が安くてすむということからである。

#### 2. 国・公・私立を希望する理由

B-II(b)またその理由についてはそれぞれ14の選択肢を設け、3つまでの複数回答を可とした。その集計の

結果、生徒については第4-3表、保護者については第4-4表のようになった。

上位5位までをみると、生徒は、「社会で有利」、「周囲が勧める」、「学校のイメージ」、「施設・設備」と続き、保護者は、「子どもが進学したい」、「社会で有利」、「伝統・有名」、「施設・設備」となる。両者とも理由の第1に「学費」をあげ、「社会で有利」、「施設・設備」が上位を占めるのは堅実で現実的な生活を志向する傾向が確認できる。生徒の「周囲が勧める」の周囲とは高校の進学指導の先生をはじめ親族・親戚・先輩のことである。保護者の「子どもが進学を希望している」が2位を占めるのは予想されたところ。「伝統・有名」が、子どもでは7位であったところ、保護者では4位で17.4%をも占めている。しかし、受験当事者の子どもは自分の実力を考えて志望校をイメージしているであろうから、そういう意味では保護者よりも現実的に

第4-3表 国公立を選んだ理由(生徒)

| 選択理由      | % (人数)        |
|-----------|---------------|
| 学費が安い     | 67.3(2,448)   |
| 社会で有利     | 25.0( 910)    |
| 周囲が勧める    | 13.7( 499)    |
| 学校のイメージ   | 13.3( 485)    |
| 施設・設備     | 12.6( 459)    |
| 受験科目数     | 10.8( 391)    |
| 伝統・有名     | 10.1( 367)    |
| 校風が好き     | 8.9( 325)     |
| クラブ活動     | 6.5( 238)     |
| その他       | 4.8( 173)     |
| 入学が容易     | 2.7( 99)      |
| 近親者の出身・在学 | 2.1( 77)      |
| 有名教授      | 1.4( 52)      |
| 友達が進学     | 0.5( 18)      |
| 合計        | 100.0( 3,637) |

第4-4表 国公立を選んだ理由(保護者)

| 選択理由      | % (人数)       |
|-----------|--------------|
| 学費が安い     | 86.4(2,739)  |
| 子供の希望     | 29.1( 923)   |
| 社会で有利     | 26.6( 842)   |
| 伝統・有名     | 17.4( 551)   |
| 施設・設備     | 13.4( 424)   |
| 学校のイメージ   | 8.7( 277)    |
| 受験科目数     | 8.6( 272)    |
| 校風が好き     | 4.5( 142)    |
| 近親者の出身・在学 | 3.6( 114)    |
| クラブ活動     | 3.5( 112)    |
| 周囲が勧める    | 2.3( 73)     |
| その他       | 2.1( 66)     |
| 入学が容易     | 1.8( 58)     |
| 有名教授      | 1.3( 41)     |
| 合計        | 100.0(3,171) |

対応しているということであろう。「有名教授」がいるからというのはいずれも生徒は13位、保護者は14位で、割合としては低かった。

### 3. 進学を希望する地域

B-III(a)どの地域の学校に進学したいかについて集計した結果、生徒については第4-5表のようになった。一方保護者は第4-6表である。

顕著な傾向としては、保護者の第1の希望が富山であるのに、生徒は5位である。地元志向は保護者に強く出ている。ちなみに富山・北陸の地元と、東京・京阪神の大都市とを対照して示すと、生徒は富山・北陸が35.4%、大都市が34.2%、一方保護者は富山・北陸が67.5%、大都市が15.1%。理由は後述するようにいろいろあるが、ここでも保護者の地元志向は明瞭である。名古屋圏は都会ではあるものの、いずれも希望の割合は低い。

ここ10年前後の生徒の地域志望の動向を見るため、1984年3月に県内の高校2年生に対してなされた調査と比較した。

1984(昭和59)年3月の調査(「新大学設置に関する調査報告書」1984年、アドインテック株)によれば、第1位は「関東地域」(31.6%)、第2位「富山県内」(28.3%)、以下「北陸地区」(13.9%)、「関西地区」(12.1%)、「中京地区」(3.7%)、「その他」(3.3%)、「どこでもかまわない」(3.1%)となっている。

いちばん顕著な傾向としては、1984年に第1位であった関東志向が31.6%から第3位の20.1%に、また第2位富山県内も28.3%から5位の13.3%にまで落ち込んでいることである。かわりに富山を除く北陸地区が13.9%から第1位の22.1%、どこでも良いというのが3.1%から第2位の20.3%に増えている。ひと頃の東京を中心とした大都会志向が、富山県以外の北陸地区へという流れが強くなってきているということである。

### 4. 呉東・呉西地区の生徒の進学志望地域

これを呉東(新川地区・富山地区)と呉西(高岡地区・砺波地区)にわけてとってみた。

B-II(a)について、両者いずれも目立った差異はないが、国立志向は呉東地区で70.4%、呉西地区で64.2%と呉東に多い割合で出ている。B-III(a)の進学希望地域について、それぞれがたいした相違を示しているわけではない。しかし呉東地区(新川・富山地区)と呉西地区(高岡・砺波地区)に区切ってみると富山県内の

大学希望が前者では12.4%、後者では14.5%。また北陸を希望する者は前者では21.0%、後者では23.4%。東京を希望する者は前者では21.1%、後者では18.4%。また京阪神を希望する者は前者では14.1%、後者では14.3%であった。すなわち、呉東と呉西という形でみると呉西地区の方が富山・北陸志向が強い。東京・京阪神については、富山・高岡地区のみの比較では差異は出ない。また、京阪神へは呉東も呉西も差は出ないが、東京志向については呉東地区が大きく出ている。ちなみに新川地区・砺波地区の東京志向は21.7・15.4%で、新川の東京志向の多い分だけ、砺波では北陸地

第4-5表 どの地域の学校に進学したいか(生徒)

| 希望地域   | % (人数)        |
|--------|---------------|
| 北陸     | 22.1( 966)    |
| どこでもよい | 20.3( 887)    |
| 東京     | 20.1( 881)    |
| 京阪神    | 14.1( 618)    |
| 富山     | 13.3( 581)    |
| 名古屋圏   | 5.1( 221)     |
| その他の地域 | 3.5( 154)     |
| 外国     | 1.5( 65)      |
| 合計     | 100.0( 4,373) |

第4-6表 どの地域の学校に進学させたいか(保護者)

| 希望地域   | % (人数)       |
|--------|--------------|
| 富山     | 37.6(1,410)  |
| 北陸     | 28.9(1,082)  |
| どこでもよい | 16.8( 628)   |
| 東京     | 9.5( 358)    |
| 京阪神    | 5.6( 209)    |
| 名古屋圏   | 0.9( 32)     |
| その他の地域 | 0.7( 25)     |
| 外国     | 0.1( 5)      |
| 合計     | 100.0(3,749) |

区へということのようである。

## 5. 各地域を志望する理由

各地域を志望する理由を3つまで回答してもらった(B-III(b))。生徒の集計結果は第4-7表となっている。一方保護者の結果は第4-8表である。

前項目で保護者に地元志向が強く出ていたのは「経済的理由」と「自宅通学できる」ことによる。東京で下宿する大学生の生活費を考えれば、自宅通学も結局は経済的理由によることが大きいであろう。そういう意味では生徒の「下宿できる」「都会生活」は1・4位を占め、また2位の「地域が好き」を選んだ生徒の多くは大都会を意識していることには変わりはない。

それは以下のデータからも支持される。

生徒について、志望地域とその理由について集計した。第4-9表は、志望地域別・志望理由別の表である。なお%はその地域を希望する人全体に対する割合である。回答は3つまでの複数回答になっている。

富山を志望する理由は第1位が「自宅通学できる」ことで、複数回答とはいえ富山を志望する人の中の92.7%の圧倒的割合をしめ、以下第2位が「経済的理由」で30.9%である。「地域が好き」は13.5%で「アルバイト」の16.1%について第4位。生徒は経済的な理由により自宅から通学できるから地元を希望するのであって、富山という地域はあまり魅力あるようには受けとられていない。

対照的なのが京阪神の場合である。京阪神志望の第1位は「地域が好き」(61.7%)、第2位は「下宿できる」(52.9%)で、いずれも京阪神を志望している人の過半数を越えている。以下、第3位「都会生活」(31.9%)となる。奈良・京都・大阪など歴史と伝統のある都会を意識しての結果であろう。また東京志望は第1位「都会生活」と第2位「下宿できる」がそれぞれ56.0%と53.1%であった。「地域が好き」(27.4%)と「有名校が多い」(23.2%)があとに続く。東京志向の理由の過半数は都会生活に憧れ、下宿したいからということである。ちなみに北陸志向の理由は、第1位が「下宿できる」(43.5%)、第2位「地域が好き」(30.5%)、以下、「自宅通学できる」(25.8%)、「経済的理由」(22.6%)となる。

東京を中心とした大都市圏へは行きたい。しかし、下宿代・食費・交通費などの生活費を考えると現実的には必ずしもそのようにはいかない。だったら親の手元を離れた北陸地区へということであろう。

それはひとつには、金沢の周辺に大学の数が多く、それが自分の進学したい学校の対象として具体的にイメージされているということであろう。同じ下宿するのであれば東京も金沢も同じというふうに感じられているのではないか。だとすれば、勉強を続けるのであれば娯楽施設が多いからというのであれ、情報のより豊富な東京を中心とした大都市に対する志向性が、生徒の場合第3位とはいえ20.1%もあるということも言うに及ばない。しかし、それでも何がなんでも東京へという流れは、1984年当時に比べれば少なくなっているということはいままでもない。

(執筆担当：中 哲裕・国語国文学)

第4-7表 進学地域を希望する理由(生徒)

| 希望理由      | % (人数)       |
|-----------|--------------|
| 下宿できる     | 41.7(1,438)  |
| 地域が好き     | 34.7(1,196)  |
| 自宅通学できる   | 23.6( 814)   |
| 都会生活ができる  | 23.3( 805)   |
| 経済的理由     | 12.5( 432)   |
| アルバイトができる | 12.1( 416)   |
| 近親者がいる    | 11.4( 392)   |
| 有名校が多い    | 9.4( 326)    |
| その他       | 6.7( 230)    |
| 外国で生活できる  | 1.4( 49)     |
| 合計        | 100.0(3,451) |

第4-8表 進学地域を希望する理由(保護者)

| 希望理由      | % (人数)       |
|-----------|--------------|
| 経済的理由     | 60.3(1,851)  |
| 自宅通学できる   | 57.3(1,759)  |
| 下宿できる     | 21.2( 650)   |
| 近親者がいる    | 11.5( 354)   |
| 地域が好き     | 11.5( 352)   |
| 都会生活ができる  | 7.7( 237)    |
| 有名校が多い    | 5.6( 173)    |
| アルバイトができる | 5.6( 171)    |
| その他       | 4.3( 133)    |
| 外国で生活できる  | 0.2( 7)      |
| 合計        | 100.0(3,072) |

第4-9(1)表 進学希望理由(地域別)(生徒)

| 希望理由      | 富山(人数)      | 北陸(人数)      | 東京(人数)       | 京阪神(人数)     |
|-----------|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 下宿できる     | 2.6( 15)    | 43.2( 410)  | 53.1( 465)   | 52.9( 325)  |
| 地域が好き     | 13.5( 78)   | 30.5( 289)  | 27.4( 240)   | 61.7( 379)  |
| 自宅通学できる   | 92.7( 537)  | 25.8( 245)  | 1.5( 13)     | 1.6( 10)    |
| 都会生活ができる  | 0.2( 1)     | 3.8( 36)    | 56.0( 490)   | 31.9( 196)  |
| 経済的理由     | 30.9( 179)  | 22.6( 214)  | 1.0( 9)      | 1.6( 10)    |
| アルバイトができる | 16.1( 93)   | 9.1( 86)    | 16.0( 140)   | 8.1( 50)    |
| 近親者がいる    | 9.3( 54)    | 10.2( 97)   | 13.5( 118)   | 12.4( 76)   |
| 有名校が多い    | 0.2( 1)     | 3.3( 31)    | 23.2( 203)   | 11.7( 72)   |
| その他       | 4.0( 23)    | 6.4( 61)    | 6.3( 55)     | 6.2( 38)    |
| 外国で生活できる  | 0.2( 1)     | 0.1( 1)     | 0.3( 3)      | 0.3( 2)     |
| 合計        | 100.0( 579) | 100.0( 948) | 100.0(3,451) | 100.0( 614) |

第4-9(2)表 進学希望理由(地域別)(生徒)

| 希望理由      | 名古屋圏(人数)    | その他の地域(人数)  | 外国(人数)     |
|-----------|-------------|-------------|------------|
| 下宿できる     | 63.2( 139)  | 51.3( 77)   | 10.8( 7)   |
| 地域が好き     | 53.6( 118)  | 50.7( 76)   | 24.6( 16)  |
| 自宅通学できる   | 0.5( 1)     | 2.0( 3)     | 7.7( 5)    |
| 都会生活ができる  | 28.6( 63)   | 10.0( 15)   | 6.2( 4)    |
| 経済的理由     | 2.3( 5)     | 6.7( 10)    | 7.7( 5)    |
| アルバイトができる | 13.2( 29)   | 7.3( 11)    | 10.8( 7)   |
| 近親者がいる    | 17.3( 38)   | 5.3( 8)     | 1.5( 1)    |
| 有名校が多い    | 4.5( 10)    | 4.0( 6)     | 4.6( 3)    |
| その他       | 4.5( 10)    | 21.3( 32)   | 16.9( 11)  |
| 外国で生活できる  | 0.0( 0)     | 0.7( 1)     | 63.1( 41)  |
| 合計        | 100.0( 220) | 100.0( 150) | 100.0( 65) |

## 第5章 外国語学習状況について

本章は、高校生の英語を含めた外国語の学習状況を、学習の理由、週あたりの学習時間、また、最近増加の傾向にあるその言語を母語(母国語)とする外国人教師からの学習経験を含めて問うたものである。また、これを保護者の外国語学習状況とその理由とも照らし合わせながら、国際化の中での、富山県高校生の外国語学習状況を検討するものである。

### 1. 外国語学習状況

まず、生徒用質問紙のC-1(a)では現在英語以外に何か外国語を学んでいるかをたずねた。これは英語は高校での授業科目として全員が学習していると想定されるからで、英語以外に高校で、あるいは自らすすんで学習している外国語があるかを問うたものである。これによると外国語学習は英語のみという高校生は全体の98.4%を占め、回答者全体の1.6%のみが英語以外の

第5-1表 外国語学習状況

| 外国語(英語以外) | % (人数)       |
|-----------|--------------|
| 学んでいない    | 98.4(4,675)  |
| 学んでいる     | 1.6( 75)     |
| 合計        | 100.0(4,750) |

第5-2表 学習外国語名

| 学習外国語  | % (人数)     |
|--------|------------|
| その他    | 24.3( 18)  |
| フランス語  | 16.2( 12)  |
| ドイツ語   | 16.2( 12)  |
| アラビア語  | 13.5( 10)  |
| イタリア語  | 13.5( 10)  |
| 朝鮮語    | 12.2( 9)   |
| スワヒリ語  | 12.2( 9)   |
| 中国語    | 12.2( 9)   |
| スペイン語  | 6.8( 5)    |
| ロシア語   | 6.8( 5)    |
| ポルトガル語 | 2.7( 2)    |
| 合計     | 100.0( 74) |

外国語を学習中と答え(第5-1表参照)、その種類は10種類以上にわたっている(第5-2表参照)。この結果、県内高校生の外国語学習状況はほぼ英語学習状況と見ていだろう。ただこれは生徒の自主的な選択による結果というよりは、高校でのカリキュラム編成の結果と思われる、この点で高校での希望外国語科目を問うC-VII等と比較すると興味深いと思われる。

## 2. 外国語の学習理由

生徒用質問紙C-IIでは英語及びその他の外国語の学習理由を複数回答形式で質問した。まず、英語については、授業科目だからと答えた者が全体の87.5%、

受験に必要なだからと答えた者64.5%(第5-3表参照)と、大半の生徒は英語を他の教科と同じように学校での授業科目や、あるいは受験に必要なだからとして学んでいるという現状が浮かび上がってくる。これは生徒をコース別(普通科、英語・国際・情報コース、理数科)<sup>①</sup>に分けた調査結果でもほぼ同じであった(第5-3表参照)。

次に回答が多かったのが、将来仕事で必要になると思うからという実用派と、教養を身につけるためという教養派で、それぞれ25%ずつを記録した。これをさらに細かく分析すると、就職の際に有利だから(10.4%)、資格取得のため(6.5%)も実用派とみなすことができ、将来の自分の仕事や就職と結び付けて考えている生徒が約42%と、趣味として(3.6%)を加えた教養派の29%にまさる(第5-3表参照)。これをコース別に見てみると、英語コースの生徒にはこの傾向が更に顕著に現れ、仕事で必要(45.5%)、就職のため(31.8%)、資格取得のため(9.1%)を含むと86%の生徒がはっきりとした目的意識を持って学習に取り組んでいることがわかる。一方、教養としてと答えた生徒も50%と、全体平均の2倍の割合であり、実用派であると同時に英語学習を教養を高めるものとみなしている生徒も多いことがわかる。これは、国際コースの生徒にも通じるところがあり、資格取得のため(29.7%)、就職のため(10.8%)、仕事で必要のため(32.4%)と実用派が73%を占めた。特に資格取得のための英語コースと比べても多いが、これはこのコースが何らかの資格取得を奨励しているからなのかも知れない。ここでも教養、趣味を含めた教養派は62.2%と高率である。また、理数科の生徒が全体平均よりも高率(34.3%)で仕事での必要性をあげていることも特筆に値するだ

第5-3表 英語学習理由(コース別)

| 英語学習理由  | 合計(人数)       | 普通科(人数)      | 英語コース(人数)  | 国際コース(人数)  | 情報コース(人数)  | 理数科(人数)    | その他(人数)   |
|---------|--------------|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 授業科目    | 87.5(3,732)  | 87.9(3,500)  | 86.4( 19)  | 59.5( 22)  | 84.4( 38)  | 85.4(152)  | 100.0( 1) |
| 受験      | 64.5(2,748)  | 4.6(2,572)   | 59.1( 13)  | 43.2( 16)  | 80.0( 36)  | 62.4(111)  | 0.0( 0)   |
| 教養      | 25.5(1,088)  | 4.8( 986)    | 50.0( 11)  | 54.1( 20)  | 26.7( 12)  | 33.1( 59)  | 0.0( 0)   |
| 仕事で必要   | 25.2(1,074)  | 24.6( 981)   | 45.5( 10)  | 32.4( 12)  | 22.2( 10)  | 34.3( 61)  | 0.0( 0)   |
| 国際交流    | 12.6( 538)   | 12.3( 489)   | 22.7( 5)   | 18.9( 7)   | 11.1( 5)   | 18.0( 32)  | 0.0( 0)   |
| 就職のため   | 10.4( 442)   | 10.3( 411)   | 31.8( 7)   | 10.8( 4)   | 13.3( 6)   | 7.9( 14)   | 0.0( 0)   |
| 外国旅行    | 9.3( 396)    | 9.3( 371)    | 4.5( 1)    | 13.5( 5)   | 8.9( 4)    | 8.4( 15)   | 0.0( 0)   |
| 資格取得    | 6.5( 279)    | 6.3( 249)    | 9.1( 2)    | 29.7( 11)  | 6.7( 3)    | 7.9( 14)   | 0.0( 0)   |
| 外国生活    | 4.0( 169)    | 3.9( 157)    | 4.5( 1)    | 2.7( 1)    | 0.0( 0)    | 5.6( 10)   | 0.0( 0)   |
| 趣味      | 3.6( 153)    | 3.5( 140)    | 0.0( 0)    | 8.1( 3)    | 4.4( 2)    | 4.5( 8)    | 0.0( 0)   |
| 留学      | 2.0( 86)     | 2.0( 81)     | 4.5( 1)    | 2.7( 1)    | 2.2( 1)    | 1.1( 2)    | 0.0( 0)   |
| その他     | 1.1( 49)     | 1.1( 43)     | 0.0( 0)    | 8.1( 3)    | 0.0( 0)    | 1.7( 3)    | 0.0( 0)   |
| 近親者の母国語 | 0.4( 16)     | 0.4( 14)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 2.2( 1)    | 0.6( 1)    | 0.0( 0)   |
| 合計      | 100.0(4,263) | 100.0(3,980) | 100.0( 22) | 100.0( 37) | 100.0( 45) | 100.0(178) | 100.0( 1) |

ろう(第5-3表参照)。この様に結果をコース別に分けてみると、少数ではあるが、細分化されたコースに属している生徒の方が将来の自分の進路や職業と英語の関連性をよりの確にとらえているといえよう。

そのほか英語学習の理由として国際交流・国際理解をあげる者も全体で12.6%おり、無視できない数字である。また、将来の外国旅行(9.3%)、外国生活(4.0%)、留学(2.0%)のためと、現地での実際のサバイバルのための運用能力を目指した回答が約15%にのぼり、これも最近の海外旅行者数、国際交流プログラム、海外出張・派遣の増加をふまえた高校生の意識を反映するものとして見逃せないだろう。ここでもやはり、英語・国際・理数の各コース・科に属する生徒は全体平均よりも国際交流を高く(各々22.7、18.9、18.0%) (第5-3表参照)掲げていることは注目すべきことである。

英語以外の他の外国語の学習理由は、学習者自体が全体の1.6%、75人(第5-1表参照)と少ないため、単純に英語の学習理由と比較することはできないが、授業科目や受験科目としての束縛が少ないところで生徒がどの様な理由を掲げるかは注目に値する。調査結果によると実際にはその他の外国語学習理由回答者56人のうち8.9%の生徒がそのほかの外国語を授業、受験科目として学習しているが、英語学習と比べるとその割合は非常に低いものである。その反面、趣味(48.2%)、教養(35.7%)の教養派が84%と、仕事(21.4%)、資格取得(7.1%)、就職(5.4%)の実用派34%を大きく引き離れた(第5-4表参照)。英語学習の理由としては、授業、受験科目としての他に、将来の仕事等での必要性がかなり高くあげられたが、もう一つ外国語を習うなら自分の趣味に応じてといったところであろうか。また、少数であるが、その他の外国語が近親者

第5-4表 その他の外国語学習理由

| 学習理由    | % (人数)     |
|---------|------------|
| 趣味      | 48.2( 27)  |
| 教養      | 35.7( 20)  |
| 外国生活    | 25.0( 14)  |
| 仕事で必要   | 21.4( 12)  |
| 外国旅行    | 17.9( 10)  |
| 国際交流    | 17.9( 10)  |
| その他     | 17.9( 10)  |
| 近親者の母国語 | 14.3( 8)   |
| 留学      | 8.9( 5)    |
| 授業科目    | 8.9( 5)    |
| 受験      | 8.9( 5)    |
| 資格取得    | 7.1( 4)    |
| 就職のため   | 5.4( 3)    |
| 合計      | 100.0( 56) |

第5-5表 保護者の学習外国語名

| 学習外国語 | % (人数)      |
|-------|-------------|
| 英語    | 87.8( 195)  |
| 中国語   | 5.4( 12)    |
| 朝鮮語   | 4.1( 9)     |
| フランス語 | 3.2( 7)     |
| ドイツ語  | 2.7( 6)     |
| スペイン語 | 1.8( 4)     |
| ロシア語  | 1.4( 3)     |
| スワヒリ語 | 1.4( 3)     |
| アラビア語 | 0.9( 2)     |
| イタリア語 | 0.5( 1)     |
| 合計    | 100.0( 222) |

の母語であるから学ぶと答えたものが14.3%と、これを英語学習の理由としてあげたものと比べると(0.4%)、かなり高率になっているのも見逃せない。これは、英語以外のその他の外国語は必要に迫られて学ぶという状況もうかがえ、語学学習の動機の問題とも関わっており注目に値する。

### 3. 保護者の外国語学習状況とその理由

保護者には英語を含めた外国語学習の現状をたずねた。全体の5.6%、223人が何らかの外国語を現在学習していると答えた。その内訳は英語が87.8%と圧倒的に多く、その他は、中国語(5.4%)、朝鮮語(4.1%)、以下、フランス語(3.2%)、ドイツ語(2.7%)と、どれも10%に満たなかった(第5-5表参照)。保護者の外国語学習状況も生徒と同じくほぼ英語学習状況とみなしてよいだろう。

外国語学習の理由は生徒と比べてどうであろうか。結果は、生徒の英語以外の外国語学習理由とほぼ似たパターンを示した。つまり、趣味(47.2%)、教養(37.4%)を含んだ教養派が全体で約85%と、仕事で必要(24.8%)、資格取得(7.0%)、再就職・転職(0.9%)をあ

第5-6表 保護者の外国語学習理由

| 外国語学習理由 | % (人数)      |
|---------|-------------|
| 趣味      | 47.2( 101)  |
| 教養      | 37.4( 80)   |
| 国際交流    | 29.9( 64)   |
| 仕事で必要   | 24.8( 53)   |
| 外国旅行    | 21.0( 45)   |
| 資格取得    | 7.0( 15)    |
| その他     | 5.1( 11)    |
| 近親者の母国語 | 2.3( 5)     |
| 外国生活    | 2.3( 5)     |
| 再就職・転職  | 0.9( 2)     |
| 合計      | 100.0( 214) |

わせた実用派約33%を大幅に上回った（第5-6表参照）。その他、特筆すべきこととして、生徒と比べると国際交流・理解を理由にあげる割合が比較的に高かった（29.9%、生徒・その他の外国語17.9%、生徒・英語では12.6%）ことである。また、外国旅行をその理由にあげた者は21.0%であった（生徒17.9%、生徒・英語9.3%）（第5-3、5-4、5-6表参照）。ここでも保護者の結果と生徒の英語以外のその他の外国語学習理由に共通点が見られる。これは、授業科目とか受験科目などの枠をはずして外国語を学習する場合は、学習者の目的がかなりはっきりしていることを示している。また、この様な拘束を離れた外国語学習の第一の目的は人間関係を豊かにし、相互理解を深める手段としてのことばの習得であるように思われる。これは生徒、保護者両方の結果に共通するものである。

#### 4. 学校での外国語学習時間

生徒用質問紙のC-IIIは外国語の学習時間を学校、塾等、家庭の3つに分け、質問したものである。これも英語とその他の外国語と2つに大別してたずねた。学校での英語学習時間は5時間以上が75.7%と大半を占

め、3-5時間未満を含むと約92%となる。この結果は文科系、理科系に関わらずほぼ同じである（第5-7表参照）。これは理科系でも英語がほとんど必ず受験科目として入っている事実を反映しているのかも知れない。その他の外国語についてはこの逆で、73.7%までが学校での学習はなしと回答し、5時間以上は13.2%にとどまった。学校での英語学習時間を生徒のコース別に見ると、英語コースでは92.0%、国際コースでは90.0%が週5時間以上の英語の授業があると回答し、これらのコースでは英語学習の比重が高いことがわかる。また、情報コースでも英語学習時間は5時間以上が83.3%と全体平均よりも高率になっている（第5-8表参照）。

学校以外の塾・語学学校・予備校等での学習時間については、英語、0時間が82.8%、1-3時間、12.9%（第5-9表参照）、その他の外国語は0時間が71.1%と、英語・その他の外国語の両方とも、学校以外の学習機関を利用して外国語を学習している生徒数は少ないことが判明した。これは調査の実施時期が2年生の6月下旬ということ、受験の英語を意識した塾等での学習というにはまだ早すぎるからかも知れない。この状況を他府県の外国語学習状況と比べると、富山

第5-7表 学校での英語学習時間（クラス別）

| 学校・英語学習時間 | 合計(人数)       | 文科系(人数)      | 理科系(人数)      | その他(人数)    |
|-----------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 5時間以上     | 75.7(3,375)  | 76.7(1,804)  | 75.0(1,532)  | 62.9( 39)  |
| 3-5時間     | 15.9( 710)   | 15.7( 369)   | 15.9( 324)   | 27.4( 17)  |
| 1-3時間     | 3.6( 161)    | 3.4( 80)     | 3.8( 78)     | 4.8( 3)    |
| 週1時間未満    | 3.4( 153)    | 2.9( 69)     | 4.0( 81)     | 4.8( 3)    |
| 週0時間      | 1.3( 59)     | 1.3( 31)     | 1.4( 28)     | 0.0( 0)    |
| 合計        | 100.0(4,458) | 100.0(2,353) | 100.0(2,043) | 100.0( 62) |

第5-8表 学校での英語学習時間（コース別）

| 学校・英語学習時間 | 普通科(人数)      | 英語コース(人数)  | 国際コース(人数)  | 情報コース(人数)  | 理数科コース(人数)  | その他(人数)   |
|-----------|--------------|------------|------------|------------|-------------|-----------|
| 5時間以上     | 75.4(3,137)  | 92.0( 23)  | 90.0( 36)  | 83.3( 40)  | 73.5( 139)  | 100.0( 1) |
| 3-5時間     | 16.2( 672)   | 4.0( 1)    | 7.5( 3)    | 8.3( 4)    | 16.4( 31)   | 0.0( 0)   |
| 1-3時間     | 3.5( 147)    | 4.0( 1)    | 0.0( 0)    | 4.2( 2)    | 5.8( 11)    | 0.0( 0)   |
| 週1時間未満    | 3.4( 142)    | 0.0( 0)    | 2.5( 1)    | 4.2( 2)    | 4.2( 8)     | 0.0( 0)   |
| 週0時間      | 1.4( 60)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     | 0.0( 0)   |
| 合計        | 100.0(4,158) | 100.0( 25) | 100.0( 40) | 100.0( 48) | 100.0( 189) | 100.0( 1) |

第5-9表 塾での英語学習時間（コース別）

| 塾・英語学習時間 | 合計(人数)       | 普通科(人数)      | 英語コース(人数)  | 国際コース(人数)  | 情報コース(人数)  | 理数科(人数)     |
|----------|--------------|--------------|------------|------------|------------|-------------|
| 週0時間     | 82.8(2,251)  | 82.8(2,082)  | 93.8( 15)  | 92.3( 24)  | 85.7( 30)  | 78.7( 100)  |
| 1-3時間    | 12.9( 350)   | 12.8( 322)   | 6.3( 1)    | 0.0( 0)    | 11.4( 4)   | 18.1( 23)   |
| 3-5時間    | 1.9( 53)     | 2.0( 50)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 2.9( 1)    | 1.6( 2)     |
| 週1時間未満   | 1.8( 50)     | 1.9( 47)     | 0.0( 0)    | 3.8( 1)    | 0.0( 0)    | 1.6( 2)     |
| 5時間以上    | 0.6( 16)     | 0.6( 15)     | 0.0( 0)    | 3.8( 1)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)     |
| 合計       | 100.0(2,720) | 100.0(2,516) | 100.0( 16) | 100.0( 26) | 100.0( 35) | 100.0( 127) |

第5-10表 家庭での英語学習時間(クラス別)

| 家庭・英語学習時間 | 合計(人数)       | 文科系(人数)      | 理科系(人数)      | その他(人数)   |
|-----------|--------------|--------------|--------------|-----------|
| 1-3時間     | 33.1(1,387)  | 32.8(714)    | 33.5(653)    | 33.9(20)  |
| 3-5時間     | 23.3(974)    | 23.7(516)    | 22.9(447)    | 18.6(11)  |
| 週1時間未満    | 18.6(780)    | 17.9(389)    | 19.0(370)    | 35.6(21)  |
| 5時間以上     | 16.2(679)    | 16.3(356)    | 16.4(319)    | 6.8(4)    |
| 週0時間      | 8.8(368)     | 9.3(203)     | 8.3(162)     | 5.1(3)    |
| 合計        | 100.0(4,188) | 100.0(2,178) | 100.0(1,951) | 100.0(59) |

第5-11表 家庭での英語学習時間(コース別)

| 家庭・英語学習時間 | 普通科(人数)      | 英語コース(人数) | 国際コース(人数) | 情報コース(人数) | 理数科(人数)    | その他(人数)  |
|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|------------|----------|
| 1-3時間     | 33.6(1,311)  | 27.3(6)   | 43.2(16)  | 16.7(8)   | 27.3(48)   | 0.0(0)   |
| 3-5時間     | 23.0(897)    | 18.2(4)   | 13.5(5)   | 37.5(18)  | 29.0(51)   | 0.0(0)   |
| 週1時間未満    | 18.6(727)    | 4.5(1)    | 32.4(12)  | 18.8(9)   | 17.0(30)   | 100.0(1) |
| 5時間以上     | 15.9(621)    | 36.4(8)   | 5.4(2)    | 12.5(6)   | 23.3(41)   | 0.0(0)   |
| 週0時間      | 9.0(350)     | 13.6(3)   | 5.4(2)    | 14.6(7)   | 3.4(6)     | 0.0(0)   |
| 合計        | 100.0(3,906) | 100.0(22) | 100.0(37) | 100.0(48) | 100.0(176) | 100.0(1) |

県の特徴がわかり有益だと思われる。この割合が、たとえば、高校3年の2学期頃でも同じだとすると、富山県では高校での英語教育が生徒の英語学習に多大な影響を持つことになり、興味深い。この学校依存度はどのコースでもほぼ同じだが、英語授業時間数の多い英語・国際コースでは、ほとんどの生徒が塾等での学習をしていない(英語コース93.8%、国際コース92.3%) (第5-9表参照) 事実からも、学校での外国語学習の重要性が指摘できるであろう。例外は理数科コースで、このコースの生徒は全体平均よりも塾等で1-3時間学ぶ者が少し多く(18.1%) (第5-9表参照)、これは学校での英語学習時間が全体平均とほぼ同じであることを考えると、受験を強く意識した理数科コースの特徴と言えるかも知れない。

家庭での学習時間は英語においては週に1-3時間が最も多く、33.1%、3-5時間が23.3%、5時間以上も16.2% (第5-10表参照) と、家庭でも比較的多くの時間を学習に費やしていることが判明した。この結果は学校での英語学習時間と同じように、文科系、理科系の差はほとんど見られず、受験科目としての英語学習の比重の重さをうかがわせる(第5-10表参照)。これをコース別に見ると、英語コースの生徒は5時間以上の家庭学習者が36.4%と平均の2倍以上を示した(第5-11表参照)。特筆すべきことは、理数科の生徒も平均より多い23.3%の者が5時間以上、3-5時間も29.0%と平均より多くの時間を英語学習にあてていることである(第5-11表参照)。これは塾等での学習時間の項目でも述べたが、進学志向の高い理数科コースの特徴を表していると言えようか。この様に学校での学習時間ともあわせると生徒は週にかなりの

時間数を英語の学習にあてていることがわかる。これをふまえると、授業科目としての英語をいかに学習者の学習目的、必要を考慮に入れて設定するかは大切な課題となりそうである。

その他の外国語の家庭学習時間は、週1時間が33.3%、1-3時間が25.9%と、約60%が家庭で週平均1-3時間の学習をしているというのが現状であるようだ。これは、テレビ・ラジオ等を利用した学習を含むとみることができよう。だが、その他の外国語の学習状況については必要に応じてもう少し詳しい調査が必要と思われる。

## 5. 外国人教師による外国語学習時間

最近、AET (Assistant English Teacher) のシステムの導入で、高校でも外国語学習でその言語を母語とする人から直接習う機会が増えてきているが、それが富山県では実際にどの程度普及しているかを問うたものが生徒用質問紙C-IVである。

外国人教師に学んでいると答えた者は全回答者の28.8% (第5-12表参照)、そのうち大半の85.4%が週に約1時間の授業を受けている。2時間が7.8%、3時間が2.7%となる(第5-13表参照)。これを文科系、理科系別に分けると、文科系では36.5%となり、理科系19.0%のほぼ2倍の率で外国人教師の授業があることになる(第5-12表参照)。文科系の方が外国人教師による授業の割合が高いというのはコースの特徴から言うと当然のことかも知れないが、理科系の学生も将来その言語を母語とする人とコミュニケーションの可能性がおおいにあることを考えれば、もっと割合が増え



第5-12表 外国人教師からの学習経験（クラス別）

| 高校外国人教師 | 合計（人数）       | 文科系（人数）      | 理科系（人数）      | その他（人数）    |
|---------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 学んでいない  | 71.2(3,269)  | 63.5(1,543)  | 81.0(1,698)  | 43.1( 28)  |
| 学んでいる   | 28.8(1,324)  | 36.5( 888)   | 19.0( 399)   | 56.9( 37)  |
| 合計      | 100.0(4,593) | 100.0(2,431) | 100.0(2,097) | 100.0( 65) |

第5-13表 学校での外国人教師学習時間（クラス別）

| 外国人教師時間 | 合計（人数）       | 文科系（人数）     | 理科系（人数）     | その他（人数）    |
|---------|--------------|-------------|-------------|------------|
| 1       | 85.4(1,045)  | 86.8( 715)  | 84.6( 308)  | 61.1( 22)  |
| 2       | 7.8( 95)     | 6.1( 50)    | 9.3( 34)    | 30.6( 11)  |
| 3       | 2.7( 33)     | 3.4( 28)    | 1.1( 4)     | 2.8( 1)    |
| 0       | 1.4( 17)     | 1.0( 8)     | 2.2( 8)     | 2.8( 1)    |
| 4       | 0.7( 9)      | 1.0( 8)     | 0.0( 0)     | 2.8( 1)    |
| 6       | 0.7( 9)      | 0.4( 3)     | 1.6( 6)     | 0.0( 0)    |
| 5       | 0.7( 8)      | 0.6( 5)     | 0.8( 3)     | 0.0( 0)    |
| 11      | 0.3( 4)      | 0.5( 4)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 8       | 0.2( 3)      | 0.2( 2)     | 0.3( 1)     | 0.0( 0)    |
| 10      | 0.1( 1)      | 0.1( 1)     | 0.0( 0)     | 0.0( 0)    |
| 合計      | 100.0(1,224) | 100.0( 824) | 100.0( 364) | 100.0( 36) |

第5-14表 学校での外国人教師学習時間（コース別）

| 外国人教師時間 | 普通科(人数)      | 英語コース(人数)  | 国際コース(人数)  | 情報コース(人数)  | 理数科(人数)    | その他(人数)   |
|---------|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 1       | 88.4( 965)   | 41.7( 10)  | 2.8( 1)    | 95.2( 20)  | 96.1( 49)  | 100.0( 1) |
| 2       | 7.4( 81)     | 54.2( 13)  | 2.8( 1)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)   |
| 3       | 1.0( 11)     | 0.0( 0)    | 61.1( 22)  | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)   |
| 0       | 1.5( 16)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 2.0( 1)    | 0.0( 0)   |
| 4       | 0.4( 4)      | 0.0( 0)    | 13.9( 5)   | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)   |
| 6       | 0.6( 7)      | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 4.8( 1)    | 2.0( 1)    | 0.0( 0)   |
| 5       | 0.5( 6)      | 4.2( 1)    | 2.8( 1)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)   |
| 11      | 0.0( 0)      | 0.0( 0)    | 11.1( 4)   | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)   |
| 8       | 0.1( 1)      | 0.0( 0)    | 5.6( 2)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)   |
| 10      | 0.1( 1)      | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)   |
| 合計      | 100.0(1,092) | 100.0( 24) | 100.0( 36) | 100.0( 21) | 100.0( 51) | 100.0( 1) |

第5-15表 外国人教師時間数感想（コース別）

| 外国人時間感想 | 合計(人数)       | 普通科(人数)      | 英語コース(人数)  | 国際コース(人数)  | 情報コース(人数)  | 理数科(人数)    | その他(人数)   |
|---------|--------------|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 今のままでよい | 58.3( 762)   | 58.5( 684)   | 54.2( 13)  | 62.2( 23)  | 22.7( 5)   | 67.3( 37)  | 0.0( 0)   |
| 少なすぎる   | 36.5( 478)   | 36.2( 423)   | 41.7( 10)  | 32.4( 12)  | 72.7( 16)  | 30.9( 17)  | 0.0( 0)   |
| 多すぎる    | 3.4( 44)     | 3.5( 41)     | 4.2( 1)    | 2.7( 1)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 100.0( 1) |
| その他     | 1.8( 24)     | 1.8( 21)     | 0.0( 0)    | 2.7( 1)    | 4.5( 1)    | 1.8( 1)    | 0.0( 0)   |
| 合計      | 100.0(1,308) | 100.0(1,169) | 100.0( 24) | 100.0( 37) | 100.0( 22) | 100.0( 55) | 100.0( 1) |

てもいいように思える。時間数は文科系、理科系ともに1時間が圧倒的であった(第5-13表参照)。これを今度はコース別に見ると、顕著な違いが出てくる。つまり、英語コース・国際コースではそれぞれ92.3%、92.9%が外国人教師の授業を受けており、情報コースでも44.9%と平均より高くなっている。先に英語・国際コースでは、英語の授業時間数が平均より多いことを指摘したが、この時間数の多い分だけ外国人教師の授業にあてることが可能だとも解釈できようか。これを裏付けるように外国人教師による授業数も英語コースで1時間、41.7%、2時間54.2%、国際コースで3

時間61.1%、4時間が13.9%と高率になっている(第5-14表参照)。反面、学校以外で外国人教師から直接に習っている者の数は非常に少なかった。

外国人教師による授業時間数に関して、今のままでいいと答えた者は58.3%に達し、少なすぎると答えた者36.5%と合わせると、現在、外国人教師から学習している者の大半が直接その言語を母語とする者から学習する経験に肯定的な姿勢を見せていることがわかる(第5-15表参照)。特に、少なすぎると答えた者36.5%(478人)は無視できない数字で、週に1時間ではなくもう少し増やしてほしいという生徒側の希望がうか

がえる。これは外国人教師の授業を実際に受けている者28.8%の意見であり、そのチャンスがないその他の約70%の生徒の立場を考慮に入れると、外国人教師導入の希望は更に高いものと思われる。これをコース別に見ると、今のままでよいと答えた者が、英語コースで54.2%、国際コースで62.2%と全体平均とあまり変わらないが(第5-15表参照)、前項目で述べた通り、外国人教師による授業時間数自体が両コースでは平均よりも多いことをふまえて解釈すべきだろう(第5-14表参照)。これをふまえた上でも、英語コースでは少なすぎると答えた者が41.7%と平均を上回った。コースの特徴でもあろう。また、週に1時間だけ外国人教師による授業があると95.2%(外国人教師の授業を受けている22人中)の生徒が答えた情報コースでは、72.7%が1時間では少なすぎると答えていることから、生徒の要求の高さがうかがえる(第5-15表参照)。外国語学習理由として、将来の仕事や就職のため等の実用面を重視した理由をあげたり、実際の運用面を高めることを目的としてあげている学習者が少なからずいることを考えると、これは当然の結果とも言えるであろう。外国人教師の人数を増やしさえすれば問題が解決すると言うわけではないが、将来、生徒が実際にその言語を使ってコミュニケーションする機会がますます増えるであろうことを考えると、もし可能なら早いうちからそのような機会を与えることも学習意欲を高めるといふ点で効果があると思われる。

(注)(1)英語・国際・情報の各コースに所属する生徒数は全回答者数から言うと少数であるが(英語、0.5%、26人、国際、0.9%、42人、情報、1.0%、49人)、この章の主旨である外国語学習と非常に関連のあるコースと思われるので比較の対象に取り上げた。(執筆担当:村田久美子・英語)

第6-1表 新しく学びたい外国語(生徒)

| 希望外国語  | % (人数)       |
|--------|--------------|
| フランス語  | 40.7(1,877)  |
| ドイツ語   | 23.8(1,096)  |
| 中国語    | 9.0( 416)    |
| ロシア語   | 8.0( 370)    |
| イタリア語  | 6.1( 283)    |
| スペイン語  | 3.5( 163)    |
| その他    | 2.7( 123)    |
| スワヒリ語  | 2.1( 98)     |
| 朝鮮語    | 2.0( 90)     |
| アラビア語  | 1.3( 59)     |
| ポルトガル語 | 0.7( 34)     |
| 合計     | 100.0(4,609) |

## 第6章 新しく始める外国語、および外国語学習の目標について

本章は、生徒、そして生徒の保護者に対し、まず1) 英語以外にどのような外国語を学びたいと思っているか、次に2) 英語を含め、何をめざして外国語を学んでいるか、そして最後に3) 学校でどの外国語を選択したかかを問い、その結果をまとめたものである。ただし保護者においては、現在、英語を含めて何らかの外国語を学んでいる人の数が極めて少ない(5.6%)ことから、最初の問い1)を割愛した。

### 1. 英語以外にどのような外国語を学びたいと思っているか

学校での授業とは別にどの外国語を学びたいか、との問い(第6-1表参照)に対して、生徒の40.7%がフランス語と答えている。ところが前記の問い、実際に英語以外にどの外国語を学んでいるか(第5-2表参照)に対しては、一外国語へのこのような片寄りは見られなかった。そしてその学習者の数も総じてわずかであった(第5-1表参照)。そこから考察すると、フランス語、そしてそれに次いで多いドイツ語学習希望等は、少なくとも現時点での強い必要性に裏打ちされたものではないであろう。

実際、その外国語を選んだ理由の筆頭は、趣味26.8%であり、教養17.8%がこれに続いている(第6-2表参照)。また、フランス語、ドイツ語を含め、ヨーロッパ諸国語(ロシア語を除く)を希望する生徒の数が全体の74.8%を占めているが、これは、西洋文化がこの世代においても、依然としてもその見方の規範、あるいは憧憬の対象として受け止められていることを、改めて示している。

第6-2表 新しく学びたい外国語を選んだ理由(生徒)

| 希望理由    | % (人数)       |
|---------|--------------|
| 趣味      | 26.8(1,221)  |
| 教養      | 17.8( 811)   |
| 外国旅行    | 16.4( 744)   |
| 国際交流    | 14.2( 647)   |
| 仕事で必要   | 11.0( 501)   |
| その他     | 9.1( 413)    |
| 外国生活    | 2.3( 103)    |
| 資格取得    | 1.0( 46)     |
| 近親者の母国語 | 0.9( 40)     |
| 留学      | 0.5( 22)     |
| 合計      | 100.0(4,548) |

第6-3表 新しく学びたい外国語を選んだ理由(男女及びクラス別)

| 希望理由    | 男子(人数)       | 女子(人数)       | 文科系(人数)      | 理科系(人数)      | その他(人数)   |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------|
| 趣味      | 24.5(580)    | 29.3(640)    | 27.4(663)    | 26.0(536)    | 30.6(19)  |
| 教養      | 17.3(408)    | 18.5(403)    | 18.5(449)    | 17.1(353)    | 12.9(8)   |
| 外国旅行    | 15.4(365)    | 17.4(379)    | 15.6(378)    | 17.3(357)    | 14.5(9)   |
| 国際交流    | 14.2(336)    | 14.3(311)    | 15.9(384)    | 12.3(254)    | 12.9(8)   |
| 仕事で必要   | 13.2(312)    | 8.6(188)     | 8.7(211)     | 13.8(285)    | 8.1(5)    |
| その他     | 10.4(246)    | 7.7(167)     | 9.0(217)     | 9.2(189)     | 11.3(7)   |
| 外国生活    | 2.9(68)      | 1.6(35)      | 2.5(60)      | 1.9(39)      | 6.5(4)    |
| 資格取得    | 0.9(21)      | 1.1(25)      | 0.9(22)      | 1.1(22)      | 3.2(2)    |
| 近親者の母国語 | 0.7(17)      | 1.1(23)      | 1.0(24)      | 0.8(16)      | 0.0(0)    |
| 留学      | 0.5(12)      | 0.5(10)      | 0.5(13)      | 0.4(9)       | 0.0(0)    |
| 合計      | 100.0(4,548) | 100.0(4,548) | 100.0(2,421) | 100.0(2,060) | 100.0(62) |

第6-4表 新しく学びたい外国語(男女別及びクラス別)

| 希望外国語  | 男子(人数)       | 女子(人数)       | 文科系(人数)      | 理科系(人数)      | その他(人数)   |
|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------|
| フランス語  | 33.0(792)    | 49.2(1,085)  | 42.6(1,043)  | 38.7(811)    | 34.9(22)  |
| ドイツ語   | 26.3(631)    | 21.0(464)    | 20.1(492)    | 28.3(592)    | 17.5(11)  |
| 中国語    | 10.5(253)    | 7.3(162)     | 9.7(238)     | 8.2(171)     | 9.5(6)    |
| ロシア語   | 8.4(202)     | 7.6(168)     | 8.3(204)     | 7.6(159)     | 9.5(6)    |
| イタリア語  | 6.7(161)     | 5.5(122)     | 6.8(166)     | 5.2(109)     | 11.1(7)   |
| スペイン語  | 2.8(68)      | 4.3(95)      | 4.5(111)     | 2.4(50)      | 3.2(2)    |
| その他    | 4.0(96)      | 1.2(27)      | 2.3(56)      | 3.0(63)      | 6.3(4)    |
| スワヒリ語  | 3.2(77)      | 1.0(21)      | 1.8(44)      | 2.5(53)      | 1.6(1)    |
| 朝鮮語    | 2.4(57)      | 1.5(33)      | 1.7(42)      | 2.1(45)      | 4.8(3)    |
| アラビア語  | 1.5(36)      | 1.0(23)      | 1.3(32)      | 1.2(26)      | 1.6(1)    |
| ポルトガル語 | 1.1(27)      | 0.3(7)       | 0.7(18)      | 0.8(16)      | 0.0(0)    |
| 合計     | 100.0(2,400) | 100.0(2,207) | 100.0(2,446) | 100.0(2,095) | 100.0(63) |

もっとも選択動機として「仕事で必要」という実用的理由を挙げる生徒も11.0%おり、この数値は「外国旅行」16.4%に次いで4番目に多い。この「仕事で必要」との回答は、女子生徒(8.6%)よりも男子生徒(13.2%)により多い(第6-3表参照)。この差は、男子生徒が第二外国語に関しては、これを女子生徒に比べてより実用的にとらえていることを窺わせる。他方、中国語9.0%(第3位)に次いで、8.0%(第4位)の生徒がロシア語を挙げているのは、富山県のロシアとの地理的、経済的関係を反映した結果であろう。

次に、その内訳を男女別にみると(第6-4表参照)、男女ともに学習希望の最も多いのはフランス語で、ドイツ語がそれに続くものの、フランス語希望が男子生徒の33.0%であるのに対し、女子生徒が49.2%と、特に女子生徒の間で希望が強い。これに対してドイツ語においては、男女間における相違ははるかに小さい(男子26.3%、女子21.0%)。また同じ内訳を文科系、理科系クラス別にみると(第6-4表参照)、文科系ではフランス語学習希望の比率が、第2位のドイツ語希望の比率の約2倍に達している(フランス語42.6%、ドイツ語20.1%)。ところが理科系では、やはりフランス語

希望者がドイツ語希望者よりも多いとはいえ、前者の割合は後者のその約1.4倍にとどまる(フランス語38.7%、ドイツ語28.3%)。つまり女子生徒、および文化系クラスの生徒におけるフランス語希望が際立って多い。これは、フランスそしてドイツ両国の歴史・文化に対して、生徒達が抱くイメージの色分けを反映しているであろう。

## 2. 英語を含め何をめざして外国語を学んでいるか

英語を含め、外国語学習の到達目標を問う調査(第6-5表、第6-6表参照、両表とも3つまでの複数回答の結果を示す)においては、保護者、生徒の過半数(簡単な日常会話：保護者62.7%、生徒50.9%、簡単な意見交換：保護者43.6%、生徒23.3%)が、日常会話、ないしそれに準ずる簡単な意見交換、つまりヒヤリング、スピーキングの能力をつけたいと希望していることが示されている。一方、当然予想されるように、生徒においては、それと並んで大学受験に必要な能力を学習目標に挙げる者が多い(48.3%)。他方、保

第 6-5 表 外国語を学んで何ができるようになりたいか (生徒)

| 到達目標        | % (人数)       |
|-------------|--------------|
| 簡単な日常会話     | 50.9(2,346)  |
| 受験に必要な語学力   | 48.3(2,225)  |
| ニュース・映画を楽しむ | 37.2(1,715)  |
| 簡単な意見交換     | 23.3(1,075)  |
| 通訳ができる      | 21.5( 990)   |
| 新聞・小説を理解    | 18.8( 868)   |
| 簡単な案内や表示を理解 | 11.9( 548)   |
| 翻訳ができる      | 11.4( 527)   |
| 簡単な手紙を書く    | 9.1( 419)    |
| 講義の理解       | 5.6( 258)    |
| 専門論文を読む     | 5.1( 234)    |
| 外国製品の説明書を読む | 4.3( 197)    |
| 会議での発表・討論   | 4.3( 197)    |
| 論文を書く       | 2.3( 104)    |
| レポートを書く     | 1.9( 89)     |
| その他         | 1.5( 71)     |
| 合計          | 100.0(4,606) |

第 6-6 表 外国語を学んで何ができるようになりたいか (保護者)

| 到達目標        | % (人数)      |
|-------------|-------------|
| 簡単な日常会話     | 62.7( 138)  |
| 簡単な意見交換     | 43.6( 96)   |
| ニュース・映画を楽しむ | 32.7( 72)   |
| 簡単な案内や表示を理解 | 25.9( 57)   |
| 新聞・小説を理解    | 17.7( 39)   |
| 簡単な手紙を書く    | 16.8( 37)   |
| 外国製品の説明書を読む | 7.3( 16)    |
| 通訳ができる      | 8.2( 18)    |
| 翻訳ができる      | 7.3( 16)    |
| 受験に必要な語学力   | 6.8( 15)    |
| 専門論文を読む     | 6.4( 14)    |
| 講義の理解       | 5.9( 13)    |
| レポートを書く     | 2.7( 6)     |
| 会議での発表・討論   | 2.3( 5)     |
| 論文を書く       | 1.4( 3)     |
| その他         | 0.0( 0)     |
| 合計          | 100.0( 220) |

護者においては、「表示理解」を挙げる回答者(25.9%)が生徒の2倍以上(生徒においては、11.9%)いる。これは、保護者の世代が、電化製品を取扱う場合をはじめ、身の回りにあふれている英語表示に接して、それを理解する必要をより強く感じているためであろう。また保護者、生徒ともに、「ニュース・映画」、「新聞・小説理解」を挙げる回答者が相当数にのぼっているが(「ニュース・映画」に関しては、保護者の32.7%、生徒の37.2%、「新聞・小説理解」に関しては、保護者の17.7%、生徒の18.8%)、これは、テレビの2か国語放送、英字新聞の普及等に伴って、時事的な情報を原語

第 6-7 表 外国語を学んで何ができるようになりたいか (男女別)

| 到達目標        | 男子 (人数)      | 女子 (人数)      |
|-------------|--------------|--------------|
| 簡単な日常会話     | 45.9(1,094)  | 56.4(1,252)  |
| 受験に必要な語学力   | 52.7(1,258)  | 43.5( 966)   |
| ニュース・映画を楽しむ | 35.2( 839)   | 39.4( 874)   |
| 簡単な意見交換     | 23.1( 551)   | 23.6( 523)   |
| 通訳ができる      | 16.5( 394)   | 26.9( 596)   |
| 新聞・小説を理解    | 16.5( 394)   | 21.3( 473)   |
| 簡単な案内や表示を理解 | 15.5( 299)   | 11.2( 248)   |
| 翻訳ができる      | 11.2( 268)   | 11.7( 259)   |
| 簡単な手紙を書く    | 5.8( 139)    | 12.6( 280)   |
| 講義の理解       | 6.0( 143)    | 5.2( 115)    |
| 専門論文を読む     | 6.3( 151)    | 3.7( 83)     |
| 外国製品の説明書を読む | 6.1( 146)    | 2.3( 51)     |
| 会議での発表・討論   | 5.7( 136)    | 2.7( 61)     |
| 論文を書く       | 2.6( 63)     | 1.8( 41)     |
| レポートを書く     | 2.0( 48)     | 1.8( 41)     |
| その他         | 2.3( 56)     | 0.7( 15)     |
| 合計          | 100.0(2,385) | 100.0(2,219) |

のまま受け取りたいという希望が広まっていることを示している。

次に、男女別に学習到達目標の相違を見ると(第6-7表参照、3つまでの複数回答の結果を示す)、男子生徒においては、受験に必要な学力を挙げるものが最も多く(52.7%)、それに続いて、簡単な日常会話が挙げられている(45.9%)。これに対して女子生徒においては、むしろ両目標のそれぞれの数値は逆転している(受験に必要な学力：43.5%、簡単な日常会話：56.4%)。さらに、女子生徒においては、通訳、および簡単な手紙が書けることを目標として挙げる者の割合が、男子生徒のその1.5倍から2倍にのぼる(男子：女子、通訳-16.5%：26.9%、簡単な手紙-5.8%：12.6%)。以上から、女子生徒においては、男子生徒におけるよりも、外国語をコミュニケーション手段として学ぼうとする志向がより強いと言えるだろう。同時に男子生徒においては、女子生徒における以上に、大学受験の影響が強く学習姿勢の上に現れていることが窺われる。

さらにこれをコース別に見た場合(第6-8表参照、3つまでの複数回答の結果を示す)、理数科の生徒においては、簡単な日常会話を希望する割合が普通科等に比べてやや少ない(35.1%、ちなみに普通科においては51.6%)。その反面、「専門文献を読む」「講義理解」「論文を書く」「発表・討論」を挙げるものが、他のコースに比べて目立って多い(「専門文献を読む」に関して、理数科17.5%：普通科4.5%、「講義理解」に関して、理数科12.9%：普通科5.3%、「論文を書く」に関して、理数科9.3%：普通科1.9%、「発表・討論」に関

第6-8表 外国語を学んで何ができるようになりたいか (コース別)

| 到達目標        | 普通科(人数)      | 英語コース(人数)  | 国際コース(人数)  | 情報コース(人数)  | 理数科(人数)     | その他(人数)   |
|-------------|--------------|------------|------------|------------|-------------|-----------|
| 簡単な日常会話     | 51.6(2,215)  | 53.8( 14)  | 61.9( 26)  | 45.8( 22)  | 35.1( 68)   | 50.0( 1)  |
| 受験に必要な語学力   | 48.6(2,088)  | 26.9( 7)   | 35.7( 15)  | 58.3( 28)  | 44.3( 86)   | 0.0( 0)   |
| ニュース・映画を楽しむ | 37.6(1,015)  | 34.6( 9)   | 33.3( 14)  | 31.3( 15)  | 32.0( 62)   | 0.0( 0)   |
| 簡単な意見交換     | 23.2( 997)   | 34.6( 9)   | 14.3( 6)   | 25.0( 12)  | 25.8( 50)   | 50.0( 1)  |
| 通訳ができる      | 21.5( 921)   | 53.8( 14)  | 35.7( 15)  | 12.5( 6)   | 17.0( 33)   | 50.0( 1)  |
| 新聞・小説を理解    | 18.7( 804)   | 23.1( 6)   | 19.0( 8)   | 22.9( 11)  | 20.1( 39)   | 0.0( 0)   |
| 簡単な案内や表示を理解 | 12.1( 519)   | 3.8( 1)    | 9.5( 4)    | 16.7( 8)   | 7.2( 14)    | 100.0( 2) |
| 翻訳ができる      | 11.3( 486)   | 11.5( 3)   | 28.6( 12)  | 16.7( 8)   | 9.3( 18)    | 0.0( 0)   |
| 簡単な手紙を書く    | 9.1( 392)    | 7.7( 2)    | 23.8( 10)  | 8.3( 4)    | 5.2( 10)    | 50.0( 1)  |
| 講義の理解       | 5.3( 226)    | 11.5( 3)   | 4.8( 2)    | 2.1( 1)    | 2.9( 25)    | 0.0( 0)   |
| 専門論文を読む     | 4.5( 191)    | 11.5( 3)   | 2.4( 1)    | 8.3( 4)    | 7.5( 34)    | 0.0( 0)   |
| 外国製品の説明書を読む | 4.5( 191)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 4.2( 2)    | 2.1( 4)     | 0.0( 0)   |
| 会議での発表・討論   | 3.9( 169)    | 7.7( 2)    | 4.8( 2)    | 6.3( 3)    | 10.8( 21)   | 0.0( 0)   |
| 論文を書く       | 1.9( 82)     | 0.0( 0)    | 2.4( 1)    | 4.2( 2)    | 9.3( 18)    | 0.0( 0)   |
| レポートを書く     | 1.9( 82)     | 3.8( 1)    | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 3.1( 6)     | 0.0( 0)   |
| その他         | 1.5( 66)     | 0.0( 0)    | 0.0( 0)    | 6.3( 3)    | 1.0( 2)     | 0.0( 0)   |
| 合計          | 100.0(4,292) | 100.0( 26) | 100.0( 42) | 100.0( 48) | 100.0( 194) | 100.0( 2) |

第6-9表 高校で英語だけが教えられていることについて (生徒)

| 外国語の種類          | % (人数)       |
|-----------------|--------------|
| 英語だけでよい         | 76.1(3,526)  |
| 英語と他の外国語も教える    | 17.5( 812)   |
| その他             | 4.1( 191)    |
| 英語をやめて他の外国語を教える | 2.3( 105)    |
| 合計              | 100.0(4,634) |

第6-10表 高校で英語だけが教えられていることについて (保護者)

| 外国語の種類          | % (人数)       |
|-----------------|--------------|
| 英語だけでよい         | 67.7(2,484)  |
| 英語と他の外国語も教える    | 30.2(1,107)  |
| その他             | 2.0( 72)     |
| 英語をやめて他の外国語を教える | 0.2( 7)      |
| 合計              | 100.0(3,670) |

第6-11表 学校で教えることが望まれる、英語以外の外国語 (生徒)

| 外国語の種類 | % (人数)      |
|--------|-------------|
| フランス語  | 34.9( 318)  |
| ドイツ語   | 23.7( 216)  |
| 中国語    | 12.2( 111)  |
| ロシア語   | 9.2( 84)    |
| スペイン語  | 4.9( 45)    |
| 朝鮮語    | 3.7( 34)    |
| イタリア語  | 3.3( 30)    |
| スワヒリ語  | 3.2( 29)    |
| その他    | 3.1( 28)    |
| アラビア語  | 1.1( 10)    |
| ポルトガル語 | 0.8( 7)     |
| 合計     | 100.0( 912) |

第6-12表 学校で教えることが望まれる、英語以外の外国語 (保護者)

| 外国語の種類 | % (人数)       |
|--------|--------------|
| 中国語    | 39.0( 442)   |
| フランス語  | 18.5( 200)   |
| ロシア語   | 16.8( 183)   |
| ドイツ語   | 15.5( 168)   |
| 朝鮮語    | 3.3( 36)     |
| スペイン語  | 2.7( 29)     |
| その他    | 1.4( 15)     |
| イタリア語  | 0.9( 10)     |
| アラビア語  | 0.8( 9)      |
| ポルトガル語 | 0.7( 8)      |
| スワヒリ語  | 0.4( 4)      |
| 合計     | 100.0(1,083) |

して、理数科10.8%：普通科3.9%)。ここから、理数科の生徒のなかに、外国語を、将来専攻する学問と結びつけて考えている者が比較的多いことが推察される。

### 3. 学校でどの外国語を選択したいか

次に、学校で学ぶ外国語選択に関する調査結果を見てみよう。まず、学校で学ぶ外国語を、英語に限定すべきか否かについては、保護者の67.7%、生徒の76.1%が、現行通り英語のみを学校で教えるのをよしとしている(第6-9表、第6-10表参照)。ここでは、他の外国語も教えるべきだという意見が、保護者の中に30.2%見られるのが注目される。これは、生徒における17.5%をはるかに上回っている。その理由として、ひとつには授業の消化に追われている当事者の立場と、直接の当事者ではない保護者の立場の違いが考えられ

る。さらには保護者において、富山県の近隣諸国との地理的、経済的關係が、生徒における以上に考慮されているのではないかとと思われる。

例えば、学校での履修を希望するその他の外国語を選択する調査結果(第6-11表参照)において、生徒はフランス語を筆頭に挙げ(34.9%)、以下ドイツ語(23.7%)、中国語(12.2%)、ロシア語(9.%)と続く。この数値は、前記の、学校外での英語を除く外国語学習における希望調査(第6-1表参照)と大体合致している。そこから、ここでも同様に彼らの履修希望の理由が、趣味や教養という非実用的で、多少とも雰囲気流れたものであることが想像される。ところが保護者においては(第6-12表参照)、学校で希望する第2外国語のなかで最も多いのは中国語で、これが39.0%を占め、ロシア語16.8%がそれに続く。朝鮮語希望が3.3%で、フランス語やドイツ語を希望する割合よりも少ないのであるが、それを除けば、この結果は、富山県が環日本海において占める地理的、経済的位置を反映したものと言えるであろう。すでに生徒においても、第2外国語の選択希望は、ロシア語が中国語に準ずる人気を得ている点で、富山県の地理的位置を反映しているが、保護者においては、両外国語の和を合わせたものが希望全体の過半数を占めるという形で、これがさらに色濃く映し出されたものになった。

(執筆担当：中川佳英・ドイツ語)

## 第7章 外国語使用の現状と将来について

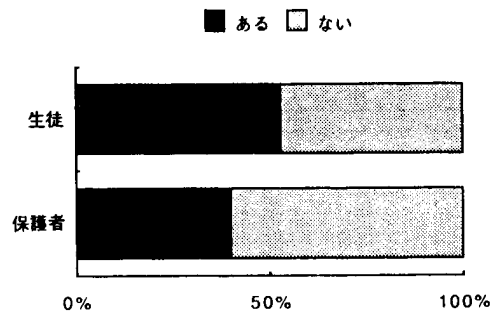
本章は、富山県内での外国語使用の現状および外国語使用の将来に関する調査の結果を報告する。

生徒・保護者の両者に対して同じ質問をしたが、回答のための選択項目は生徒・保護者のそれぞれの立場に合わせて一部変更した。(詳細は質問紙を参照。)

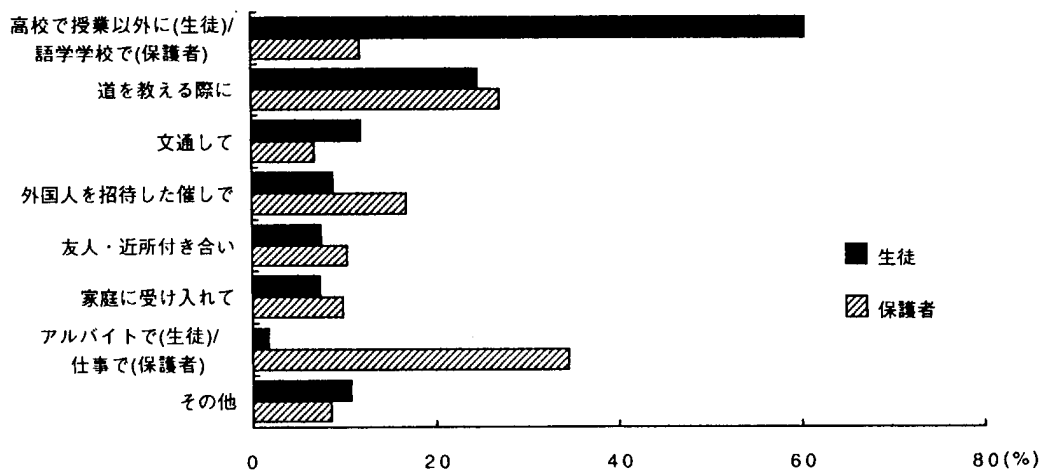
### 1. 富山県内での外国語使用の現状

現在富山県で外国語が実際にどのように使われているのかを知るために、以下の質問をした。

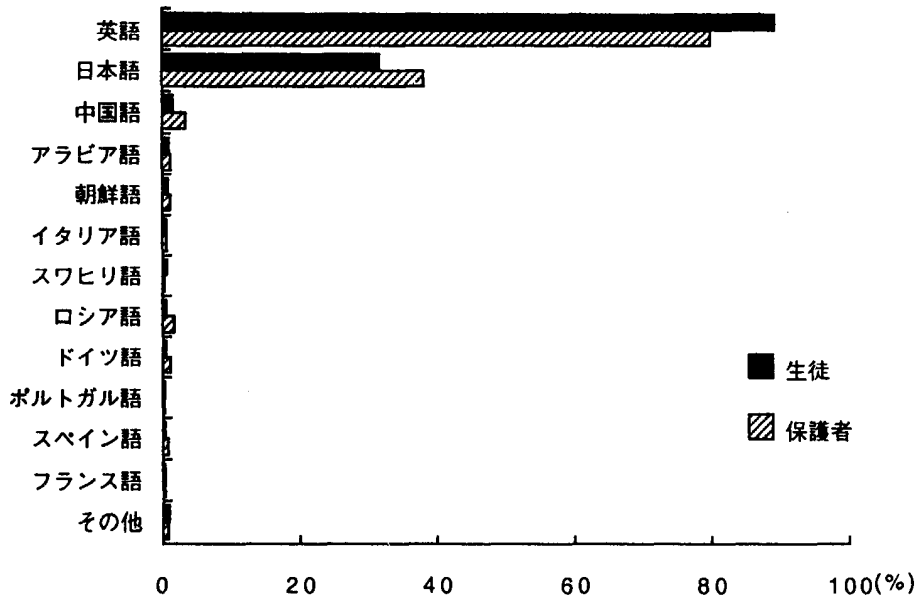
- ・富山県内で、外国語や日本語を使って外国人とやりとりをしたことがあるか[質問項目：生徒C-VIII(a)、保護者C-V(a)].
- あるとしたら、
- ・どんな状況で[質問項目：同上]、
- ・何語を使用してやりとりをしたか[質問項目：生



第7-1図 外国人とやりとりをした経験の有無  
(有効回答総数：生徒4343、保護者3089)



第7-2図 外国人とやりとりした際の状況(複数回答可)  
(有効回答総数：生徒2293、保護者1233)



第7-3図 富山県内で外国人とやりとりした際に使用した言語(複数回答可)  
(有効回答総数：生徒2279、保護者1219)

徒C-VIII(b)、保護者C-V(b)]。

県内で、外国語や日本語を使って外国人とやりとりをしたことがあると答えたのは、第7-1図に示すように、生徒では52.8%、保護者では39.9%で、生徒のほうが率がやや高かった。

どのような場面でやりとりをしたかという質問(複数回答可)に対しては、第7-2図のような回答結果が得られた。生徒の場合は「高校の外国人講師や留学生と(授業以外で)」が際立って多く60.6%を占めたのに対し、保護者では「仕事で」が第1位で34.5%だった。これは、それぞれの「主な活動の場」に該当するという点で共通している。第2位は、生徒・保護者ともに「道を教える際に」で、生徒24.8%、保護者27.2%と似かよった割合だった。

第7-3図は「やりとりをした際にどの言語を使用したか」という質問(複数回答可)に対する回答結果である。生徒・保護者ともに英語が特に多く(生徒：89.4%、保護者：80.1%)、日本語がそれにつづいている(生徒：31.8%、保護者：38.3%)。英語以外の外国語では、中国語やロシア語をはじめ回答項目としてあげられた言語のどれに対しても数人以上の回答があったが、いずれも5%に満たない低い率だった。

今回の調査では、やりとりをした相手の国籍や母語、日本語が理解できる相手だったか否かなどの詳細は不明だが、生徒・保護者のどちらに関しても、外国人とやりとりをする場合にはa)日本語よりも英語を使用す

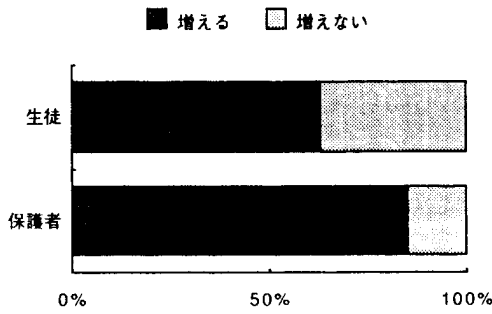
る率が高いこと、また、b)他の外国語とくらべた場合、英語が使用される率が圧倒的に高いという点が明らかになった。a)については、「外国人にたいしては外国語を使う」という日本的な「相手にあわせる」風潮が大きな要因になっているのではないかと推察する。また、b)については、今日の日本の教育やマスメディアにおいては英語が唯一の「代表的な」外国語であるという現実をものがたっていると言える。英語を母語としない外国人や「日本語」を学ぶために日本に来る外国人が増加しているなかで、「外国人とやりとりする時は外国語で」という風潮や、これまでの「外国語=英語」という単純な認識が将来どう変化していくかは興味深い問題であり、今後の調査による解明が期待される。

## 2. 富山県内での外国語使用の将来

富山県内での外国語使用の将来を探るために以下の質問をした。

- ・将来、富山県内で外国語を使う機会はふえると思うか[質問項目：生徒C-IX(a)、保護者C-VI(a)]。
- ・どんな理由で外国語を使う機会がふえると思うか[質問項目：生徒C-IX(b)、保護者C-VI(b)]。
- ・富山県に住んでいる人にとって、将来一番必要になる外国語は何語だと思うか[質問項目：生徒C-X、保護者C-VII]。

外国語の使用機会が増えるかどうかという質問に対



第7-4図 富山県における将来の外国語使用機会  
(有効回答総数：生徒4625、保護者3954)

する回答結果を第7-4図に示す。今後、富山県において外国語を使用する機会が増えると考えている人は、生徒の62.9%、保護者の85.0%で、生徒・保護者の多くが外国語の必要性を感じていることが示されたが、特に、保護者において、外国語の必要性を強く感じている人が多いことがわかった。

前項(1. 富山県内での外国語使用の現状)で述べたように、「県内で外国人とやりとりをしたことがある」のは、生徒では52.8%、保護者では39.9%と、生徒が保護者を上回った。にもかかわらず、「将来、富山県で外国語を使う機会が増える」と考える割合は生徒より保護者のほうが多かった。保護者は、現在外国人とやりとりする機会が少ない分、よけいに将来の外国語使用機会が増えるだろうと想像するのか、あるいは、実際に職場での体験を通して外国語使用機会が増加する傾向にあるのを感じているためか、など推測することができる。

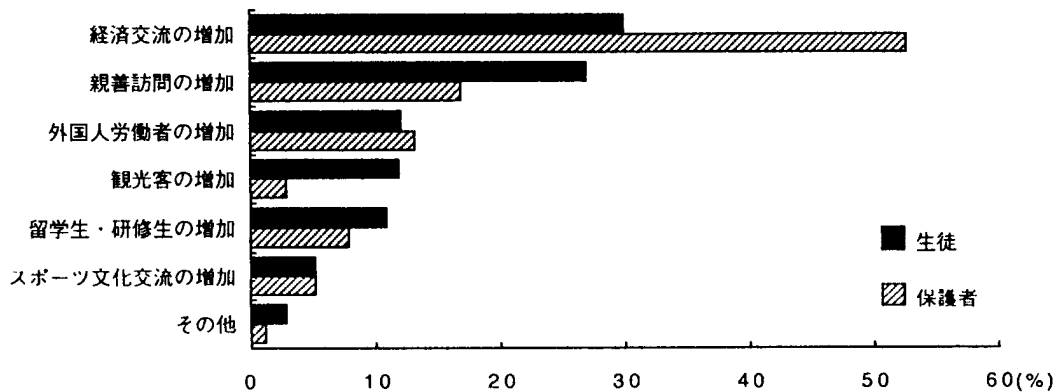
どう理由で外国語の使用が増えるかと考えるかという質問に対しては第7-5図のとおり結果が得られた。生徒では、「経済・技術交流が盛んになるだろうから」(30.0%)と「親善訪問の機会がふえるだろうから」

ら」(27.0%)の2つが主要な理由としてはほぼ同率であげられたのに対して、保護者では「経済・技術交流が盛んになるだろうから」という回答が他の回答を大幅に上回った(52.7%)。「経済・技術交流」が実際に物、金、技術などのやりとりが行われる実利的な交流であるのに対して、「親善訪問」が実利には直接関係なく、むしろ友好を主眼とした交流であると捉えたうえで上記の結果をみなおすと、保護者ではもっぱら実利的交流に対する関心が顕著であるのに対して、生徒では実利という側面だけでなく友好という点にも同じくらいの関心が示されていると理解してよいのではないだろうか。

第7-6図は、富山県に住んでいる人にとって、これから何語が一番必要になると思うか、という質問に対する回答結果である。生徒・保護者ともに、英語という回答が1位で他をひきはなした(生徒60.0%・保護者64.9%)。2位以降は、ロシア語(生徒24.2%・保護者23.5%)、中国語(生徒4.1%・保護者8.6%)、朝鮮語(生徒3.6%・保護者1.9%)の順であった。

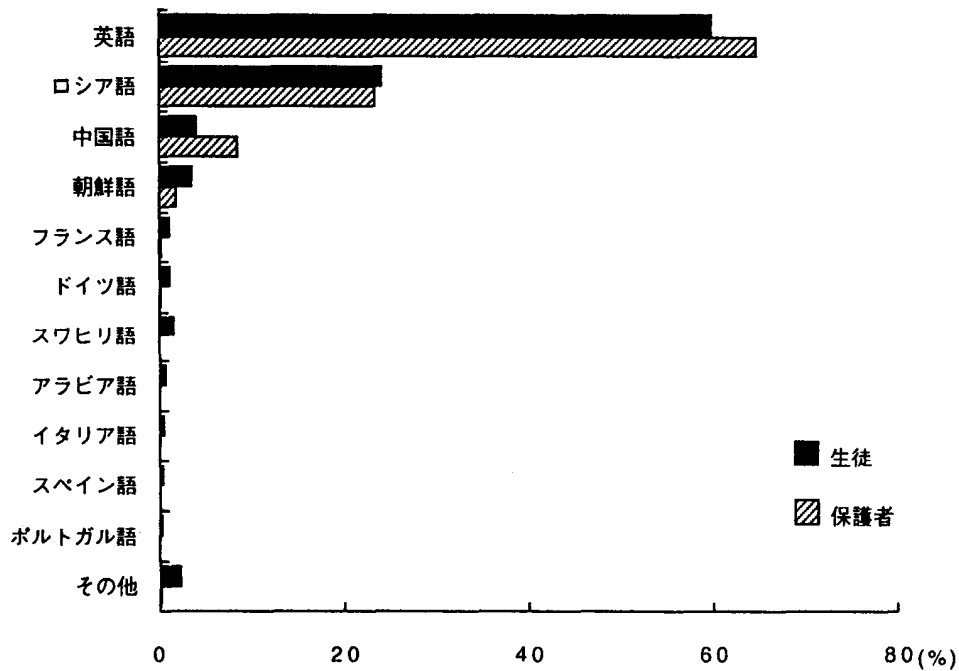
「富山県に住んでいる人にとって」という限定付きの質問であったにもかかわらず、英語をあげた者が圧倒的に多かったのは、英語が相手を選ばない万能の「国際語」として一般的に認識されていることの現われとみることができる。他方、英語には及ばない率であるとはいえ、2位から4位がロシア語、中国語、朝鮮語だったことは、これら近隣諸国との交流が富山県に住んでいる人にとって将来ますます盛んなものになっていくだろうという予測に基づいて回答がなされた結果と考えられる。北陸3県を中心に「環日本海交流」が推進されつつある現状を反映した結果とみなすことができるだろう。

将来富山県で必要になると思われる英語以外の外国



第7-5図 富山県で将来外国語使用機会が増えると思う理由  
(有効回答総数：生徒2883、保護者3297)





第7-6図 将来富山県で最も必要となる言語  
(有効回答総数：生徒4563、保護者3850)

語としてロシア語、中国語、朝鮮語があげられたという結果を、5章や6章で報告された英語以外の外国語に関する分析結果とつき合わせると、生徒と保護者では英語以外の外国語に対する考え方がやや異なることがわかる。

まず保護者についてみると、英語に次いで学習者が多い外国語は、割合として少ないが中国語と朝鮮語であった(第5-5表)。また高校で英語のほかに、あるいは英語のかわりに教えるとよいと思う外国語としては高率で中国語が第1位だった(第6-12表)。これらの結果から、保護者の場合、英語以外の外国語としては近隣諸国の言語に関心が高いということが示唆される。次に生徒についてみると、現在実際に学んでいる英語以外の外国語で多かったのはフランス語とドイツ語だった(第5-2表)。また、英語以外にこれから学んでみたい外国語もフランス語とドイツ語がそれぞれ1、2位だった(第6-1表)。さらに、高校で英語のほかに、あるいは英語のかわりに教えるとよいと思う外国語も、やはりフランス語、ドイツ語がそれぞれ1、2位だった(第6-11表)。このように、自分自身が学ぶなら「英語の次はフランス語・ドイツ語」と考えている生徒が、「将来富山県で最も必要になる外国語」としては英語の次にロシア語、中国語、朝鮮語をあげた点は興味深い。

英語を母語としない者どうしがやりとりをする際は「共通語」として英語を使用するケースが多いが、混みいった内容に関してやりとりをする場合には互いの言語を理解できた方がより厳密なコミュニケーションが可能になるであろう。このような観点から富山県における外国語使用の将来についても一度考えると、英語が国際語としてますます広く一般に使用される一方、英語以外の外国語としては、富山県の地理的位置を反映して、また「環日本海交流」の進展にともなって、ロシア語、中国語、朝鮮語など近隣諸国の言語の必要性が次第に高まっていくことが予想される。

(執筆担当：垣田 邦子・英語)

## 付 記

本研究は富山県立大学の平成2年度・3年度の特別研究費交付によって実施されたものである。また、本研究は富山県公立高等学校長会ならびに関係高等学校の諸先生のご理解とご協力によって実施することができた。さらに、富山県公立高等学校の事情に精通された富山県立大学参与の桐谷稔・平田卓郎両氏に格別のご教示とご配慮をいただいた。ここに、あらためて関係各位に深甚の謝意を表するものである。

(寛田 知義)

【生徒活用】

「おま原研い」

この調査は「富山県における進学意識」についての研究のためのものです。このため、「進学」とそれにかかわる領域（特に外国語教育関連）について質問紙調査を行い、検討したいと思っています。また、これは各個人（保護者・生徒）の志望を調査するというより、現在、富山県の高校に学んでいる生徒及びその保護者の方々の「進学」についての考え方の全般的な傾向を見ようとするものです。したがって、個人や学校を調査するものではありませんので、お名前などを記入していただく必要はございません。

ご面倒な事をお願いして恐縮ですが、よろしくご協力くださるようお願い申し上げます。

富山県立大学 教育学研究室  
代表 眞田 知義

自己

I あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。

- 1. 男性
- 2. 女性

II あなたの所属している科（コース）の番号に○をつけてください。

- 1. 普通科
- 2. 普通科・英語コース
- 3. 普通科・国際コース
- 4. 普通科・情報コース
- 5. 理数科
- 6. その他 ( )

III あなたの所属しているクラス（系）の番号に○をつけてください。

- 1. 文科系
- 2. 理科系
- 3. その他 ( )

就職希望の進路希望について

I (a) あなたは高校卒業後、進学することを希望しますか。また、進学希望の場合、できればどの段階の学校まで行きたいと思いますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- 1. 進学を希望しない（高校まででよい）
- 2. 専修（専門）学校まで
- 3. 短期大学まで
- 4. 大学まで
- 5. 大学院まで
- 6. その他 ( )

(b) 前問での選択の理由を、次の項目から3つまで（1～3個）選び番号に○をつけてください。

- 1. 好きな職業につけるから
- 2. 教養を身につけるため
- 3. 結婚に有利だから
- 4. 就職に有利だから
- 5. 自分の学力から考えて
- 6. 社会に貢献できる職業につけるから
- 7. 社会で高い地位につけるから
- 8. 高い収入を得ることができるから
- 9. 親がすすめるから
- 10. 男（女）だから
- 11. 経済的事情から
- 12. 勉強が嫌いだから
- 13. 親の職業を継ぐため
- 14. 多くの友人ができると思うから
- 15. 今後、学生生活をさらに楽しみたいから
- 16. 学生生活はつまらないと思うから
- 17. 専門的技術を早く身につけたいから
- 18. 早くから実社会に出たいから
- 19. 友達が多くが進学すると思うから
- 20. 友達があまり進学しないと思うから
- 21. 現在取り組んでいるスポーツ、音楽、芸術をさらに続けられるから
- 22. 興味を持っている分野の勉強（学問）ができるから
- 23. 社会・周辺の状況から考えて、適当と思うから
- 24. 進学しても役にたかないと思うから
- 25. ただ何となく
- 26. その他 ( )

II あなたは将来どのような職業につきたいと思いますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- 1. 技術者
- 2. 会社員（営業・事務系）
- 3. 公務員
- 4. 医療関係（医師・看護婦等）
- 5. 商店等自営業
- 6. 農林漁業
- 7. 研究者（大学・研究所等）
- 8. 教育関係（教員・保母等）
- 9. 芸術家
- 10. 美容・理容師
- 11. 建築家・デザイナー
- 12. スポーツ関係（プロ野球選手等）
- 13. パイロット・スタeward
- 14. 新聞・雑誌記者
- 15. 法律関係（弁護士等）
- 16. 公認会計士・税理士
- 17. 会社等経営者
- 18. わかからない
- 19. その他 ( )

以下の質問には、短期大学、大学、大学院まで進学したいと思う人だけ回答してください。

その他の人は、5ページの「C 外国語教育について」の項に進んでください。

**進学意向調査**

I どの専門分野(学部・学科)に進学したいと思いますか。次の項目から3つまで選び番号に○をつけてください。

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 外国語学部系              | 2. 文学部系(文学、哲学、歴史、心理、社会学など) |
| 3. 法学部系(法律、政治など)       | 4. 経済学部系(経済、経営、商学など)       |
| 5. 教育学部系               | 6. 家政学部系(家政、生活科学など)        |
| 7. 芸術学部系(音楽、美術、演劇など)   | 8. 工学部系                    |
| 9. 理学部系(物理、化学、生物、地学など) | 10. 農学部系(農業、林業、水産、食品など)    |
| 11. 医学部系(医学、歯学など)      | 12. 医療技術学部系(看護、医療技術など)     |
| 13. 薬学部系               | 14. 体育学部系                  |
| 15. 国際関係学部系            | 16. 社会福祉学部系                |
| 17. その他の学部・学科 ( )      |                            |

II (a) 国公私立のうちのどの学校に行きたいと思いますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 私立(大学・短大) | 2. 公立(大学・短大)     |
| 3. 国立(大学・短大) | 4. どこもよい(こだわらない) |
| 5. その他 ( )   |                  |

II (b) 前問で1~3を選んだ人は、その学校に進学したいと希望する理由を、次の項目から3つまで選び番号に○をつけてください。

- |                              |                   |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 学費が安いから                   | 2. 受験科目数が適当だから    |
| 3. 社会に出たときに有利だから             | 4. 伝統があり有名だから     |
| 5. その学校の校風が好きだから             | 6. 施設・設備が充実しているから |
| 7. 周囲の人々が好きだから               | 8. その学校のイメージがよいから |
| 9. 入学が容易(簡単)だと思うから           |                   |
| 10. 友達がそこに進学したいと言っているから      |                   |
| 11. 充実した、サークル、クラブ活動ができるところから |                   |
| 12. 有名な教授がいるから               |                   |
| 13. 近親者の出身または在学校だから          |                   |
| 14. その他 ( )                  |                   |

III (a) あなたはできればどの地域にある学校に進学したいですか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 1. 富山県   | 2. 富山県の近県(石川、福井、新潟) |
| 3. 東京都圏内 | 4. 京阪神圏内            |
| 5. 名古屋圏内 | 6. その他の地域 ( )       |
| 7. 外国    | 8. どこもよい(こだわらない)    |

(b) 前問で1~7を選んだ人は、その理由を、次の項目から3つまで選び番号に○をつけてください。

- |                           |
|---------------------------|
| 1. 自宅から通学できるから            |
| 2. 自宅から離れて下宿などで学生生活ができるから |
| 3. 近親者・知人が住んでいるから         |
| 4. 有名校が多いから               |
| 5. 大都市で学生生活がしたいから         |
| 6. アルバイトをしやすいから           |
| 7. その地域が好きだから             |
| 8. 経済的理由から                |
| 9. 外国で生活がしたいから            |
| 10. その他 ( )               |

IV(a) あなたは直接、外国人教師（その言葉を母語とする人）から外国語を学んでいますか。次の項目から選び番号に○をつけてください。また「1. 学んでいる」を選んだ人は⑦、⑧ それぞれの場合について、選あたりの学習時間も記入してください。

|           |          |            |
|-----------|----------|------------|
| 1. 学んでいる  | ⑦ 高校の授業で | 週 約 ( ) 時間 |
| 2. 学んでいない | ⑧ その他の場合 | 週 約 ( ) 時間 |

(b) 前問で「1. 学んでいる」と答えた人に、さらにおたずねします。その時間数について、あなたはどのように入りますか。次の項目から選び、番号に○をつけてください。

|          |            |
|----------|------------|
| 1. 多すぎる  | 2. 今のままでよい |
| 3. 少なすぎる | 4. その他 ( ) |

V(a) 今新しく外国語を学び始めるとしたら何語を選びますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

|          |               |           |
|----------|---------------|-----------|
| 1. アラビア語 | 2. イタリア語      | 3. 韓国・朝鮮語 |
| 4. スペイン語 | 5. スワヒリ語      | 6. 中国語    |
| 7. ドイツ語  | 8. フランス語      | 9. ポルトガル語 |
| 10. ロシア語 | 11. その他 ( ) 語 |           |

(b) 上記の外国語を選んだのはなぜですか。あてはまる理由の番号に1つだけ○をつけてください。

|                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 将来仕事で必要と思うから  | 2. 資格取得のため      |
| 3. 教養を身につけるため    | 4. 趣味として        |
| 5. 外国旅行のため       | 6. 外国で生活するため    |
| 7. 近親者、友人の母国語だから | 8. 国際交流・国際理解のため |
| 9. 留学のため         | 10. その他 ( )     |

**外国語教育に関する調査**

I (a) あなたは今、英語以外に何か外国語を学んでいますか。あてはまる番号に○をつけてください。

|       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

(b) 前問で「1. はい」と答えた人におたずねします。あなたは現在、何語を学んでいますか。あてはまる外国語を次の項目から3つまで選んで番号に○をつけてください。

(言語名はアイウエオ順です。以下同様)

|          |               |           |
|----------|---------------|-----------|
| 1. アラビア語 | 2. イタリア語      | 3. 韓国・朝鮮語 |
| 4. スペイン語 | 5. スワヒリ語      | 6. 中国語    |
| 7. ドイツ語  | 8. フランス語      | 9. ポルトガル語 |
| 10. ロシア語 | 11. その他 ( ) 語 |           |

II 英語及びその他の外国語を、あなたはなぜ学んでいますか。その理由（複数回答可）を次の項目から選び、その番号を記入欄に書き入れてください。（英語以外は外国語名を記入してください。）

1. 授業科目だから
2. 受験に必要だから
3. 資格取得のため
4. 就職の際に有利だから
5. 将来仕事で必要と思うから
6. 教養を身につけるため
7. 趣味として
8. 外国旅行のため
9. 外国で生活するため
10. 近親者、友人の母国語だから
11. 国際交流、国際理解のため
12. 留学のため
13. その他 ( )

| 外国語   | 理由（番号で記入-複数回答可） |
|-------|-----------------|
| 英     |                 |
| ( ) 語 |                 |
| ( ) 語 |                 |
| ( ) 語 |                 |

III あなたは1週間どのくらいの時間、外国語を勉強していますか。あてはまる時間数を次の⑦~⑩の中から選び、その記号を記入欄に書き入れてください。

- ⑦. 週0時間（勉強していない）
- ⑧. 週1時間未満
- ⑨. 週1時間～3時間未満
- ⑩. 週3時間～5時間未満
- ⑪. 週5時間以上

|                 | 英語      | その他の外国語 |
|-----------------|---------|---------|
|                 | (記号で記入) | (記号で記入) |
| 1. 学校で          |         |         |
| 2. 塾・予備校・語学学校等で |         |         |
| 3. 家庭で          |         |         |

VI あなたは英語やその他の外国語を学んで具体的に何が得意になるようにしたいですか。次の項目から3つまで選んで、その番号に○をつけてください。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. 受験に必要な語学力をつける    | 2. 簡単なあいさつや日常会話ができる |
| 3. ニュース、映画等を聞いて楽しめる | 4. 簡単な案内、表示が理解できる   |
| 5. 簡単な手紙が書ける        | 6. 簡単な意見の交換ができる     |
| 7. 新聞、小説などを読んで理解できる | 8. 外国製品の説明書、手引書が読める |
| 9. 通訳ができる           | 10. 翻訳ができる          |
| 11. レポート、報告書などが書ける  | 12. 講義、講演を聴いて理解できる  |
| 13. 専門分野の文献が読める     | 14. 専門分野の論文が書ける     |
| 15. 会議などで発表、討論ができる  | 16. その他 ( )         |

VI(a) 高校では外国語として英語だけが教えられていることが多いですが、これについてどう思いますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |                         |
|-------------------------|
| 1. 英語だけでよい              |
| 2. 英語のほかに他の外国語も教えたほうがよい |
| 3. 英語をやめて他の外国語を教えたほうがよい |
| 4. その他 ( )              |

(b) 前問で「2」、「3」を選んだ人にとさらにおたずねします。どの外国語を教えるとうよいと思いますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |          |             |           |
|----------|-------------|-----------|
| 1. アラビア語 | 2. イタリア語    | 3. 韓国・朝鮮語 |
| 4. スペイン語 | 5. スウヒリ語    | 6. 中国語    |
| 7. ドイツ語  | 8. フランス語    | 9. ポルトガル語 |
| 10. ロシア語 | 11. その他 ( ) | 語         |

VI(a) あなたは富山県内で、外国語や日本語を使って、外国人とやりとりをしたことがありますか。それはどのような場合か、次の項目から選び番号に○をつけてください。(複数回答可)

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 道を教える際に              | 2. 文通して              |
| 3. 高校の外国人講師や留学生と(授業以外で) | 4. 友人としてまたは近所付き合いの中で |
| 5. アルバイト先で              | 6. 家庭に外国人を受け入れて      |
| 7. 外国人を招待した催しで          | 8. その他 ( )           |
| 9. そのような機会はない           |                      |

VI(b) 前問で1~8を選んだ人にとさらにおたずねします。その際、どの言葉を使いましたか。次の項目から選び番号に○をつけてください。(複数回答可)

- |             |            |          |
|-------------|------------|----------|
| 1. アラビア語    | 2. イタリア語   | 3. 英語    |
| 4. 韓国・朝鮮語   | 5. スペイン語   | 6. スウヒリ語 |
| 7. 中国語      | 8. ドイツ語    | 9. 日本語   |
| 10. フランス語   | 11. ポルトガル語 | 12. ロシア語 |
| 13. その他 ( ) | 語          |          |

IX(a) 将来、富山県内で外国語を使う機会は、ふえらると思いませんか。次の項目から選び番号に○をつけてください。

- |       |         |
|-------|---------|
| 1. 思う | 2. 思わない |
|-------|---------|

(b) 前問で「1. 思う」と答えた人にとさらにおたずねします。それは特にどのような理由からですか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 富山県と諸外国との経済技術交流が盛んになるから   |
| 2. 富山県と諸外国とのスポーツ文化交流が盛んになるから |
| 3. 富山県と諸外国との親善訪問の機会がふえらるから   |
| 4. 富山県を訪れる外国人観光客の数がふえらるから    |
| 5. 富山県で働く外国人の数がふえらるから        |
| 6. 富山県内の留学生、研修生の数がふえらるから     |
| 7. その他 ( )                   |

X 富山県に住んでいる人にとって、これからどの外国語が一番必要になると思いませんか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |            |          |             |
|------------|----------|-------------|
| 1. アラビア語   | 2. イタリア語 | 3. 英語       |
| 4. 韓国・朝鮮語  | 5. スペイン語 | 6. スウヒリ語    |
| 7. 中国語     | 8. ドイツ語  | 9. フランス語    |
| 10. ポルトガル語 | 11. ロシア語 | 12. その他 ( ) |
| 語          |          |             |

ご協力ありがとうございました

【保筆者用】

「まお原真い、」

この調査は「富山県における進学意識」についての研究のためのものです。このため、「進学」とそれにかかわる領域（特に外国語教育関連）について質問紙調査を行い、検討したいと思っています。

また、これは各個人（保護者・生徒）の志望を調査するというより、現在、富山県の高校に学んでいる生徒及びその保護者の方々の、「進学」についての考え方の全般的な傾向を見ようとするものです。したがって、個人や学校を調査するものではありませんので、お名前などを記入していただく必要はございません。

要はございません。

ご面倒な事をお願いして恐縮ですが、よろしくご協力くださるようお願い申し上げます。

富山県立大学 教育学研究室

代表 眞田 知義

書己  
(どなたかお一人で記入してください)

I あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。

|       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

II 生徒さんとあなたの就柄について、あてはまる番号に○をつけてください。

|      |      |       |       |            |
|------|------|-------|-------|------------|
| 1. 父 | 2. 母 | 3. 祖父 | 4. 祖母 | 5. その他 ( ) |
|------|------|-------|-------|------------|

III あなたの年齢について、あてはまる番号に○をつけてください。

|              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 3.5才以下    | 2. 3.6才~4.0才 | 3. 4.1才~4.5才 |
| 4. 4.6才~5.0才 | 5. 5.1才~5.5才 | 6. 5.6才以上    |

IV ご家庭の主な職業（主たる生計を維持するもの）について、あてはまる番号に1だけ○をつけてください。

|  |
|--|
| 1. 農林漁業                                  |
| 2. 運輸・通信従事者（運転者、通信従事者等）                  |
| 3. 商店等自営業者                               |
| 4. 販売従事者（被雇用-商品販売従事者等）                   |
| 5. 会社等経営者                                |
| 6. 事務従事者（会社、官公庁等の一般事務従事者等）               |
| 7. 管理職（官公庁・会社・団体の管理職、役員等）                |
| 8. 技能工・生産工程及び労務作業者（製造工場作業、建設・電気作業等）      |
| 9. サービス職業従事者（家事サービス、理容・美容師等）             |
| 10. 専門的・技術的職業従事者（研究者、技術者、医者、弁護士、教員、芸術家等） |
| 11. その他 ( )                              |

保護者の進学希望に関する質問

I (a) あなたはお子さんが高校卒業後、進学することを希望されますか。また、希望されます場合、できればどの段階の学校まで行かせたいと思われませんか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- 1. 進学を希望しない(高校まででよい)
- 2. 幹校(専門)学校まで
- 3. 短期大学まで
- 4. 大学まで
- 5. 大学院まで
- 6. その他( )

(b) 前問での選択の理由を、次の項目から3つまで(1~3個)選び番号に○をつけてください。

- 1. 子どもが希望する職業につけるから
- 2. 教養を身につけてほしいから
- 3. 結婚に有利だから
- 4. 就職に有利だから
- 5. 子どもの学力から考えて
- 6. 社会に貢献できる職業につけるから
- 7. 社会で高い地位につけるから
- 8. 高い収入を得る事ができるから
- 9. 子どもが強く希望しているから
- 10. 男(女)の子だから
- 11. 経済的事情から
- 12. 子どもが勉強を嫌いだから
- 13. 親の職業を継がせるため
- 14. 多くの友人ができると思うから
- 15. 今後、学生生活をさらに楽しませたいから
- 16. 学生生活はつまらないと思うから
- 17. 専門技能を早く身につけさせたいから
- 18. 早くから実社会に出たいから
- 19. 子どもの友達の多くが進学すると思うから
- 20. 子どもの友達あまり進学しないと思うから
- 21. 子どもが取り組んでいるスポーツ、音楽、芸術をさらに続けられるから
- 22. 子どもが興味を持っている分野の勉強(学問)ができるから
- 23. 社会・周辺の状況から考えて、適当と思うから
- 24. 進学しても役に立たないと思うから
- 25. ただ何となく
- 26. その他( )

II あなたはお子さんに将来どのような職業についてほしいと思われませんか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- 1. 技術者
- 2. 会社員(営業・事務系)
- 3. 公務員
- 4. 医療関係(医師・看護婦等)
- 5. 商店等自営業
- 6. 農林漁業
- 7. 研究者(大学・研究所等)
- 8. 教育関係(教員・保母等)
- 9. 芸術家
- 10. 美容・理容師
- 11. 建築家・デザイナー
- 12. スポーツ関係(プロ野球選手等)
- 13. パイロット・スチュワーデス
- 14. 新聞・雑誌記者
- 15. 法律関係(弁護士等)
- 16. 公認会計士・税理士
- 17. 会社等経営者
- 18. わからない
- 19. その他( )

以下の質問には、お子さんに短期大学、大学、大学院まで進学してほしいと思っておられる方だけ回答してください。

その他の方は、6ページの「C 外国語教育に関して」の項に進んでください。

進学希望の職業に関する質問

I どの専門分野(学部・学科)に進学してほしいと思われませんか。次の項目から3つまで選び番号に○をつけてください。

- 1. 外国語学部系
- 2. 文学部系(文学、哲学、歴史、心理、社会学など)
- 3. 法学部系(法律、政治など)
- 4. 経済学部系(経済、経営、商学など)
- 5. 教育学部系
- 6. 家政学部系(家政、生活科学など)
- 7. 芸術学部系(音楽、美術、演劇など)
- 8. 工学部系
- 9. 理学部系(物理、化学、生物、地学など)
- 10. 農学部系(農業、林業、水産、食品など)
- 11. 医学部系(医学、歯学など)
- 12. 医療技術学部系(看護、医療技術など)
- 13. 薬学部系
- 14. 体育学部系
- 15. 国際関係学部系
- 16. 社会福祉学部系
- 17. その他の学部・学科( )

II (a) 国公立のうちのどの学校に行ってほしいと思われませんか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- 1. 私立(大学・短大)
- 2. 公立(大学・短大)
- 3. 国立(大学・短大)
- 4. どこでもよい(こだわらない)
- 5. その他( )

国際外国語教育について

II (b) 前問で1~3を選ばれた方におうかがいします。その学校に行ってほしい理由を、次の項目から3つまで選び番号に○をつけてください。

- |                              |                   |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 学費が安いから                   | 2. 受験科目数が適当だから    |
| 3. 社会に出たときに有利だから             | 4. 伝統があり有名だから     |
| 5. その学校の校風が好きだから             | 6. 施設・設備が充実しているから |
| 7. 周囲の人々がすすめるから              | 8. その学校のイメージがよいから |
| 9. 入学が容易(簡単)だと思うから           |                   |
| 10. 子どもがそこに進学したいと言っているから     |                   |
| 11. 充実した、サークル、クラブ活動ができると思うから |                   |
| 12. 有名な先生がいるから               |                   |
| 13. 近親者の出身または在学だから           |                   |
| 14. その他 ( )                  |                   |

III (a) あなたはお子さんに、できればどの地域に進学してほしいと思われれますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 1. 富山県   | 2. 富山県の近県(石川、福井、新潟) |
| 3. 東京都圏内 | 4. 京阪神圏内            |
| 5. 名古屋圏内 | 6. その他の地域 ( )       |
| 7. 外国    | 8. どこでもよい(こだわらない)   |

(b) 前問で1~7を選ばれた方は、その理由を次の項目から3つまで選び番号に○をつけてください。

- |                        |
|------------------------|
| 1. 自宅から通学できるから         |
| 2. 下宿などで自立した学生生活ができるから |
| 3. 経済的理由から             |
| 4. 近親者・知人が住んでいるから      |
| 5. 有名校が多いから            |
| 6. 大都市で学生生活をさせたいから     |
| 7. 子どもがアルバイトをしやすいから    |
| 8. 子どもがその地域を好きだから      |
| 9. 外国で生活をさせたいから        |
| 10. その他 ( )            |

↓

6 ページの「C 外国語教育について」の項に進んでください。

I (a) あなたは今、なにか外国語を学んでおられますか。あてはまる番号に○をつけてください。

- |        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 1. はい  | (I (b) の質問へ進み、最後まで答えてください。)        |
| 2. いいえ | (7 ページのIV (a) の質問へ進み、最後まで答えてください。) |

(b) 前問で「1. はい」と答えられた方にさらにお知らせいたします。あなたは今、何語を学んでおられますか。あてはまる外国語を次の項目から3つまで(1~3個)選んで番号に○をつけてください。  
(言語名はアイエオ順ですー以下同様)

- |            |          |               |
|------------|----------|---------------|
| 1. アラビア語   | 2. イタリア語 | 3. 英語         |
| 4. 韓国・朝鮮語  | 5. スペイン語 | 6. スワヒリ語      |
| 7. 中国語     | 8. ドイツ語  | 9. フランス語      |
| 10. ポルトガル語 | 11. ロシア語 | 12. その他 ( ) 語 |

II あなたはなぜその外国語を学んでおられますか。その理由(複数回答可)を次の項目から選び、その番号を記入欄に書き入れてください。その際、外国語名も記入してください。

1. 趣味として
2. 外国旅行のため
3. 近親者、友人の母国語だから
4. 教養を身につけるため
5. 資格取得のため
6. 仕事で現在、または近い将来必要だから
7. 再就職、転職のため
8. 外国で生活するため
9. 国際交流、国際理解のため
10. その他 ( )

| 外国語   | 理由 (番号で記入=複数回答可) |
|-------|------------------|
| ( ) 語 |                  |
| ( ) 語 |                  |
| ( ) 語 |                  |

III あなたは外国語を学ばれて、どんなことができるようになりますか。次の項目から3つまで選びその番号に○をつけてください。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. 簡単なあいさつや日常会話ができる | 2. ニュース、映画等を聞いて楽しめる |
| 3. 簡単な案内、表示が理解できる   | 4. 簡単な手紙が書ける        |
| 5. 簡単な意見の交換ができる     | 6. 新聞、小説などを読んで理解できる |
| 7. 外国製品の説明書、手引書が読める | 8. 各種の試験に必要な語学力をつける |
| 9. 通訳ができる           | 10. 翻訳ができる          |
| 11. レポート、報告書などが書ける  | 12. 講義、講演を聴いて理解できる  |
| 13. 専門分野の文献が読める     | 14. 専門分野の論文が書ける     |
| 15. 会議などで発表、討論ができる  | 16. その他 ( )         |



VI(a) 将来、富山県内で外国語を使う機会は、ふえると思われますか。次の項目から選び番号に○をつけてください。

- |       |         |
|-------|---------|
| 1. 思う | 2. 思わない |
|-------|---------|

(b) 前問で「1. 思う」と答えられた方にさらにおたずねします。それは特にどのような理由からですか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1. 富山県と諸外国との経済技術交流が盛んになるだろうから | 3. 富山県と諸外国とのスポーツ文化交流が盛んになるだろうから |
| 2. 富山県と諸外国との親善訪問の機会がふえるだろうから  | 4. 富山県を訪れる外国人観光客の数がふえるだろうから     |
| 3. 富山県で働く外国人の数がふえるだろうから       | 5. 富山県内の留学生、研修生の数がふえるだろうから      |
| 4. 富山県で働く外国人の数がふえるだろうから       | 6. 富山県内の留学生、研修生の数がふえるだろうから      |
| 5. 富山県で働く外国人の数がふえるだろうから       | 7. その他 ( )                      |
| 6. 富山県内の留学生、研修生の数がふえるだろうから    |                                 |
| 7. その他 ( )                    |                                 |

VII 富山県に住んでいる人にとって、これからの外国語が一番必要になると思われますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |            |          |               |
|------------|----------|---------------|
| 1. アラビア語   | 2. イタリア語 | 3. 英語         |
| 4. 韓国・朝鮮語  | 5. スペイン語 | 6. スワヒリ語      |
| 7. 中国語     | 8. ドイツ語  | 9. フランス語      |
| 10. ポルトガル語 | 11. ロシア語 | 12. その他 ( ) 語 |

ご協力ありがとうございます

IV(a) 高校では外国語として英語だけが教えられていることが多いですが、これについてどう思われますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1. 英語だけでよい              |  |
| 2. 英語のほかに他の外国語も教えたほうがよい |  |
| 3. 英語をやめて他の外国語を教えたほうがよい |  |
| 4. その他 ( )              |  |

(b) 前問で「2」、「3」を選んだ方にさらにおたずねします。どの外国語を教えるかと思われれますか。次の項目から1つだけ選び番号に○をつけてください。

- |          |               |           |
|----------|---------------|-----------|
| 1. アラビア語 | 2. イタリア語      | 3. 韓国・朝鮮語 |
| 4. スペイン語 | 5. スワヒリ語      | 6. 中国語    |
| 7. ドイツ語  | 8. フランス語      | 9. ポルトガル語 |
| 10. ロシア語 | 11. その他 ( ) 語 |           |

V(a) あなたは富山県内で、外国語や日本語を使って、外国人とやりとりをされたことがありますか。それはどのような場合か、次の項目から選び番号に○をつけてください。(複数回答可)

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 道を教える際に          | 2. 友人としてまたは近所付き合いの中で  |
| 3. 家庭に留学生・研修生を受け入れて | 4. 地域・職場での外国人を招待した催しで |
| 5. 仕事で              | 6. 語学学校の外国人講師や留学生と    |
| 7. 文通して             | 8. その他 ( )            |
| 9. そのような機会はなかった     |                       |

(b) 前問で1～8を選んだ方にさらにおたずねします。その際、どの言葉が使われましたか。次の項目から選び番号に○をつけてください。(複数回答可)

- |               |            |          |
|---------------|------------|----------|
| 1. アラビア語      | 2. イタリア語   | 3. 英語    |
| 4. 韓国・朝鮮語     | 5. スペイン語   | 6. スワヒリ語 |
| 7. 中国語        | 8. ドイツ語    | 9. 日本語   |
| 10. フランス語     | 11. ポルトガル語 | 12. ロシア語 |
| 13. その他 ( ) 語 |            |          |